

千葉大学理学部

履修要項

平成25年度
(2013年度)

注 意 ！

『千葉大学理学部履修要項』は卒業するまでの履修に関する基本的説明書であるので、卒業するまでなくさないようにすること。

履修基準は、入学年度のもの適用される。従って、年度ごとに履修基準が改訂されても、入学年度に配付した『千葉大学理学部履修要項』に基づいて毎年度の履修計画を立てて下さい。

理学部で学ぶこと

理学部は、数学・情報数理学科、物理学科、化学科、生物学科、地球科学科の5学科に分かれています。私たち教員は、自然科学全般の基礎となる数理や情報を考察する数学・情報数理学から、物質の成り立ちを探求する物理・化学、身近な自然現象に密着しそのなぞを解き明かす生命・地球科学まで、自然科学全般の幅広い分野で基礎研究をおこなっています。皆さんは、4年間いずれかの学科でその基礎を学び、私たちと共に最先端の研究にもかかわることになりますが、学問としての各専門領域に判然とした区分があるわけではありません。むしろ、現代科学の現場では、さまざまな分野がお互いに影響し、また協力しあって、それらの境界領域で飛躍的な発展をとげています。私たちの社会は、基礎研究の成果として世間の注目を浴びた業績やアイデアをもとに、十年後には私たちの生活を豊かにする身近な製品として提供することができる科学技術も発展させてきました。学部の枠をこえた融合もすでに始まっているのです。

では、理学を学ぶということは、どういうことでしょうか。皆さんは、理学部を目指して勉強していたとき、同じような教科書を用い、同じような問題を解くために、同じような努力をしてきたことでしょうか。それでは、とてつもなく広く深い自然科学の大海に立ち向かうことはできません。自分自身の興味と自由な発想に基づき、意欲を持って取り組むことのできる分野とテーマを探してください。そのためには、自然科学全般にも目を向け、教員、大学院生、学生を問わず積極的に交流をし、異なった発想にふれることも大切です。この履修要項を繰り返し読んでください。皆さんが進む道を探すための指針となるでしょう。目標を定め、計画的に勉学に励み、身につけた確かな知識や技術を駆使して、未知の現象の解明に挑んでください。楽しいことばかりではないかもしれませんが、苦しみの中には、自らの手で新しいことを発見するよろこびが待っています。理学部は対象が何であれ未知なるものに挑戦する強い心を養うところであると、私は考えています。

しかし、それだけでは十分ではありません。専門の世界に閉じこもることは時として、人類はもとより地球そのものの存続すら脅かす、大きな過ちを犯すことにつながるかもしれません。目先の評価にとらわれることなく、科学技術の基礎となる研究に誇りを持って取り組みたいものですが、科学も社会と隔絶して存在することはできません。豊かな教養を身につけ、広く国際社会と交流し、自らを発信することが、今私達に求められています。この4年間は、自らを鍛えるための貴重な時間です。無限の可能性のある皆さんです。失敗を恐れることはありません。総合大学に学ぶ利点を生かし、様々なことに若々しい意欲と情熱をもって挑戦し、人間としても大いに成長してください。

理学部長 大橋 一世

平成25年度 (2013年度) 授 業 日 程

理 学 部

	授 業 日 程	履 修 登 録 期 間	行 事 等	
前 期 セ メ ス タ ー	4月12日 (金) 15週 (75日) 7月31日 (火) [・7月16日 (火) は、月曜日の授業を行う。 ・7月31日 (水) は、月曜日の授業を行う。]	≪登録期間≫ 4月12日 (金) } 4月26日 (金) ≪修正期間≫ 4月30日 (火) } 5月10日 (金) ≪取消期間≫ 5月13日 (月) } 5月17日 (金)	≪理学部ガイダンス≫ 4月5日 (金) ≪入学式≫ 4月8日 (月) ≪試験・補講日≫ 8月1日 (木) } 8月7日 (水)	≪春季休業≫ 4月1日 (月) } 4月7日 (日) ≪夏季休業≫ 8月8日 (木) } 9月30日 (月)
後 期 セ メ ス タ ー	10月1日 (火) { 4週1日 (21日) 10月31日 (木) 11月5日 (火) { 6週4日 (34日) 12月20日 (金) 1月6日 (月) { 4週日 (20日) 2月4日 (火) [・1月14日 (火) は、月曜日の授業を行う。 ・1月29日 (水) は、月曜日の授業を行う。 ・2月4日 (火) は、金曜日の授業を行う。]	≪登録・修正期間≫ 10月1日 (火) } 10月11日 (金) ≪取消期間≫ 10月15日 (火) } 10月25日 (金)	≪大学祭≫ 10月31日 (木) } 11月4日 (月) ≪試験・補講期間≫ 2月5日 (水) } 2月12日 (水) ・2月12日 (水) は、火曜日の試験・補講を行う。	≪創立記念日≫ 11月5日 (火) (授業あり) ≪冬季休業≫ 12月24日 (火) } 1月5日 (日) ≪臨時休業 (大学入試センター試験準備)≫ 1月17日 (金) (授業なし) ≪臨時休業≫ 2月13日 (木) } 3月31日 (月)
合計	30週			

(注) 原則として、期末試験は各セメスターの終わりの週または試験・補講の日とする。

平成25年度（2013年度） 授業カレンダー

理 学 部

		前 期 セ メ ス タ ー						
		日	月	火	水	木	金	土
4 月			1	2	3	4	5	6
		7	8	9	10	11	12	13
		14	15	16	17	18	19	20
		21	22	23	24	25	26	27
		28	29	30				

		後 期 セ メ ス タ ー						
		日	月	火	水	木	金	土
10 月				1	2	3	4	5
		6	7	8	9	10	11	12
		13	14	15	16	17	18	19
		20	21	22	23	24	25	26
		27	28	29	30	31		

5 月				1	2	③	④
		5	⑥	7	8	9	10
		12	13	14	15	16	17
		19	20	21	22	23	24
		26	27	28	29	30	31

11 月						1	2
		3	④	5◎	6	7	8
		10	11	12	13	14	15
		17	18	19	20	21	22
		24	25	26	27	28	29

6 月							1
		2	3	4	5	6	7
		9	10	11	12	13	14
		16	17	18	19	20	21
		23	24	25	26	27	28

12 月		1	2	3	4	5	6
		8	9	10	11	12	13
		15	16	17	18	19	20
		22	23	24	25	26	27
		29	30	31			

7 月			1	2	3	4	5
		7	8	9	10	11	12
		14	15	16*月	17	18	19
		21	22	23	24	25	26
		28	29	30	31*月		

1 月				①	2	3	4
		5	6	7	8	9	10
		12	13	14*月	15	16	17
		19	20	21	22	23	24
		26	27	28	29*月	30	31

8 月					1	2	3
		4	5	6	7	8	9
		11	12	13	14	15	16
		18	19	20	21	22	23
		25	26	27	28	29	30

2 月							1
		2	3	4*金	5	6	7
		9	10	11	12*火	13	14
		16	17	18	19	20	21
		23	24	25	26	27	28

9 月		1	2	3	4	5	6
		8	9	10	11	12	13
		15	16	17	18	19	20
		22	23	24	25	26	27
		29	30				

3 月							1
		2	3	4	5	6	7
		9	10	11	12	13	14
		16	17	18	19	20	21
		23	24	25	26	27	28

計		15	15	15	15	15	
---	--	----	----	----	----	----	--

計		15	15	15	15	15	
---	--	----	----	----	----	----	--

- 前期
- ・ 授業は7月31日(水)で終了
 - * 月曜日の12回目の授業を7月16日(火)に行う
 - * 月曜日の15回目の授業を7月31日(水)に行う
 - ・ 試験・補講期間 8月1日(木)～7日(水)
 - ・ 入学式 4月8日(月)
 - ・ ガイダンス等 4月5日(金)～11日(木)
 - ・ 春季休業 4月1日(月)～4月4日(木)
 - ・ 夏季休業 8月8日(木)～9月30日(月)

- 後期
- ・ 授業は2月4日(火)で終了
 - * 月曜日の11回目の授業を1月14日(火)に行う
 - * 月曜日の14回目の授業を1月29日(水)に行う
 - * 金曜日の15回目の授業を2月4日(火)に行う
 - ・ 試験・補講期間 2月5日(水)～12日(水)
 - (2月12日(水)は2月11日(火)の試験・補講日)
 - ・ 大学祭 10月31日(木)～4日(月)片付けを含む
 - ・ 創立記念日 11月5日(火) (授業あり)
 - ・ 大学入試センター試験準備 1月17日(金) (授業なし)
 - ・ 冬季休業 12月24日(火)～1月5日(日)
 - ・ 臨時休業 2月13日(木)～3月31日(月)

■ は通常授業日 □ は試験・補講日

目 次

1	千葉大学理学部規程	1
2	授業時間	6
3	注意事項	6
4	授業科目一覧	11
5	授業概要	43
6	教育職員免許状取得のための履修について	81
7	学芸員資格取得について	90
8	地球科学科における測量士補資格取得について	93
9	地球科学科におけるJABEEプログラム	94
10	事務手続等の案内	99
11	教員一覧	101
12	理学部クラス顧問教員	115
13	授業評価アンケートについて	115
14	平成25年度 学科別時間割表	117
15	学生への成績通知について	130

1 千葉大学理学部規程

(総 則)

第 1 条 千葉大学理学部（以下「本学部」という。）に関する事項は、千葉大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(目 的)

第 1 条の 2 本学部は、理学の基礎を学び、理解力と思考力を修得し、社会で活躍できる人材を育成することを目的とする。

(組 織)

第 2 条 本学部は、次の学科を置く。

数 学 ・ 情 報 数 理 学 科

物 理 学 科

化 学 科

生 物 学 科

地 球 科 学 科

2 数学・情報数理学科は、3年次に数学コースと情報数理学コースに分かれコース別に教育する。

(教育課程)

第 3 条 本学部の教育課程は、普遍教育科目及び専門教育科目により編成する。

(先進科学プログラムの実施)

第 4 条 本学部において、先進科学センターの支援のもと、学則第35条に定める先進科学プログラムを実施し、物理学科に先進科学プログラム（物理学・生命化学コース）、化学科に先進科学プログラム（物理化学コース）を置く。

(授業科目及び履修方法)

第 5 条 全学で運営する普遍教育科目及び専門基礎科目（学部が開放する科目を含む。）の授業科目、単位数及び履修方法は、千葉大学普遍教育等履修細則の定めるところによる。

2 専門科目の授業科目、単位数及び履修方法は、千葉大学理学部履修要項の定めるところによる。

3 教育職員免許状授与及び学芸員の資格取得に必要な授業科目、単位数及び履修方法は、千葉大学理学部履修要項の定めるところによる。

4 前 2 項に規定する千葉大学理学部履修要項は、各年度ごとに作成し、原則として、当該年度に入学する者に適用するものとする。

5 第 2 項の規定にかかわらず、先進科学プログラム（物理学コース及び物理化学・生命化学コース）に係る専門科目の授業科目、単位数及び履修方法は、別に定めるところによる。

(履修登録)

第 6 条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに学部長に届け出なければならない。

(物理学科における履修科目の登録単位数の上限)

第 7 条 物理学科においては、学則第40条の規定に基づき、卒業の要件として修得すべき単位数について、学生が履修科目として登録することができる単位数（以下「履修登録単位数」という。）の上限を、次のとおりとする。

1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
23(24)単位	23(24)単位	20(22)単位	20(22)単位	20(22)単位	20(22)単位	20(22)単位	20(22)単位

備考 () 内は、先進科学プログラム（物理学コース）を履修する学生の場合を示す。

2 前項の規定にかかわらず、前項に定める単位数のすべてを修得し、かつ、その授業科目の8割以上が秀(90～100点)又は優(80～89点)の成績である学生に係る次の学期における履修登録単位数の上限は、前項に定める単位数に6単位を加えるものとする。

3 前項により履修登録単位数の上限を認められた学生に係る次の学期における履修登録単位数の上限については、前項の規定を準用する。この場合において、「前項に定める単位数のすべて」とあるのは「前項に定める単位数以上のすべて」と読み替えるものとする。この項により履修登録単位数の上限を認められた学生についても、同様とする。

4 前3項に定めるもののほか、履修登録単位数の上限に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の計算方法)

第 8 条 本学部が開設する授業科目の単位数は、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義及び演習は、15時間の授業をもって1単位とする。
- 二 実験及び実習は、30時間の授業をもって1単位とする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 9 条 入学前の既修得単位等の認定に関し必要な事項は、別に定める。

(卒業単位数)

第 10 条 卒業に必要な単位数は、次のとおりとする。

学 科 名	普 遍 教 育 科 目							専 門 教 育 科 目		自 由 選 択	卒 業 単 位 数
	外国語科目		情報リテラシー科目	スポーツ・健康科目	教養コア科目	教養展開科目	小 計	専 門 基 礎 科 目	専 門 科 目		
	英 語 科 目	初 修 外 国 語									
数 学 ・ 情 報 科 学	4～8	0～4	2	1～2	6	6～9	26	16	78	6	126
	8～10										
物 理 学 科	4～8	0～4	2	1～2	6	6～9	26	37	62	6	131
	[6～10]	[0～4]									
	8～10										
	[10～12]										

学 科 名	普 遍 教 育 科 目							専 門 教 育 科 目		自 由 選 択	卒 業 単 位 数
	外国語科目		情 報 リ テ ラ シ ー 科 目	ス ポ ー ツ ・ 健 康 科 目	教 養 コ ア 科 目	教 養 展 開 科 目	小 計	専 門 基 礎 科 目	専 門 科 目		
	英 語 科 目	初 修 外 国 語									
化 学 科	4~8 〈6~10〉	0~4 〈0~4〉	2 〈2〉	1~2 〈1~2〉	6 〈6〉	6~9 〈6~9〉	26 〈28〉	21 〈25〉	79(81) 〈87(89)〉	6 〈6〉	132(134) 〈146(148)〉
	8~10 〈10~12〉										
生 物 学 科	4~8	0~4	2	1~2	6	6~9	26	14	72	12	124
	8~10 {8~10}										
地 球 学 科	4~8	0~4	2	1~2	6	6~9	26	21	72	8	127
	8~10										

- 備考 1 余剰に修得した初修外国語科目・教養展開科目及び専門教育科目の単位は、自由選択欄の単位数を限度として、卒業単位数に算入する。
- 2 [] 内は、先進科学プログラム（物理学コース）を履修する学生の場合を示す。
- 3 化学科専門科目の（ ）内は、英語科目の総単位数が4または5単位の場合、専門科目「化学英語（2単位）」を履修し、専門科目の総単位数を81単位以上にするを示す。
- 4 〈 〉内は、先進科学プログラム（物理化学・生命化学コース）を履修する学生の場合を示し、専門科目の《 》内は、英語科目の総単位数が6または7単位の場合、専門科目「化学英語（2単位）」を履修し、専門科目の総単位数を89単位以上にするを示す。

2 前項の規定にかかわらず、外国人留学生が卒業に必要な単位数は、次のとおりとする。

学 科 名	普 遍 教 育 科 目							専 門 教 育 科 目		自 由 選 択	卒 業 単 位	
	外国語科目		情 報 リ テ ラ シ ー 科 目	ス ポ ー ツ ・ 健 康 科 目	教 養 コ ア 科 目	教 養 展 開 科 目	日 本 事 務 情 報	小 計	専 門 基 礎 科 目			専 門 科 目
	日 本 語 科 目	英 語 科 目										
数学・情報数理学科	4~6	2~4	2	1~2	6	4~5	4	26	16	78	6	126
	8											
物 理 学 科	4~6	2~4	2	1~2	6	4~5	4	26	37	62	6	131
	8											
化 学 科	4~6	2~4	2	1~2	6	4~5	4	26	21	79 (81)	6	132
	8											
生 物 学 科	4~6	2~4	2	1~2	6	4~5	4	26	14	72	12	124
	8											
地 球 学 科	4~6	2~4	2	1~2	6	4~5	4	26	21	72	8	127
	8											

- 備考 1 余剰に修得した教養展開科目及び専門教育科目の単位は、自由選択欄の単位数を限度として、卒業単位数に算入する。
- 2 化学科専門科目の（ ）内は、英語科目の総修得単位が4または5単位の場合、専門科目「化学英語（2単位）」を履修し、専門科目の総単位数を81単位以上にする。
- 3 英語を母国語とする学生の英語科目は、日本語科目と英語科目以外の外国語科目とする。

(考 査)

第 11 条 授業科目を履修した学生に対しては、考査を行い、合格者に対して単位を与える。

2 考査は、試験、論文、報告書等により行う。

(試 験)

第 12 条 試験は、原則として学期の終わりに行う。ただし、授業科目によっては、随時行うことがある。

2 病気その他やむを得ない理由によって、試験を受けることができなかった者に対しては、願い出により追試験を行うことがある。

3 再試験は、原則として行わない。

(成績評価)

第 13 条 考査の成績は、秀 (90～100点)、優 (80～89点)、良 (70～79点)、可 (60～69点) 及び不可 (59点以下) の評語で表わし、秀、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。

(転部・転科)

第 14 条 転部、転科に関し必要な事項は、別に定める。

(卒業認定)

第 15 条 本学部にて 4 年 (本学部にて転部した学生にあつては、当該転部までの在学期間を含む。) 以上在学し、所定の単位を修得した者には、卒業の認定を行う。

(早期卒業)

第 16 条 前条の規定にかかわらず、物理学科にて 3 年以上在学した学生が、卒業の要件として修得すべき単位を優秀な成績で修得し、かつ、学則第 50 条に規定する早期卒業を希望する場合には、その卒業の認定を行うことができる。

2 前項の早期卒業に関し必要な事項は、別に定める。

(学位の授与)

第 17 条 本学部の卒業生には、学士 (理学) の学位を授与する。

(教育職員免許状)

第 18 条 教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法 (昭和 24 年法律第 147 号) 及び教育職員免許法施行規則 (昭和 29 年文部省令第 26 号) に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本学部において当該所要資格を取得できる教育職員免許状及び免許教科の種類は、次のとおりとする。

学 科	免 許 状	免許教科
数学・情報数理学科	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状	数 学 数 学 情 報
物 理 学 科	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状	理 科 理 科
化 学 科	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状	理 科 理 科
生 物 学 科	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状	理 科 理 科
地 球 科 学 科	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状	理 科 理 科

(雑 則)

第 19 条 この規程に定めるもののほか、本学部の教育課程に関し必要な事項は、別に定める。

(規程の改正)

第 20 条 この規程の改正は、教授会の議を経るものとする。

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 平成16年3月31日現在在学する者（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後に在学者の属する年次に編入学、転入学及び再入学する者に係る授業科目の履修方法、履修登録単位数の上限及び成績評価については、当該在学者の入学年度における国立大学法人法（平成15年第112号）附則別表第1の上欄に掲げる千葉大学において定められた千葉大学理学部規程（以下「旧規程」という。）の例による。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。ただし、平成17年3月31日現在在学する者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。ただし、平成18年3月31日現在在学する者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。ただし、平成19年3月31日現在在学する者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成20年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成24年3月31日現在在学する者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。ただし、平成25年3月31日現在在学する者については、なお従前の例による。

2 授 業 時 間

1日の授業時間は、次の時限区分によって行われる。

時 限	I	II	III	IV	V
時 刻	8：50～10：20	10：30～12：00	12：50～14：20	14：30～16：00	16：10～17：40

3 注 意 事 項

1. 普遍教育科目の履修について

理学部では、最初の2年間で卒業に必要な**普遍教育科目**及び**専門基礎科目**の単位を修得することを勧める。それは、学科によっては3年次から実験・実習等が集中し、履修が困難になる恐れがあるからである。各自4年間の履修計画を立てるに当たっては、決して無理をしてはいけない。しかし、履修基準というのは最低の卒業要件であるから、大いに意欲をもって多くの科目を履修し、十分な学殖を身につけて卒業してほしい。なお、**普遍教育科目**の中でも、科目によっては**専門基礎科目**として振替られるものもあるので、クラス顧問教員または教務委員等所属学科の教員にアドバイスを受け履修計画を立てること。

2. 専門教育科目の履修について

4年一貫教育の授業体制となり、1年次から専門教育科目の履修がはじまる。専門教育科目の所要単位のうち、必修科目の単位数が不足の場合は、たとえ卒業に必要な単位数以上を修得していても卒業できない。

なお、各授業科目の内容（シラバス）については、

- ・「授業概要」（43ページ～）
- ・Web履修登録画面
- ・千葉大学ホームページ（<http://www.chiba-u.ac.jp/>）→入試・学生生活→シラバス→理学部

で見ることができる。

- ・以上の点に注意し、各自、千葉大学理学部規程第10条（2ページ）「卒業に必要な単位数」の表に基づき履修計画を立てること。

3. 卒業研究について

4年次になると卒業研究を行う。これには基準があり、**普遍教育科目**及び**専門教育科目**の単位取得状況が影響するので、次ページの表を読み十分注意すること。

卒業研究履修の条件（卒業に必要な単位数に対する基準）

数学・情報数理学科	3年次終了時において、卒業に必要な単位数を90単位以上取得している者。
物 理 学 科	3年次終了時において、普遍教育科目の必修科目は卒業に要する単位の全てを取得しており、専門教育科目は3年次までの必修及び選択必修科目の単位数を全て取得している者。
化 学 科	3年次終了時において、普遍教育科目及び専門基礎科目は卒業に要する単位の全てを取得し、専門科目については未取得単位が卒業研究を除いて3単位以内の者。ただし実験科目の単位数はすべて取得してあること。
生 物 学 科	3年次終了時において、専門科目の選択必修科目を12単位以上、専門科目の実験6単位を取得し、これらを含め卒業に要する単位数を100単位以上取得している者。
地 球 学 科	3年次終了時において、普遍教育科目及び専門基礎科目は卒業に要する単位の全てを取得しており、専門科目は3年次までの必修及び選択必修科目の単位数を全て取得しているものとし、卒業研究と地球科学演習を除く未取得単位数が20単位以内の者。

4. 初修外国語の履修について

理学部における初修外国語の卒業単位数は0～4単位だが、できるだけ4単位またはそれ以上を履修することが望ましい。また、複数の言語にまたがって履修してもよいが、一言語を入門、基礎、中級とレベル順に履修することを推奨する。

5. 自由に選択できる科目（自由選択）について

理学部規程第10条「卒業に必要な単位数」の自由選択には、**普遍教育科目の初修外国語（一般学生のみ）と教養展開科目、及び専門教育科目の各分野**において、卒業要件を超えて修得した単位を充当できる。（他学部開講の科目は、「その他」の区分になり、自由選択には変更できません。）

6. 履修上の留意点

1) 学生は、学年またはセメスターの始めに、受講（または聴講）しようとする講義に出席して受講票を授業担当教員に提出し、その許可を得てから履修すること。受講票は理学部学務係窓口にて配布する。

※聴講…単位を必要とせず授業を聴くのみのこと

普遍教育科目及び共通専門基礎科目は受講票を提出する必要はない。また、英語科目、スポーツ・健康科目、実験の受講申し込みは通常の授業と異なる。詳細はGuidance 2013を参照のこと。

2) 受講を希望する授業科目の最初の講義に出席した後、履修登録をしなければならない。この手続きが終了して、はじめて受講が可能になる。ただし、聴講の場合は履修登録の必要はない。（履修登録は、学内の指定のパソコンから学生が直接登録を行う。登録期間は、巻頭の「平成25年度 授業日程」を参照。）

※履修登録期間外の科目の登録・削除については、履修科目登録届（学務係窓口で入手）に登録・削除理由を記入し、授業担当教員の許可（押印またはサイン）を得て、学務係に提出するものとする。

3) 単位を取得するには、原則として当該授業科目の授業時間数の全てに出席し、考査等に合格することが必要である。

4) 普遍教育科目及び共通専門基礎科目の授業に関すること（時間割、休講、試験、成績等）は普遍教育学務係（総合校舎）で取り扱う。

7. 集中講義（専門科目）の履修登録について

1) 履修の登録は、年度当初に履修計画を立て日程の決定・未定に関わらずWeb履修登録期間中に通常の授業と同様に学内の指定のパソコンから履修登録をすること。

2) 履修の取消しについては以下のとおりとする。

① Web履修登録・修正・取消期間の際わかっている場合は、通常の授業と同様に学内の指定のパソコンから履修取消しを行うこと。

なお、登録・修正・取消期間については巻頭「平成25年度 授業日程」を参照のこと。

② Web履修登録・修正・取消期間以降に判明したものは当該授業開始後2日以内（土、日、祝日を除く）までに学務係窓口に申し出て履修取消しを行うこと。

③ 抽選漏れなどの際も学生からの履修取消しの申し出がない場合、成績は「不可」となるので必ず履修取消しを行うこと。

8. 卒業について

修業年限以上在学した者で、卒業に必要な単位を全て修得し、卒業研究に合格した者に対して卒業を認定し、学士の学位を授与する。

9. 自然災害・事故等及び交通機関のストライキに伴う授業の措置について

1) 自然災害・事故及び交通機関のストライキ等に伴い、各キャンパスの最寄駅を運行する全線の列車が運行停止となった場合。

① 午前6時30分までに運行しない場合は、第1及び第2時限の授業を臨時休講とする。

② 午前10時までに運行しない場合は、第3、第4及び第5時限の授業を臨時休講とする。

③ 正午までに運行しない場合は、第6及び第7時限の授業を臨時休講とする。

2) 台風等により、気象庁から各キャンパスの所在地域に「暴風警報」（以下「警報」という。）が発令された場合。

① 午前6時30分までに警報が解除されない場合は、第1及び第2時限の授業を臨時休講とする。

② 午前10時までに警報が解除されない場合は、第3、第4及び第5時限の授業を臨時休講とする。

③ 正午までに警報が解除されない場合は、第6及び第7時限の授業を臨時休講とする。

④ 授業の開始後、警報が発令された場合は、当日のその後に開始する授業を臨時休講とする。

3) 各キャンパスの最寄駅を運行する全線の列車が運行停止とはなっていないが、台風の接近等により運行停止が見込まれる場合、又はその他の事由により通学及び帰宅が困難と判断される場合。

各部局の状況等を勘案し、教育担当理事がキャンパスごとに決定する。

4) 部局の事情により、上記1～3の取扱いにより難い特別の事情がある場合。

当該部局長の判断により取扱いを決定することができる。なお、この場合は、当該措置後、速やかに教育担当理事にその状況を報告する。

5) 休講等の措置に係る学生及び教員等への周知方法。

ホームページ、統合メール通知板及び一斉メール配信等を活用し、速やかな周知を図る。

6) 教育実習等の場合の取扱い。

教育実習、臨床実習、介護等体験実習及びインターンシップ等の場合は、各実習先の指示に従う。

7) 自然災害による甚大は被害により、交通機関の復旧が長期にわたる場合。

その状況に即し、学長が適宜決定する。

※1及び3の最寄り駅は、「西千葉地区…西千葉駅及びみどり台駅」、「亥鼻地区…千葉駅及び千葉中央駅」、「松戸地区…松戸駅」及び「柏の葉地区…柏の葉キャンパス駅」とする。

10. 千葉大学における授業の公欠に関する取扱いについて

次に該当する事由により授業に出席することができない場合、公欠届及び添付書類を提出することにより、公欠扱いとなる。

1) 該当する欠席事由

- ① 忌引き（二親等以内）の場合
- ② 学校保健法施行規則第19条に規定する伝染病に罹患した場合、又は感染したおそれがある場合
- ③ 教育実習・介護等体験等のうち当該学生の所属する学部、研究科又は学府（以下「学部等」という。）の長が必要と認める場合

※理学部では、教育実習・介護等体験のほか博物館実習により授業に出席できない場合についても公欠扱いとすることができる

- ④ 課外活動において、関東甲信越大学体育大会、東日本医学生体育大会等又は全国大会以上の大会に出場する場合

2) 公欠届の手続き

① 理学部学務係での手続き

期 間：事前または出席可能となった後、一週間以内

必要なもの：公欠届（理学部学務係窓口で配布）

添付書類（公欠届の裏面 記入上の注意 を参照のこと）

② 担当教員への提出

当該授業科目の担当教員に提出する。

（非常勤講師の方は、授業がある日しか大学には来ていませんので、授業の前後に提出するようになしてください）

11. 専門科目の共通科目化について

平成16年度より専門教育をより充実させるため、他学部で開講される授業科目のうち各学科で指定する科目（10ページの表を参照）を自由選択として履修できるようになった。

なお、履修するにあたっては、次の事項に留意すること。

- 1) 授業科目によっては隔年開講もあり、毎年開講されているとは限らない。
- 2) それぞれの科目の事情により、受入れ人数が制限されることがあるので、担当教員の許可を得ること。

- 3) 担当教員の許可を得たら、「共通科目履修登録届（理学部学務係窓口で配布）」に記入のうえ、履修登録期間内に理学部学務係に提出すること。
- 4) 「4 授業科目一覧（11ページ以降）」の各学科のページにも説明があるのでよく読むこと。

学 科	学科で指定する科目	開講学部・学科
化 学 科	触媒化学	工学部 物質工学科
	情報科学基礎論 a	文学部 行動科学科
	情報科学基礎論 b	文学部 行動科学科
生 物 学 科	神経情報処理基礎論 a	文学部 行動科学科
	データ解析基礎論 a	文学部 行動科学科
	データ解析基礎論 b	文学部 行動科学科
地 球 学 科	情報科学基礎論 a	文学部 行動科学科
	データ解析基礎論 a	文学部 行動科学科
	データ解析基礎論 b	文学部 行動科学科

12. GPA：科目成績平均値（Grade Point Average）について

平成16年度入学者から適用する。

GPAの詳細についてはGuidance 2013を参照すること。

また、次の事項にも注意すること。

- ・他大学で取得した単位互換科目、認定科目及び卒業要件とならない科目はGPAに算入しない。
- ・履修登録した科目の取消期間は巻頭「授業日程」を参照すること。

ただし、集中講義については8ページ 7. 集中講義（専門科目）の履修登録についてを参照のこと。

13. その他

授業の休講、集中授業の開講通知、授業料関係、奨学金関係等、学生に関する通知は学務係掲示板（理学部1号館1階）に掲示する。一日一回は必ず掲示板を見るようにすること。

4 授 業 科 目 一 覧

《数学・情報数理学科》

<数学コース・情報数理学コース共通>

※担当教員の（ ）付きは、非常勤講師を表します。

科目区分	授業科目名	単 位			履修年次	平成25年度開講状況					
		講義	演習	実習 実験		担当教員	期別	曜日	時 限	教 室	備 考
必修	スタートアップセミナー			2	1	全 教 員	前期	木	I	4号館1階マルチメディア講義室1	
	計 算 機 演 習		2		1	桜井 貴文 山本 光晴	前期	月	IV	総合メディア基盤センター	普遍教育科目 情報リテラシー科目
	数 学 の 基 礎 I	2			1	藤川 英華	前期	火	III	大講義室	平成19年度以降入学者のみ ※平成18年度以前入学者は 数学の基礎の読み替え用 代替科目としてのみ履修可
	数 学 の 基 礎 II	2			1	北詰 正顕	後期	火	III	大講義室	平成19年度以降入学者のみ ※平成18年度以前入学者は 代数入門の読み替え用代 替科目としてのみ履修可
	代 数 学 I	2			2	越谷 重夫	前期	水	II	4号館1階マルチメディア講義室1	
	代 数 学 II	2			2	西田 康二	後期	水	II	4号館2階マルチメディア講義室2	
	プ ロ グ ラ ミ ン グ	2			1	桜井 貴文	前期	金	II	4号館1階マルチメディア講義室1	
	情報システム基礎論	2			1	山本 光晴	後期	金	II	4号館1階マルチメディア講義室1	
	デ ー タ 構 造 概 論	2			2	多田 充	前期	月	II	564	
	コ ン プ ュ ー タ 数 理 学		2		2	佐々木浩宣	前期	金	IV	123	
	情 報 学 演 習		2		1	山本 光晴 萩原 学	後期	月	IV	総合メディア基盤センター	
	微 積 分 学 統 論 I	2			2	佐々木浩宣	前期	木	III	4号館1階マルチメディア講義室1	平成19年度以降入学者のみ ※平成18年度以前入学者は 微積分学C3の読み替え 用代替科目としてのみ履 修可
	線 形 代 数 学 統 論	2			2	大坪 紀之	前期	水	V	大講義室	平成19年度以降入学者のみ ※平成18年度以前入学者は 線形代数学C3の読み替 え用代替科目としてのみ 履修可
	代 数 学 演 習		2		2	北詰 正顕	前期	火	II	大講義室	平成19年度以降入学者のみ ※平成18年度以前入学者は 数学演習Ⅲの読み替え用 代替科目としてのみ履修 可
	微 積 分 学 統 論 II	2			2	筒井 亨	後期	木	III	4号館1階マルチメディア講義室1	平成19年度以降入学者のみ ※平成18年度以前入学者は 微積分学C4の読み替 え用代替科目としてのみ履 修可
	位 相 空 間 論	2			2	梶浦 宏成	後期	月	II	4号館1階マルチメディア講義室1	平成19年度以降入学者のみ ※平成18年度以前入学者は 位相空間論Ⅰの読み替 え用代替科目としてのみ履 修可
位 相 演 習		2		2	前田 昌也	後期	火	II	D-54 (未定)	平成19年度以降入学者のみ ※平成18年度以前入学者は 数学演習Ⅳの読み替 え用代替科目としてのみ履 修可	

					平成25年度開講状況						
科目区分	授業科目名	単 位			履修 年次	担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	備 考
		講 義	演 習	実 習 実 験							
必修	卒業研究			6	4	各教員	通期				
	位相空間論Ⅱ	2			2	筒井 亨	後期	金	Ⅱ		平成18年度以前入学者のみ
	複素関数論	2			3	藤川 英華	前期	月	Ⅲ	4号館1階 マルチメ ディア講義 室1	平成19年度以降入学者のみ ※平成18年度以前入学者は 複素関数論Ⅰの読み替え 用代替科目としてのみ履 修可
	関数論演習		2		3	藤川 英華	前期	月	Ⅳ	4号館1階 マルチメ ディア講義 室1	平成19年度以降入学者のみ
選択	代数学特論Ⅰ	2			3～4	(倉島裕樹)	通期	集中			
	幾何学特論Ⅲ	2			3～4	(小山 晃)	通期	集中			
	幾何学特論Ⅶ	2			3～4	稲葉 尚志	後期	月	Ⅱ		
	代数学特論Ⅳ	2			3～4	松田 茂樹	前期	月	Ⅱ		
	数理解析学特論Ⅴ	2			3～4	(山崎文明)	通期	集中			
	解析学特論Ⅶ	2			3～4	渚 勝	後期	木	Ⅲ		
	統計数理学特論Ⅵ	2			3～4	(津熊久幸)	通期	集中			
	統計数理学特論Ⅶ	2			3～4	井上 玲	後期	月	Ⅳ		
	情報数理学特論Ⅳ	2			3～4	新井 敏康	後期	水	Ⅱ		
	情報数理学特論Ⅴ	2			3～4	(河野健二)	通期	集中			
	情報数理学特論Ⅶ	2			3～4	萩原 学	後期	火	Ⅲ	1 2 2	
	情報化と社会	2			1	多田 充	前期	水	Ⅳ	F-51 (未定)	
択	職業的情報学Ⅰ	1			3～4						
	職業的情報学Ⅱ	1			3～4	(伊知地宏) (的場ひろし) (阿部正佳)	通期	集中			

<数学コース>

※担当教員の（ ）付きは、非常勤講師を表します。

					平成 25 年 度 開 講 状 況						
科目区分	授業科目名	単 位			履修年次	担当教員	期別	曜日	時限	教室	備考
		講義	演習	実習 実験							
選 択 必 修	代 数 学 続 論	2			3～4	安藤 哲哉	前期	火	Ⅱ	4号館2階 マルチメ ディア講義 室2	
	幾 何 学	2			3	久我 健一	前期	木	Ⅲ	4号館2階 マルチメ ディア講義 室2	
	多 様 体 論 I	2			3	杉山 健一	前期	水	Ⅳ	1 4 1	
	多 様 体 論 II	2			3	梶浦 宏成	後期	水	Ⅳ	4号館2階 マルチメ ディア講義 室2	
	トポロジー	2			3	杉山 健一	後期	木	Ⅲ	1 2 1	
	現代解析 I	2			3	渚 勝	前期	金	Ⅱ	総合校舎 D-51	
	現代解析 II	2			3	松井 宏樹	後期	金	Ⅱ	1 2 3	
	微分方程式論 I	2			3	石村 隆一	前期	水	Ⅱ	1 4 1	
	微分方程式論 II	2			3	岡田 靖則	後期	水	Ⅱ	4号館1階 マルチメ ディア講義 室1	
	確 率 論 I	2			3	種村 秀紀	前期	火	Ⅳ	4号館1階 マルチメ ディア講義 室1	
	確 率 論 II	2			3	種村 秀紀	後期	火	Ⅳ	1 2 3	
	数理統計学	2			3	汪 金芳	前期	水	Ⅲ	大講義室	
	数理統計学演習		2		3	笹本 智弘	後期	水	Ⅲ	1 2 2	
	アルゴリズム論	2			2	多田 充	後期	月	Ⅲ	1 4 1	
計算機科学概論		2		2	山本 光晴	後期	金	Ⅳ	1 2 3		
選 択	数 値 計 算 法	2			3	渚 勝	後期	火	Ⅱ	4号館2階 マルチメ ディア講義 室2	
	情報数学 I	2			3	新井 敏康	前期	木	Ⅲ	1 2 3	
	情報数学 II	2			3	萩原 学	前期	火	Ⅲ	1 2 2	
	プログラミング言語論 I	2			3	山本 光晴	前期	木	Ⅱ	1 2 1	
	プログラミング言語論 II	2			3	桜井 貴文	後期	木	Ⅱ	1 2 1	
	計 算 理 論	2			3	新井 敏康	後期	木	Ⅲ	1 2 3	
	コ ン パ イ ラ	2			3～4	(山口文彦)	通期	集中		2号館6階 609	
	ソフトウェア演習 I		2		3	桜井 貴文	前期	金	Ⅲ	1 2 1	
ソフトウェア演習 II		2		3	桜井 貴文	後期	金	Ⅲ	1 4 1		

<情報数理学コース>

※担当教員の（ ）付きは、非常勤講師を表します。

					平成25年度開講状況						
科目区分	授業科目名	単 位			履修年次	担当教員	期別	曜日	時限	教室	備考
		講義	演習	実習 実験							
必修	アルゴリズム論	2			2	多田 充	後期	月	Ⅲ	141	
	計算機科学概論		2		2	山本 光晴	後期	金	Ⅳ	123	
選択必修	数値計算法	2			3	渚 勝	後期	火	Ⅱ	4号館2階 マルチメディア講義室2	
	情報数学Ⅰ	2			3	新井 敏康	前期	木	Ⅲ	123	
	情報数学Ⅱ	2			3	萩原 学	前期	火	Ⅲ	122	
	プログラミング言語論Ⅰ	2			3	山本 光晴	前期	木	Ⅱ	121	
	プログラミング言語論Ⅱ	2			3	桜井 貴文	後期	木	Ⅱ	121	
	計算理論	2			3	新井 敏康	後期	木	Ⅲ	123	
	コンパイラ	2			3~4	(山口文彦)	通期	集中		2号館6階 609	
	ソフトウェア演習Ⅰ		2		3	桜井 貴文	前期	金	Ⅲ	121	
ソフトウェア演習Ⅱ		2		3	桜井 貴文	後期	金	Ⅲ	141		
選択	代数学続論	2			3~4	安藤 哲哉	前期	火	Ⅱ	4号館2階 マルチメディア講義室2	
	幾何学	2			3	久我 健一	前期	木	Ⅲ	4号館2階 マルチメディア講義室2	
	多様体論Ⅰ	2			3	杉山 健一	前期	水	Ⅳ	141	
	多様体論Ⅱ	2			3	梶浦 宏成	後期	水	Ⅳ	4号館2階 マルチメディア講義室2	
	トポロジー	2			3	杉山 健一	後期	木	Ⅲ	121	
	現代解析Ⅰ	2			3	渚 勝	前期	金	Ⅱ	141	
	現代解析Ⅱ	2			3	松井 宏樹	後期	金	Ⅱ	123	
	微分方程式論Ⅰ	2			3	石村 隆一	前期	水	Ⅱ	141	
	微分方程式論Ⅱ	2			3	岡田 靖則	後期	水	Ⅱ	4号館1階 マルチメディア講義室1	
	確率論Ⅰ	2			3	種村 秀紀	前期	火	Ⅳ	4号館1階 マルチメディア講義室1	
	確率論Ⅱ	2			3	種村 秀紀	後期	火	Ⅳ	123	
	数理統計学	2			3	汪 金芳	前期	水	Ⅲ	大講義室	
数理統計学演習		2		3	笹本 智弘	後期	水	Ⅲ	122		

◎ 数学コースと情報数理学コース

- ・ 3年次から志望と適性により、数学コースと情報数理学コース（情報数理学コースの学生数はおおよそ2割程度である）に分かれて、教育を受ける。

◎ 卒業に必要な単位数：合計126単位

(イ) 普遍教育科目：26単位

一般学生

- ・ 外国語科目：8～10単位
英語科目を4～8単位
初修外国語科目を0～4単位（英語以外の外国語からいくつかはまたがって履修してよい）
- ・ 情報リテラシー科目：2単位
理学部開講の計算機演習（2単位）を受講すること
- ・ スポーツ・健康科目：1～2単位
- ・ 教養コア科目：6単位（コアA～Fを各1単位）
- ・ 教養展開科目：6～9単位

留学生

- ・ 外国語科目：8単位
日本語を4～6単位
英語科目（英語を母国語とする学生は、英語及び日本語以外の外国語科目）を2～4単位
- ・ 情報リテラシー科目：2単位
理学部開講の計算機演習（2単位）を受講すること
- ・ スポーツ・健康科目：1～2単位
- ・ 教養コア科目：6単位（コアA～Fを各1単位）
- ・ 教養展開科目：4～5単位
- ・ 日本事情：4単位

(ロ) 専門教育科目：92単位

・ 専門基礎科目：16単位

必修科目：16単位

微積分学B 1、微積分学B 2、線形代数学B 1、線形代数学B 2、微積分学演習B 1、微積分学演習B 2、線形代数学演習B 1、線形代数学演習B 2（以上1年次必修）、統計学B 1、統計学B 2（以上2年次必修）

これらの科目は全て指定クラスの授業を履修すること

・ 専門科目：78単位

数学コース

必修科目：42単位

選択必修科目：14単位以上

選択科目：必修科目及び選択必修科目で78単位に不足する単位数を修得

情報数理学コース

必修科目：46単位

選択必修科目：12単位以上

選択科目：必修科目及び選択必修科目で78単位に不足する単位数を修得

(ハ) 自由選択：6単位

- ・ 普遍教育科目：初修外国語科目（一般学生のみ）及び教養展開科目で卒業要件を超えて修得した単位を充当できる。
- ・ 専門教育科目：卒業単位を超えて修得した単位を充当できる。

◎ 履修上の注意

- ・ 平成18年度以前の入学者の必修科目のうち、一部科目は以下のとおり読み替える。

平成18年度以前入学者必修科目	代 替 科 目
微積分学C 1	微積分学B 1（指定クラスの授業）
微積分学C 2	微積分学B 2（指定クラスの授業）
微積分学C 3	微積分学続論 I
微積分学C 4	微積分学続論 II
線形代数学C 1	線形代数学B 1（指定クラスの授業）
線形代数学C 2	線形代数学B 2（指定クラスの授業）
線形代数学C 3	線形代数学続論
統計学C 1	統計学B 1（指定クラスの授業）
統計学C 2	統計学B 2（指定クラスの授業）
数学演習 I	微積分学演習B 1（指定クラスの授業）と 線形代数学B 1（指定クラスの授業）
数学演習 II	微積分学演習B 2（指定クラスの授業）と 線形代数学B 2（指定クラスの授業）
数学演習 III	代数学演習
数学演習 IV	位相演習
数学の基礎	数学の基礎 I
代数入門	数学の基礎 II
位相空間論 I	位相空間論
複素関数論 I	複素関数論

なお、平成18年度以前入学者は、右側に挙げられた科目は、上記の読み替え用代替科目として履修する場合を除き、履修できない。また、平成19年度以降入学者は、左側に挙げられた科目および位相空間論 II（さらに、普遍教育の専門基礎科目の線形代数学C 4）は履修できない。

◎ 卒業研究履修の条件

卒業するために今後取得しなければならない単位が「卒業研究」を含めて36単位以内の者。

◎ 学部共通英語科目の履修について

「科学英語 I」及び「科学英語 II」を履修した場合は専門科目 選択科目の単位として認められる。

◎ 理学部他学科及び他学部の授業の履修について

理学部他学科の授業科目は、自由選択として履修できる。他学部の学部開放科目及びそれ以外の科目については、自由選択として履修したい場合は、各セメスターの初めの履修登録前に数学・情報数理学科教務委員に届け出ること。授業内容が自由選択としてふさわしいと承認を受けた場合、自由選択として履修することができる。

◎ 自然科学系大学院で開講のベンチャービジネス関係科目の履修について

「ベンチャービジネス論」及び「ベンチャービジネスマネジメント」の単位を取得した場合は自由選択の単位として認められる。

《物 理 学 科》

※担当教員の（ ）付きは、非常勤講師を表します。

科目区分	授業科目名	単 位			履修年次	平成 25 年 度 開 講 状 況					備 考
		講義	演習	実習 実験		担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	
必修	現代物理学	2			1	全 教 員 (瀬戸秀紀)	前期	月	I	大講義室	(一部集中)
	物理数学Ⅰ	2			1	櫻井 建成	前期	水	I	大講義室	
	物理数学Ⅱ	2			1	倉澤 治樹	後期	水	I	大講義室	旧 物理数学A
	力学	2			2	(中村 敦)	前期	火	IV	大講義室	旧 力学Ⅰ
	力学演習		1		2	(海老原亨)	前期	月	Ⅱ	1 4 1	旧 力学演習Ⅰ
	計算物理学	2			2	松元 亮治	前期	木	I	1 2 3	科目等履修生受講不可
	物理数学Ⅲ	2			2	山田 篤志	前期	木	Ⅲ	大講義室	旧 物理数学B
	物理数学Ⅳ	2			2	岩崎 三郎	後期	木	Ⅲ	1 4 1	
	電磁気学	2			2	大濱 哲夫	後期	金	I	1 2 3	
	電磁気学演習		1		2	岩崎 三郎	後期	木	V	1 4 1	
	量子力学Ⅰ	2			3	倉澤 治樹	前期	火	Ⅱ	1 4 1	旧 量子力学A
	量子力学演習Ⅰ		2		3	中山 隆史	前期	月	Ⅳ	1 2 3	
	統計物理学Ⅰ	2			3	太田 幸則	前期	火	V	1 2 3	
	統計物理学演習Ⅰ		2		3	横田 紘子	前期	月	V	調整中	
	量子力学Ⅱ	2			3	中山 隆史	後期	木	Ⅱ	大講義室	旧 量子力学B
	量子力学演習Ⅱ		2		3	中田 仁	後期	月	Ⅱ	1 4 1	
	統計物理学Ⅱ	2			3	太田 幸則	後期	火	V	1 2 3	
	統計物理学演習Ⅱ		2		3	山田 篤志	後期	金	Ⅱ	大講義室	
物理学実験			6	3	全 教 員 (福田茂一) (野田耕治) (高田栄一)	通期	金	Ⅲ~Ⅴ			
選択必修	卒業研究			6	4	全 教 員	通期	集中		各研究室	
	基礎物理学演習Ⅰ		4		4	近藤 慶一 山田 篤志	通期	集中		各研究室	
	基礎物理学演習Ⅱ		4		4	松元 亮治 宮路 茂樹 花輪 知幸	通期	集中		各研究室	
	基礎物理学演習Ⅲ		4		4	河合 秀幸 吉田 滋 間瀬 圭一	通期	集中		各研究室	
	計算物理学演習Ⅰ		4		4	倉澤 治樹 岩崎 三郎 中田 仁	通期	集中		各研究室	
	計算物理学演習Ⅱ		4		4		通期	集中		研究室	
	計算物理学演習Ⅲ		4		4	中山 隆史	通期	集中		各研究室	
	計算物理学演習Ⅳ		4		4	太田 幸則	通期	集中		各研究室	
	凝縮系物理学演習Ⅰ		4		4	音 賢一 中嶋 誠	通期	集中		各研究室	

					平成25年度開講状況						
科目区分	授業科目名	単 位			履修 年次	担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	備 考
		講 義	演 習	実 習 実 験							
選 択 必 修	凝縮系物理学演習Ⅱ		4		4	小堀 洋 大濱 哲夫 深澤 英人 横田 紘子	通期	集中		各研究室	
	凝縮系物理学演習Ⅲ		4		4	櫻井 建成 北畑 裕之	通期	集中		各研究室	
選 択	物理数学演習Ⅰ		1		1	間瀬 圭一	前期	水	Ⅲ	1 2 3	
	物理数学演習Ⅱ		1		1	近藤 慶一	後期	水	Ⅲ	1 2 3	旧 物理数学演習 A
	物理数学演習Ⅲ		1		2	山田 篤志	前期	木	Ⅳ	大講義室	旧 物理数学演習 B
	物理数学演習Ⅳ		1		2	岩崎 三郎	後期	木	Ⅳ	1 4 1	旧 物理数学演習 C
	計算物理学実習Ⅰ			2	3	宮路 茂樹	前期	火	Ⅳ	1 2 3	(一部集中)
	計算物理学実習Ⅱ			2	3	全 教 員	後期	集中		各研究室	
	流 体 力 学	2			3	(横井喜充)	前期	木	Ⅱ	1 4 1	
	特 殊 相 对 論	2			3	吉田 滋	前期	金	Ⅱ	1 2 3	旧 基礎物理学特論Ⅰ
	素 粒 子 物 理 学	2			3	河合 秀幸	後期	月	Ⅲ	1 2 2	旧 素粒子物理学Ⅰ
	原 子 核 物 理 学	2			3	中田 仁	後期	水	Ⅲ	1 4 1	
	宇 宙 物 理 学 A	2			3	松元 亮治	後期	水	Ⅳ	1 2 2	旧 宇宙物理学
	物 性 物 理 学 A	2			3	音 賢一	前期	木	Ⅲ	1 4 1	
	物 性 物 理 学 B	2			3	小堀 洋 中嶋 誠	後期	水	Ⅱ	1 2 2	
	物 性 物 理 学 C	2			3	北畑 裕之	後期	火	Ⅳ	1 4 1	
	放 射 線 物 理 学	2			3～4	(福田茂一) (野田耕治) (高田栄一)	後期	木	V	1 2 1	
	非平衡系の統計物理学	2			3～4	(瀬戸秀紀)	通期	集中			
	物 性 物 理 学 特 論	2			3～4	(野村健太郎)	通期	集中			
	宇 宙 物 理 学 特 論	2			3～4	(北本俊二)	通期	集中			
	力 学 特 論	2			4	近藤 慶一	後期	火	Ⅱ	1 2 2	
	電 磁 気 学 特 論	2			3～4	中嶋 誠	前期	水	Ⅱ	1 2 2	
	相 对 論 特 論	2			4	近藤 慶一	後期	月	Ⅱ	1号館1階 セミナー室	
	量 子 力 学 特 論	2			4	倉澤 治樹	後期	火	Ⅲ	1 4 1	
	場 の 量 子 論 入 門	2			4	山田 篤志	後期	金	Ⅳ	1 2 2	
統 計 物 理 学 Ⅲ	2			4	太田 幸則	前期	火	Ⅲ	1 2 1		
宇 宙 物 理 学 B	2			4	松元 亮治 吉田 滋	前期	月	Ⅱ	1号館1階 セミナー室		
計算物理学特別講義Ⅰ	1			2～4	全 教 員	通期	集中				
計算物理学特別講義Ⅱ	1			2～4	全 教 員	通期	集中				

・平成25年度開講しない科目

科目区分	授業科目名	単 位			履修年次
		講義	演習	実習 実験	
選択必修	計算物理学演習 2	4			4
選択	物性論特論 I	2			4
	基礎物理学特別講義 I	1			2～4
	基礎物理学特別講義 II	1			2～4
	凝縮系物理学特別講義 I	1			2～4
	凝縮系物理学特別講義 II	1			2～4
	物理機器学	2			4

◎ 卒業に必要な単位数：合計131単位

(イ) 普遍教育科目：26単位

一般学生

・外国語科目：8～10単位

英語科目を4～8単位（1年次に4単位履修することを推奨する）

初修外国語科目を0～4単位（英語以外の外国語からいくつかにまたがって履修してよい）

・情報リテラシー科目：2単位（第一セメスターのクラス指定科目で履修する）

・スポーツ・健康科目：1～2単位（1年次での履修を推奨する）

・教養コア科目：6単位（コアA～Fを各1単位 第一セメスターで受講する）

・教養展開科目：6～9単位

数学・統計学・物理学・化学関係の教養展開科目は卒業要件単位とならないので注意すること

留学生

・外国語科目：8単位

日本語を4～6単位

英語科目（英語を母国語とする学生は、英語及び日本語以外の外国語科目）を2～4単位

・情報リテラシー科目：2単位（第一セメスターのクラス指定科目で履修する）

・スポーツ・健康科目：1～2単位

・教養コア科目：6単位（コアA～Fを各1単位 第一セメスターで受講する）

・教養展開科目：4～5単位

数学・統計学・物理学・化学関係の教養展開科目は卒業要件単位とならないので注意すること

・日本事情：4単位

(ロ) 専門教育科目：99単位以上

・専門基礎科目：37単位（必修科目）

必修科目：29単位

微積分学B 1（2単位 第一セメスター）、微積分学B 2（2単位 第二セメスター）、

線形代数学B 1（2単位 第一セメスター）、線形代数学B 2（2単位 第二セメスター）、

物理学B I（2単位 第一セメスター）、物理学演習B I（1単位 第一セメスター）、

物理学B II（2単位 第二セメスター）、物理学演習B II（1単位 第二セメスター）、

物理学C I（2単位 第二セメスター）、物理学演習C I（1単位 第二セメスター）、

物理学CⅡ（2単位 第三セメスター）、物理学演習CⅡ（1単位 第三セメスター）、
物理学DⅠ（2単位 第四セメスター）、物理学演習DⅠ（1単位 第四セメスター）、
物理学EⅠ（2単位 第四セメスター）、物理学演習EⅠ（1単位 第四セメスター）、
物理学基礎実験Ⅰ（1単位 第二セメスター）、物理学基礎実験Ⅱ（1単位 第二セメスター）、
化学基礎実験（1単位 第二セメスター：生物学基礎実験Ⅰ、地学基礎実験Bで振替え可能）

選択必修科目：8単位以上

以下から修得すること。

数学

微積分学関係科目と線形代数学関係科目以外の専門基礎講義科目

化学（2～3年次に履修することを推奨）

物理化学A（2単位）、物理化学B（2単位）

生物学

生命科学入門（2単位）

地球科学

地学概論A（2単位）、地学概論B（2単位）

物理学実験（2年次に履修することを推奨）

物理学基礎実験Ⅳ（2単位）

・専門科目62単位以上

必修科目：46単位（20科目）

選択必修科目：4単位

卒業研究と同時に履修する。

選択科目：12単位以上

選択科目の中から卒業時まで12単位以上履修しなければならない。

物理学科では学部大学院一貫教育の観点から、大学院進学を希望する学生に、博士前期課程で開講される選択必修科目を聴講することを推奨している。表中の次の選択科目

力学特論、電磁気学特論、相対論特論、量子力学特論、場の量子論入門、統計物理学Ⅲ、宇宙物理学B、物性論特論Ⅰ

は、それぞれの担当教員が博士前期課程で開講する選択必修科目

解析力学、電磁気学概論、一般相対論、相対論的量子力学、ゲージ場の理論、統計物理学概論、宇宙物理学概論、物性理論物理学

を聴講し一定の学習効果が認められた場合、専門科目 選択科目の単位として認定される。

(ハ) 自由選択：6単位

・学部共通英語科目：「科学英語Ⅰ」・「科学英語Ⅱ」の履修を推奨する。

・普遍教育科目：初修外国語科目（一般学生のみ）及び教養展開科目で卒業要件を超えて修得した単位を充当できる。

・専門教育科目：卒業単位を超えて修得した専門基礎科目 選択必修科目及び専門科目 選択科目の単位を充当できる。

◎ 履修上の注意

・クラス指定のある専門基礎科目では、やむを得ない理由があり事前に教務委員に申し出て許可を得た場合を除き、物理学科指定クラス以外で履修した単位は卒業要件に含めない。

・2007年度以前の入学生について

- (1) 卒業要件単位数が上記とは異なり、各自の入学年度の履修要項に記載された卒業要件となる。
- (2) コア科目未履修者は理学部学務担当掲示板に掲示される「コア科目の読み替え科目一覧」の指示により履修すること。

◎ 卒業研究履修の条件

3年次終了時において、普遍教育科目の必修科目は卒業に要する単位を全て取得しており、専門教育科目は3年次までの必修科目及び選択必修科目の単位を全て取得している者とする。

◎ 理学部他学科の授業の履修について

理学部他学科の開講科目は、自由選択として履修することができる。履修を希望する場合は、各セメスターの初めに教務委員に相談すること。また授業担当教員の受講許可を得ること。

◎ 自然科学系大学院で開講のベンチャービジネス関係科目の履修について

「ベンチャービジネス論」及び「ベンチャービジネスマネジメント」は自由選択として履修できる（3・4年次に履修することを推奨する）。

◎ 登録単位数の上限

物理学科では登録単位数を以下のように制限する。

- ・第一セメスター及び第二セメスターではセメスター当たり23単位
ただし、第一セメスターは25単位、第二セメスターは21単位でも良い
- ・第三セメスター以降ではセメスター当たり20単位

登録せずに受講した科目は、セメスターの途中で単位が認定された科目を除き、原則として「聴講」と取り扱う。ただし、資格取得用科目等は「その他」の科目区分として取り扱い、卒業要件には含めないが成績記録に記載する。

前年セメスターまたは直前セメスターにおいて「不可」と評価された科目の再履修は、上記の制限とは別に、以下の単位数まで登録できる。

- ・第二セメスターでは 3単位
- ・第三セメスター以降では セメスター当たり6単位

次項で規定する成績優秀者は、通常の制限より6単位多く登録できる。ただし、次々項で規定する早期卒業に関する条件(1)を満たす者の登録単位数の上限は、個々の学生ごとに指定する。

夏季休業等の休業期間中に開講された集中講義科目の単位はこの制度から除く。

資格取得用科目など卒業要件にならない科目（科目区分の「その他」）の単位は、この制度から除く。

通期開講の科目は前期後期の各々において開講される2分の1の単位数の2つの科目として取り扱う。

◎ 成績優秀者

直前セメスターにおいて、以下の条件を全て満たした者を「成績優秀者」と認定し、次セメスター開始時まで公表する。

- (1) 登録を認められた上限単位数の95%以上の単位数を登録した者
- (2) 履修推奨年次の指定のない科目及び履修推奨年次より早く受講した科目を除き、登録した卒業要件科目の全てを修得した者
- (3) 登録単位数に対して「秀」または「優」の評語を得た単位数の割合が80%以上である者
 - ・セメスター後に郵送される成績通知表で「未報告」となった科目は、成績優秀者判定の条件(2)及び(3)には含めない。後日、成績が通知されても成績優秀者の認定結果を変更しない。
 - ・通期開講の科目は、前期セメスター相当分については上記の「成績通知が遅れた科目」と同様に取り扱う。
 - ・直前セメスター中に単位が認定された科目は成績優秀者判定には含めない。
 - ・履修推奨年次・セメスターが指定されている科目（普遍教育科目で抽選等で履修できなかった科目及び専

門科目・選択科目を除く)を履修推奨時期より遅れて履修し「秀」または「優」と評価された場合は、成績優秀者判定において「秀」または「優」の評語としてみなさない。

◎ 早期卒業

物理学科に3年以上在学し、以下の条件を満たす者は4年未満の在学で卒業が可能である。

(1) 2年次終了時において、卒業要件残単位数が40単位(第四セメスターの成績優秀者は46単位)以下であり、

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 普遍教育科目については、教養展開科目以外の全て・ 専門基礎科目については、必修科目の全てと選択必修科目6単位以上・ 専門科目の必修科目については、2年次までの履修推奨科目の全て |
|--|

について単位を履修し、これらの80%以上が「秀」または「優」の評語であること。

成績通知が遅れた科目、履修推奨年次より遅く履修し「秀」または「優」の評語を得た科目、セメスターの途中で単位が認定された科目については、成績優秀者の判定の場合と同様に取り扱う。

入学時に単位が認定された科目については、個々の科目ごとに「秀」または「優」の評語に相当するかどうかを理学部で認定する。

(2) 3年次中に早期卒業希望者に実施される総合学力評価試験によって、学力が優秀であると物理学科で認定されること。この試験は、国内の大学院(他大学も含む)進学希望者にあつては当該大学院の入学試験で代用する。

(3) 3年次終了時または4年次前期終了時に物理学科の卒業要件を満たし、「秀」または「優」の評語の単位数が物理学科の卒業要件単位数の80%以上であること。かつ「秀」の評語の単位数が、物理学科の卒業要件単位数の30%以上であること。

認定科目及び履修推奨年次より遅く履修し「秀」または「優」の評語を得た科目については、上記(1)と同様に取り扱う。

2年次終了時に上記の早期卒業のための条件(1)を満たした者には第五セメスター開始時にその旨を通知し、早期卒業の希望を調査する。早期卒業希望を申し出た者は、3年次での履修を推奨している専門科目必修科目の履修状況にかかわらず、卒業研究及び専門科目の中の選択必修科目の履修が認められる。

◎ 厳格で多元的な評価基準

物理学科では、従来より成績評価にあたっては厳格で多元的な基準で行っていたが、2001年度以降の入学者に對して早期卒業を実施するに当たり、このことを徹底することとなった。

物理学科開設科目は全てその科目の目的や到達目標がシラバスに明記されている。成績評価はそれら科目ごとの到達目標がどの程度達成されたかを絶対的に評価する。すなわち、複数回のテストやレポート、授業中での報告・発表、授業出席状況等、多様な方法を組み合わせて評価する。

					平成25年度開講状況						
科目区分	授業科目名	単 位			履修 年次	担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	備 考
		講 義	演 習	実 習 実 験							
必修	生化学実験Ⅱ			1.5	3	村田 武士 米澤 直人 坂根 郁夫 赤間 邦子	後期	火・水	Ⅲ～Ⅴ	化学 実験室	11～1月
	有機化学演習Ⅱ		2		3	吉田 和弘 森山 克彦	後期	木	I	1 2 3	
	生化学演習Ⅱ		2		3	坂根 郁夫 村田 武士	後期	金	Ⅳ	1 4 1	
	卒業研究			6	4	各 教 員	通期			各研究室	
選択	無機化学Ⅰ	2			2	沼子 千弥	前期	月	I	1 4 1	}
	化学情報論	2			2	泉 康雄	前期	水	Ⅳ	総合校舎 A階演習 室2	
	化学統計熱力学Ⅰ	2			2	西川 恵子	前期	水	Ⅱ	1 2 3	
	量子化学Ⅰ	2			2	小西 健久	後期	月	Ⅳ	1 4 1	
	化学統計熱力学Ⅱ	2			2	西川 恵子	後期	水	Ⅱ	1 2 3	
	無機化学Ⅱ	2			2～3	工藤 義広	後期	火	I	1 2 3	
	分析化学Ⅱ	2			2～3	沼子 千弥	後期	火	Ⅱ	1 4 1	基盤物質化学領域
	量子化学Ⅱ	2			3	藤川 高志	前期	月	Ⅲ	1 2 2	
	錯体化学	2			3	工藤 義広	前期	火	I	1 2 2	
	表面物理化学	2			3	加納 博文	後期	金	Ⅱ	1 2 1	
	物質結合論	2			3	藤川 高志	後期	月	Ⅲ	1 2 1	
	無機・分析化学演習Ⅱ		2		3	勝田 正一	後期	月	Ⅳ	1 2 2	
	分子分光化学	2			3	城田 秀明	後期	木	Ⅱ	1 2 2	
	物性化学	2			3	小西 健久	前期	水	Ⅱ	1 2 1	
	基礎有機化学Ⅱ	2			2	柳澤 章	前期	木	Ⅱ	1 2 3	
	細胞生化学	2			2	村田 武士	後期	月	Ⅲ	1 2 3	
	酵素化学	2			2	赤間 邦子	後期	木	Ⅱ	1 2 3	
	有機化学Ⅰ	2			2	東郷 秀雄	後期	金	Ⅱ	1 4 1	
	有機元素化学	2			2～3	荒井 孝義	後期	月	I	1 2 3	機能物質化学領域
	有機反応機構論	2			2～3	東郷 秀雄	後期	水	Ⅱ	1 4 1	
生化学研究法	2			3	赤間 邦子	前期	木	Ⅱ	1 2 2		
遺伝子生化学	2			3	米澤 直人	前期	金	I	1 2 3	平成19年度以前入学者 は遺伝子生化学Ⅰに振 り替える	
有機化学Ⅱ	2			3	荒井 孝義	前期	月	Ⅱ	1 2 3		
免疫化学	2			3	米澤 直人	後期	水	I	1 2 1		
選択	放射化学	2			1～3	(入江俊章)	後期	月	I	1 4 1	
	環境化学Ⅰ	1			2～3	(文珠四郎秀昭)	通期	集中		1 2 2	旧包接化学、環境化学 平成25年度は開講せず
	環境化学Ⅱ	1			2～3	(保倉明子)	通期	集中		調整中	隔年開講 平成25年度開講

				平成25年度開講状況							
科目区分	授業科目名	単 位			履修年次	担当教員	期別	曜日	時限	教室	備考
		講義	演習	実習 実験							
選 択	化学英語	2			2～3	(仲吉洋一)	前期	金	Ⅱ	123	
	生物物理化学	1			2～4	(田之倉優)	通期	集中			
	生化学特講	1			2～4	(饗場 篤)	通期	集中			隔年開講 平成25年度開講
	構造有機化学	1			2～3	(後藤 敬)	通期	集中			隔年開講 平成25年度開講
	有機工業化学	1			2～3	(渡辺淳一)	通期	集中			隔年開講 平成25年度開講
	化学数学	2			2～3	(雨宮健太)	前期	火	I	大講義室	隔年開講 平成25年度開講

・平成25年度開講しない科目

科目区分	授業科目名	単 位			履修年次
		講義	演習	実習 実験	
選択必修	生物有機化学 (機能物質化学領域)	2			3
	化学情報論	2			2
選択	環境化学Ⅰ	1			2～3
	天然物有機化学	1			2～3

科目区分	授業科目名	単 位			履修年次
		講義	演習	実習 実験	
選 択	量子有機化学	1			2～3
	基礎化学物理	2			2～3
	化学反応論	1			2～3

◎ 卒業に必要な単位数：合計132単位

(イ) 普遍教育科目：26単位

一般学生

・外国語科目：8～10単位

英語科目を4～8単位

初修外国語科目を0～4単位（英語以外の外国語からいくつかにまたがって履修してよい）

・情報リテラシー科目：2単位

・スポーツ・健康科目：1～2単位

・教養コア科目：6単位（コアA～Fを各1単位）

・教養展開科目：6～9単位

留学生

・外国語科目：8単位

日本語を4～6単位

英語科目（英語を母国語とする学生は、英語及び日本語以外の外国語科目）を2～4単位

・情報リテラシー科目：2単位

・スポーツ・健康科目：1～2単位

・教養コア科目：6単位（コアA～Fを各1単位）

・教養展開科目：4～5単位

・日本事情：4単位

(ロ) 専門教育科目：100単位以上

・専門基礎科目：21単位

必修科目：13単位 1年次に履修すること。(物理学BⅡや物理学CⅡは除く)

化学基礎実験(1単位)、微積分学B1(2単位)、微積分学B2(2単位)、線形代数学B1(2単位)、線形代数学B2(2単位)、物理学B力学入門(2単位)、物理学C電磁気学入門(2単位)

ただし、物理学BⅠと物理学BⅡや、物理学CⅠと物理学CⅡを合わせて履修すれば、それぞれ物理学BやCは取らなくてもよい。

選択必修科目：8単位

教養展開科目と専門基礎科目から原則として次の科目を専門基礎科目の選択必修科目として履修できる。いずれの科目も受入人数に制限があるので注意すること。なるべく1年次の履修が望ましいが、時間割の都合上1年次に履修できない科目がある場合は2年次以降の履修もやむを得ない。次の科目のほかに専門基礎科目として履修を希望する科目がある場合は、化学科教務委員に相談すること(ただし、統計学Aは専門基礎科目として認めない)。

数学・統計学関係

微積分学演習B1(1単位)、微積分学演習B2(1単位)、線形代数学演習B1(1単位)、線形代数学演習B2(1単位)、統計学B1(2単位)、統計学B2(2単位)

2年次以降に履修が可能な科目

複素解析(2単位)、微分方程式(2単位)、偏微分方程式(2単位)

物理学

物理学BⅡ 力学入門2(2単位)、物理学CⅡ 電磁気学入門2(2単位)、物理学DⅠ 熱統計力学入門(2単位)、物理学EⅠ 量子力学入門(2単位)、物理学基礎実験1(1単位)

生物学

生命科学入門(理学部用)(2単位)、生命科学B1(2単位)、生命科学B2(2単位)、生命科学B3(2単位)、生命科学B4(2単位)、生命科学B5(2単位)、生命科学B6(2単位)、生物学基礎実験1(1単位)、生物学基礎実験6(1単位)、生物学基礎実験7(1単位)

地球科学

地学概論A(2単位)、地学概論B(2単位)、地球科学入門Ⅰ(2単位)、地球科学入門Ⅱ(2単位)、地学基礎実験B(1単位)、地学基礎実験C(1単位)

その他(教養展開科目より)

科学論A(2単位)、科学文化史A(2単位)、情報科学概論(2単位)

・専門科目：79単位以上

必修科目：52単位(卒業研究6単位を含む)

選択必修科目：20単位以上

各領域指定の選択必修科目から少なくとも8単位取得すること。

選択科目：7単位以上

選択必修科目の余剰単位を選択科目に振り替えることができる。

(ハ) 自由選択科目：6単位

・普遍教育科目：初修外国語(一般学生のみ)及び教養展開科目で卒業要件を超えて修得した単位を充当できる。

・専門教育科目：卒業単位を超えて修得した単位を充当できる。

◎ 履修上の注意

普遍教育科目の英語科目の総修得単位が一般学生で4または5単位、留学生で2または3単位の場合、専門科目の化学英語（2単位）を履修し、専門科目の総単位数を81単位以上とすること。

◎ 卒業研究履修の条件

3年次終了時において普遍教育科目及び専門基礎科目については卒業に要する単位のすべてを取得し、専門科目及び自由選択科目については未取得単位が卒業研究を除いて3単位以内でなければならない。ただし、実験科目の単位はすべて取得してあること。

◎ 理学部他学科及び他学部の授業の履修について

理学部他学科の授業科目は、専門基礎科目あるいは専門科目として履修できる。ただし、演習・実習及び実験に関しては原則として履修できない。

学部開放科目及びそれ以外の科目について、専門基礎科目あるいは専門科目として履修を希望する場合は各セメスターの初めに化学科教務委員に早急に届け出ること。化学科において授業内容が専門基礎科目あるいは専門科目としてふさわしいとの承認を受けた場合、専門基礎科目あるいは専門科目として履修することができる。

◎ 学部共通英語科目の履修について

「科学英語Ⅰ」及び「科学英語Ⅱ」は自由選択科目として履修できる。

◎ 自然科学系大学院にて開設されているベンチャービジネス関係科目の履修について

「ベンチャービジネス論」及び「ベンチャービジネスマネジメント」は自由選択科目として履修できる（3・4年次に履修することを推奨する）。

《生物学科》

※担当教員の（ ）付きは、非常勤講師を表します。

					平成25年度開講状況						
科目区分	授業科目名	単 位			履修年次	担当教員	期別	曜日	時限	教室	備考
		講義	演習	実習 実験							
《専門基礎科目（共通専門基礎科目）》											
必修	生物学基礎実験2			2	1	全 教 員	前期	月	Ⅲ・Ⅳ	総合校舎E号館学生実験室	普遍教育科目 Guidance 2013を参照
《専門基礎科目（学部専門基礎科目）》											
必修	生命科学B5	2			1	土谷 岳令 村上 正志	通期	集中		4号館2階マルチメディア講義室2	学部開放科目 特定期間
	生命科学B6	2			1	綿野 泰行 朝川 毅守 小笠原道生	通期	集中		4号館2階マルチメディア講義室2	学部開放科目 特定期間
	生命科学B2	2			1	松浦 彰 石川 浩之 寺崎 朝子	通期	集中		4号館2階マルチメディア講義室2	学部開放科目 特定期間
	生命科学B1	2			1	阿部 洋志 野川 宏幸	通期	集中		4号館2階マルチメディア講義室2	学部開放科目 特定期間
	生命科学B3 (分子生物学入門)	2			1	田村 隆明 遠藤 剛	後期	木	I	前半：自然科学2、2階マルチメディア 後半：大講義室2	学部開放科目
	生命科学B4	2			1	山本 啓一 伊藤 光二	通期	集中		4号館2階マルチメディア講義室2	学部開放科目 特定期間
《専門科目》											
必修	生物学セミナー		2		1	全 教 員	前期	金	V	4号館2階マルチメディア講義室2	
修	生物学総合演習		2		3	全 教 員	後期	集中			平成25年度入学の学生対象
	卒業研究			10	4	各 教 員	通期				
選択必修	分子進化発生学Ⅰ	2			2～4	小笠原道生	前期	火	I	123	※隔年開講
	発生生物学Ⅰ	2			2～4	阿部 洋志	前期	月	Ⅱ	F-20	
	植物系統学Ⅰ	2			2～4	梶田 忠	前期	水	Ⅱ	大講義室	※隔年開講
	分子生理学Ⅰ	2			2～4	山本 啓一	前期	金	Ⅱ	大講義室	平成26年度以降開講しない
	生体分子機能学Ⅰ	2			2～4	伊藤 光二	後期	木	I	141	※隔年開講
	動物生態学	2			2～4	村上 正志	後期	金	I	大講義室	※隔年開講
	形態形成学	2			2～4	野川 宏幸	前期	金	I	4号館1階マルチメディア講義室1	
修	細胞・組織分化制御学	2			3～4	佐藤 成樹	前期	火	Ⅱ	4号館1階マルチメディア講義室1	

				平成25年度開講状況							
科目区分	授業科目名	単 位			履修 年次	担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	備 考
		講 義	演 習	実 習 実 験							
選	生 理 化 学 II	2			2～4	大橋 一世	前期	木	I	大講義室	※隔年開講
	分子生命情報学 II	2			2～4	遠藤 剛	前期	木	II	4号館1階 マルチメ ディア講義 室1	※隔年開講
	海 洋 生 物 学	2			2～4	菊地 友則 富樫 辰也	後期	金	II	564	※隔年開講
	細 胞 構 築 学	2			2～4	松浦 彰	後期	火	I	4号館1階 マルチメ ディア講義 室1	※隔年開講
	植 物 生 態 学	2			2～4	土谷 岳令	後期	火	II	4号館1階 マルチメ ディア講義 室1	※隔年開講
	分 子 生 物 学 II	2			2～4	田村 隆明	後期	水	I	自然科学総合 研究棟2階 マルチメ ディア講 義室	※隔年開講
	進 化 生 物 学 II	2			2～4	綿野 泰行	後期	水	II	大講義室	※隔年開講
	生 体 構 造 学 II	2			2～4	石川 裕之	後期	木	II	4号館2階 マルチメ ディア講義 室2	※隔年開講
	生物学総合演習		2		3	全 教 員	後期	集中			平成24年度以前に入学 の学生を対象とする
	分子生物学特講 A	1			2～4	(深見希代子)	通期	集中			※隔年開講
	生 理 化 学 特 講 A	1			2～4	(神澤信行)	通期	集中			※隔年開講
	細胞生物学特講 A	1			2～4	(戸島拓郎)	通期	集中			※隔年開講
	発生生物学特講 A	1			2～4	(沼田 治)	通期	集中			※隔年開講
	生 態 学 特 講 A	1			1～4	(富田瑞樹)	通期	集中			※隔年開講
	生 態 学 特 講 B	1			1～4	(野田隆史)	通期	集中			※隔年開講
系 統 学 特 講 A	1			1～4	(石田健一郎)	通期	集中			※隔年開講	
択	植物分類学野外実験			1	1～3	綿野 泰行 朝川 毅守	通期	集中			特定期間
	発生生物学実験 I			1	2	阿部 洋志	通期	集中		生物学 実験室	特定期間
	組 織 学 実 験			1	2	野川 宏幸	通期	月、水	Ⅲ～Ⅴ	生物学 実験室	特定期間
	細胞遺伝学実験			1	2	石川 裕之	通期	集中		生物学 実験室	特定期間
	動物学臨海実験			1	2～3	菊地 友則	通期	集中		海洋バイオ システム研 究センター	特定期間
	系 統 学 実 験 I			1	2	梶田 忠 朝川 毅守	通期	集中			特定期間
	生 態 学 実 験 I			1	2～3	土谷 岳令	通期	集中		生物学 実験室	特定期間

					平成25年度開講状況						
科目区分	授業科目名	単 位			履修 年次	担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	備 考
		講 義	演 習	実 習 実 験							
選	植物学臨海実験			1	2～3	富樫 辰也	通期	集中		海洋バイオシステム研究センター	特定期間
	分子生物学実験Ⅰ			1	3	田村 隆明	通期	月 ～ 木	Ⅲ～Ⅴ	分子生物学研究室	特定期間
	分子生物学実験Ⅱ			1	3	遠藤 剛 高野 和儀	通期	月 ～ 木	Ⅲ～Ⅴ	分子生物学実験室	特定期間
	分子生物学実験Ⅲ			1	3	小笠原道生	通期	月 ～ 木	Ⅲ～Ⅴ	分子生物学実験室	特定期間
	生理学実験Ⅰ			1	3	大橋 一世 寺崎 朝子	通期	月 ～ 木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	特定期間
	生理学実験Ⅱ			1	3	伊藤 光二	通期	月 ～ 木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	特定期間
	生理学実験Ⅲ			1	3	山本 啓一	通期	月 ～ 木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	特定期間 平成27年度以降開講 しない
	細胞生物学実験			1	3	松浦 彰	通期	月 ～ 木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	特定期間
	発生生物学実験Ⅱ			1	3	佐藤 成樹	通期	月 ～ 木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	特定期間
	系統学実験Ⅱ			1	3	綿野 泰行 朝川 毅守	通期	月 ～ 木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	特定期間
択	分子生物学演習		4		4	田村 隆明 遠藤 剛 小笠原道生	通期	金	Ⅴ	分子生物学研究室	
	生理学演習		4		4	山本 啓一 伊藤 光二	通期	月	Ⅱ	分子生理学研究室	
	細胞生物学演習		4		4	大橋 一世 松浦 彰 石川 裕之 寺崎 朝子	通期	金	Ⅲ	細胞生物学研究室	
	発生生物学演習		4		4	阿部 洋志 野川 宏幸 佐藤 成樹	通期	水	Ⅱ	生物セミナー室	
	生態学演習		4		4	土谷 岳令 村上 正志	通期	火 金	Ⅲ Ⅳ	生態学研究室	
	系統学演習		4		4	綿野 泰行 梶田 忠	通期	火	Ⅰ・Ⅱ	系統学研究室	

					平成25年度開講状況						
科目区分	授業科目名	単 位			履修年次	担当教員	期別	曜日	時限	教室	備考
		講義	演習	実験 実習							
選	水界生態学演習		4		4	富樫 辰也 菊地 友則	通期	火	IV	海洋バイオシステム研究センター	
	生態学実験Ⅱ			1	2～3	村上 正志	通期	集中			特定期間
択	分子生理学Ⅱ	2			2～4	山本 啓一	通期	集中	Ⅱ	大講義室	平成26年度以降開講しない
	科学英語	2			2～4	(仲吉洋一)	後期	金	Ⅲ	大講義室	
	科学英語Ⅲ	1			3	(J.Dennison)	後期	木	Ⅲ	122	
	公開臨海実験Ⅰ			1	1～4						公開臨海・臨湖実習において取得した単位の振替えのための科目
	公開臨海実験Ⅱ			1	1～4						
他開講科目	免疫化学	2			3～4	化学科の記載を参照				化学科開講科目	

・平成25年度開講しない科目

科目区分	授業科目名	単 位			履修年次
		講義	演習	実験 実習	
選	生理化学Ⅰ	2			2～4
	分子生命情報学Ⅰ	2			2～4
択	細胞制御学	2			2～4
	植物生理生態学	2			2～4
必	分子生物学Ⅰ	2			2～4
	植物系統学Ⅱ	2			2～4
修	生体構造学Ⅰ	2			2～4
	水界生態学	2			2～4
選択	分子進化発生学Ⅱ	2			2～4
	発生生物学Ⅱ	2			2～4

科目区分	授業科目名	単 位			履修年次
		講義	演習	実験 実習	
選	進化生物学Ⅰ	2			2～4
	生体分子機能学Ⅱ	2			2～4
択	群集生態学	2			2～4
	分子生物学特講B	1			2～4
	生理化学特講B	1			2～4
	細胞生物学特講B	1			2～4
	発生生物学特講B	1			2～4
	系統学特講B	2			1～4
	野外生態学実験			1	2～3

◎ 卒業に必要な単位数：合計124単位

(イ) 普遍教育科目：26単位

一般学生

・外国語科目：8～10単位

英語科目を4～8単位

初修外国語科目を0～4単位（英語以外の外国語からいくつかはまたがって履修してよい）

・情報リテラシー科目：2単位

・スポーツ・健康科目：1～2単位

・教養コア科目：6単位（コアA～Fを各1単位）

・教養展開科目：6～9単位

留学生

- ・外国語科目：8単位
 - 日本語を4～6単位
 - 英語科目（英語を母国語とする学生は、英語及び日本語以外の外国語科目）を2～4単位
- ・情報リテラシー科目：2単位
- ・スポーツ・健康科目：1～2単位
- ・教養コア科目：6単位（コアA～Fを各1単位）
- ・教養展開科目：4～5単位
- ・日本事情：4単位

(ロ) 専門教育科目：86単位以上

- ・専門基礎科目：14単位（必修科目）
 - 生物学基礎実験2（2単位）、生命科学B1（発生生物学入門 2単位）、生命科学B2（細胞生物学入門 2単位）、生命科学B3（分子生物学入門 2単位）、生命科学B4（生化学入門 2単位）、生命科学B5（生態学入門 2単位）、生命科学B6（系統学入門 2単位）
- ・専門科目
72単位以上
必修科目：【平成25年度入学の学生】14単位
 - 生物学セミナー、生物学総合演習、卒業研究【平成24年度以前入学の学生】12単位
 - 生物学セミナー、卒業研究
- 選択必修科目：【全学生】12単位以上
 - できるだけ広い研究分野の科目を履修すること。
- 選択科目：必修科目及び選択必修科目で72単位に不足する単位数を修得
- 自由選択：【平成25年度入学の学生】10単位
 - 【平成24年度以前入学の学生】12単位
- 普遍教育科目：初修外国語科目（一般学生のみ）及び教養展開科目で卒業要件を超えて修得した単位を充当できる。
- 専門教育科目：卒業単位を超えて修得した単位を充当できる。

◎ 履修上の注意

科学英語は、2年次学生は全員履修することが望ましい。また、科学英語Ⅲは、3年次学生全員履修することが望ましい。

◎ 卒業研究履修の条件

3年次終了時において、専門科目の選択必修科目を12単位以上、専門科目の実験6単位を取得し、これらを含め卒業に要する単位を100単位以上取得している者とする。

◎ 理学部他学科及び他学部の授業の履修について

理学部他学科の開講する授業科目を、専門基礎科目として履修できる。しかし、中には担当教員の許可を受けることが必要な科目がある。

学部開放科目を教養展開科目あるいは専門基礎科目として履修できるが、受入人数に制限があり、科目によっては西千葉キャンパス以外で行われるので注意すること。専門基礎科目の指定はガイダンスで行う。

10ページに指定された授業科目（専門科目の共通科目化について）は自由選択として履修できる。履修希望者は授業科目の担当教員に直接申し込むこと。なお、受入人数に制限がある場合があるので注意すること。

- ◎ 自然科学系大学院で開設のベンチャービジネス関係科目の履修について
「ベンチャービジネス論」を3・4年次学生は履修でき、自由選択の単位として認められる。
- ◎ 学部共通英語科目の履修について
「科学英語Ⅰ」及び「科学英語Ⅱ」は自由選択として履修できる。
- ◎ 共通専門基礎科目の履修について
共通専門基礎科目（数学・統計学、物理学、化学、地学）については自由選択として履修できる。
- ◎ 「公開臨海実験Ⅰ」及び「公開臨海実習Ⅱ」について
他大学で開講される公開臨海臨湖実験を履修して取得した単位は、「公開臨海実験Ⅰ」と「公開臨海実習Ⅱ」で振り替えることで2単位を上限として専門科目の実験の単位として認める。
- ◎ 生命科学B 1、2、4、5、6の日程については、前期・月・Ⅱの最初の講義日に説明する。

《地球科学科》

※担当教員の（ ）付きは、非常勤講師を表します。

					平成25年度開講状況						
科目区分	授業科目名	単 位			履修年次	担当教員	期別	曜日	時限	教室	備考
		講義	演習	実習 実験							
必修	地球科学基礎セミナー		2		1	全 教 員 (1年担任含む)	前期	木	I	地球科学学生 実験室 (理)他	
	岩石鉱物学概論Ⅰ	2			2	井上 厚行 廣井 美邦	前期	火	Ⅱ	5 6 4	旧 岩石学・鉱物学概論Ⅰ
	地球ダイナミクス概論	2			2	佐藤 利典 金川 久一	前期	火	I	5 6 4	
	層 序 学 概 論	2			2	亀尾 浩司 伊藤 慎	前期	水	Ⅱ	4号館2階 マルチメ ディア講義 室2	旧 生層序学の内容を含む
	環 境 リ モ ー ト セ ン シ ン グ 概 論	2			2	近藤 昭彦 建石隆太郎 樋口 篤志	前期	月	Ⅱ	4号館1階 マルチメ ディア講義 室1	旧 気候システム概論 平成23年度までの地 表動態学概論の内容 の一部を含む
	地 表 動 態 学 概 論	2			2	宮内 崇裕 竹内 望	後期	月	Ⅱ	5 6 4	旧 自然地理学概論
	地球科学基礎数学	2			2	(鎌田 勝)	前期	水	Ⅳ	大講義室	
	地 球 科 学 英 語	2			2	吉田 修二	後期	木	I	4号館2階 マルチメ ディア講義 室2	平成16年度以前の入 学生は選択科目
	地 質 調 査 法	2			2	亀尾 浩司 小竹 信宏 松本みどり	前期	月	V	4号館2階 マルチメ ディア講義 室2	
	地質学野外実験Ⅰ			1	2	伊藤 慎 亀尾 浩司	後期	集中		地球科学学生 実験室 (理)	旧 地質学実験Ⅰ
	地球科学・技術者倫理	2			2～3	(横山尚秀) (村田正敏)	後期	集中		5 6 4	JABEE 認定用
	地 球 科 学 演 習		4		4	全 教 員	通期	集中		各教室	各教育研究分野
卒 業 研 究			8	4	全 教 員	通期	集中		各研究室	各教育研究分野	
選択必修	岩石鉱物学実験Ⅲ			1	3	廣井 美邦 井上 厚行 津久井雅志 古川 登 高橋奈津子	後期	集中		地球科学学生 実験室 (理)	旧 岩石学・鉱物学実験Ⅲ 冬 受講上限人数15名
	地球物理学実験Ⅱ			1	3	佐藤 利典 中西 正男 服部 克巳 津村 紀子	後期	火	Ⅲ～V	地球科学学生 実験室 (理)	旧 地球探査法実験Ⅱ 秋 情報地球科学Ⅱとセッ トで受講すること 受講上限人数20名
	地殻構造学野外実験Ⅰ			1	3	金川 久一	前期	集中		地球科学学生 実験室 (理)	地殻構造学実験Ⅰを 履修済みであること 受講上限人数8名 地質学野外実験Ⅱに 引き続き実施する

					平成25年度開講状況						
科目区分	授業科目名	単 位			履修 年次	担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	備 考
		講 義	演 習	実 習 実 験							
選 択 必 修	地史古生物学実験Ⅰ			1	3	亀尾 浩司 小竹 信宏	前期	水	Ⅲ～Ⅴ	地球科学学生 実験室 (理)	旧 地史古生物学実験 夏 受講上限人数15名
	水文学実験Ⅱ			1	3		前期	集中		地球科学学生 実験室 (理)	旧 水文科学実験Ⅱ 自然地理学概論と水 文学実験Ⅰを履修済 みであること 受講上限人数15名 平成25年度は開講せず
	地形学実験Ⅱ			1	3	宮内 崇裕 金田平太郎	前期	集中		地球科学学生 実験室 (理)・空中 写真判読室 (総)	地表動態学概論、地 表動態学実験、地形 学Ⅱを履修済み、な いしは履修中である こと 受講上限人数12名
	堆積学実験Ⅱ			1	3	伊藤 慎	後期	集中		地球科学学生 実験室 (理)	旧 環境地質学実験Ⅱ 受講上限人数25名
	雪氷学実験			1	3	竹内 望 戸丸 仁	前期	集中		地球科学学生 実験室 (理)	受講上限人数10名
	地球化学実験			1	3	戸丸 仁 竹内 望	後期	集中		地球科学学生 実験室 (理)	新規開講科目 受講上限人数10名
	リモートセンシング・ GIS実習			1	3	近藤 昭彦 本郷 千春	後期	金	Ⅲ～Ⅴ	環境リモートセン シング研究セン ター8階地理 情報解析 室	受講上限人数10名
	地質学野外実験Ⅱ			2	3	金川 久一 亀尾 浩司 戸丸 仁 松本みどり	通期	集中		地球科学学生 実験室 (理)	地質調査法を履修済 みであること 受講上限人数約20名 夏期休暇中に連続7 日間野外にて開講す る
《地球内部科学講座》											
【岩石学・鉱物学教育研究分野】											
選 択	岩石鉱物学概論Ⅱ	2			2	井上 厚行 津久井雅志	後期	水	Ⅱ	5 3 2	旧 岩石学・鉱物学概論Ⅱ
	岩石学野外実験			1	2	廣井 美邦 津久井雅志 古川 登	前期	集中		地球科学学生 実験室 (理)	旧 地質学実験Ⅲ 受講上限人数20名
	岩石鉱物学実験Ⅰ			1	2	井上 厚行 津久井雅志 古川 登 高橋奈津子	後期	水	Ⅲ・Ⅳ	地球科学学生 実験室 (理)	旧 岩石学・鉱物学実験Ⅰ 秋冬 受講上限人数30名
	岩石学ⅠA	2			2	津久井雅志	後期	水	Ⅰ	5 6 4	旧 火山学
	鉱物学Ⅱ	2			3	井上 厚行	前期	金	Ⅰ	5 3 2	旧 鉱物生成論Ⅱ
	岩石学Ⅱ	2			3	廣井 美邦	前期	水	Ⅱ	5 3 2	旧 変成岩岩石学
	岩石鉱物学実験Ⅱ			1	3	廣井 美邦 津久井雅志 古川 登 高橋奈津子	前期	金	Ⅲ・Ⅳ	偏光顕微 鏡室(総)	旧 岩石学・鉱物学実験Ⅱ 春 受講上限人数20名

					平成25年度開講状況							
科目区分	授業科目名	単 位			履修 年次	担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	備 考	
		講 義	演 習	実 習 実 験								
選	鉱物学 I	2			3						旧 鉱物生成論 I 平成25年度は開講しない	
択	岩石学 I B	2			3	津久井雅志	後期	水	I	5 6 4	旧 火山岩岩石学 平成25年度は開講しない	
【地球物理学教育研究分野】												
選	地球物理学 I	2			2	中西 正男	前期	木	II	5 6 4		
	地球物理学 II	2			2	服部 克巳	後期	金	I	5 3 2		
	地球物理学 III	2			3	佐藤 利典	前期	火	II	5 3 2		
	情報地球科学 I	2			3	服部 克巳	前期	金	V	総合校舎 A号館4階 情報処理 演習室		
	情報地球科学 II	2			3	中西 正男 佐藤 利典 服部 克巳	後期	金	II	5 3 2	情報地球科学 I を履修 済みであること 地球物理学実験 II と セットで受講すること	
択	地球物理学実験 I			1	3	津村 紀子 中西 正男 佐藤 利典 服部 克巳	前期	火	III~V	地球科学学生 実験室 (理)	旧 地球探査法実験 I 夏 受講上限人数20名	
【地殻構造学教育研究分野】												
選	地殻構造学 I	2			2	金川 久一	後期	月	I	5 3 2		
	地殻構造学 II	2			3	金川 久一	前期	月	II	5 3 2		
	地殻構造学 III	2			3						平成25年度は開講しない	
	地殻構造学実験 I			1	3	金川 久一	前期	月	III~V	地球科学学生 実験室 (理)	夏 受講上限人数15名	
	地殻構造学野外実験 II			1	3	金川 久一 津村 紀子	後期	集中			地球科学学生 実験室 (理)	受講上限人数 8 名
	択	地殻構造学実験 II			1	3	金川 久一	後期	月	III~V	偏光顕 微鏡室 (総)	秋 受講上限人数15名
	日本列島形成史	2			3		後期	集中		地球科学学生 実験室 (理)	平成25年度は開講しない	
《地球表層科学講座》												
【地史・古生物学教育研究分野】												
選	地史古生物学 I	2			3	小竹 信宏	前期	金	II	5 6 4	旧 地球生命史	
	地史古生物学 II	2			2	小竹 信宏	後期	金	III	4号館1階 マルチメ ディア講義 室1	旧 地史学	
	地史古生物学 III	2			3	亀尾 浩司 松本みどり	後期	水	III	5 6 4	旧 進化古生物学	
	択	地史古生物学実験 II			1	3	小竹 信宏 亀尾 浩司	後期	木	III~V	地球科学学生 実験室 (理)	秋 受講上限人数15名

				平成25年度開講状況							
科目区分	授業科目名	単 位			履修年次	担当教員	期別	曜日	時限	教室	備考
		講義	演習	実習 実験							
【水文学教育研究分野】											
選択	水文学Ⅰ	2			3	近藤 昭彦	前期	木	V	564	旧 水文地形学
	水文学Ⅱ	2			3						旧 降水物理学 平成25年度は開講しない
【地形学教育研究分野】											
選択	地形学Ⅰ	2			3	宮内 崇裕	後期	水	Ⅱ	564	旧 物理地形学
	地形学Ⅱ	2			3	金田平太郎	前期	火	Ⅰ	543	旧 災害地理学
【堆積学教育研究分野】											
選択 択	堆積学Ⅰ	2			3	伊藤 慎	前期	水	Ⅰ	4号館1階 マルチメディア 講義室1	旧 堆積学 及び 堆積学・地層学
	堆積学Ⅱ	2			3	吉田 修二	前期	木	Ⅰ	地球科学 学生実験室 (理)	旧 地層学 及び 環境地質学
	堆積学Ⅲ	2			3	伊藤 慎	後期	木	Ⅰ	4号館1階 マルチメディア 講義室1	旧 堆積盆解析
	堆積学実験Ⅰ			1	3	伊藤 慎	前期	集中		地球科学 学生実験室 (理)	旧 環境地質学実験Ⅰ 受講上限人数25名
【生物地球化学教育研究分野】											
選択 択	地球生理学	2			3	竹内 望	前期	木	Ⅱ	532	
	表層環境化学	2			3	戸丸 仁	後期	火	Ⅱ	564	新規開講科目
	生物地球化学実験			1	2	竹内 望 戸丸 仁	後期	火	Ⅲ～Ⅴ	地球科学 学生実験室 (理)	新規開講科目 旧水文学実験Ⅰ、地 形学実験Ⅰ、旧地表 動態学実験から再編
《環境リモートセンシング講座》											
選択	リモートセンシング入門	2			3	建石隆太郎	後期	木	Ⅱ	141	
《講座共通》											
選択 択	天気と大気科学	2			2～3	高村 民雄	前期	金	Ⅱ	未定	学部開放科目 理学部他学科学生の 受講可
	流体地球科学	2			2～3	(藤尾伸三)	後期	金	V	大講義室	
	基礎測量学	2			2～4	(大木正喜)	前期	月	Ⅲ・Ⅳ	564	隔週開講 測量士補資格用
	測量学実験			1	2～4	(大木正喜)	前期	月	Ⅲ・Ⅳ	564	隔週開講 測量士補資格用

・平成25年度開講しない科目

科目区分	授業科目名	単 位			履修年次
		講義	演習	実験 実習	
選択必修	水文学実験Ⅱ			1	3
≪地球内部科学講座≫ 【岩石学・鉱物学教育研究分野】					
選択	岩石学ⅠB	2			3
	鉱物学Ⅰ	2			3

科目区分	授業科目名	単 位			履修年次
		講義	演習	実験 実習	
≪地球内部科学講座≫ 【地殻構造学教育研究分野】					
選択	地殻構造学Ⅲ	2			3
	日本列島形成史	2			3
≪地球表層科学講座≫ 【水文学教育研究分野】					
選択	水文学Ⅱ	2			3

◎ 卒業に必要な単位数：合計127単位

(イ) 普遍教育科目：26単位

一般学生

- ・外国語科目：8～10単位
英語科目を4～8単位
初修外国語科目を0～4単位（英語以外の外国語からいくつかはまたがって履修してよい）
- ・情報リテラシー科目：2単位
- ・スポーツ・健康科目：1～2単位
- ・教養コア科目：6単位（コアA～Fを各1単位）
- ・教養展開科目：6～9単位

留学生

- ・外国語科目：8単位
日本語を4～6単位
英語科目（英語を母国語とする学生は、英語及び日本語以外の外国語科目）を2～4単位
- ・情報リテラシー科目：2単位
- ・スポーツ・健康科目：1～2単位
- ・教養コア科目：6単位（コアA～Fを各1単位）
- ・教養展開科目：4～5単位
- ・日本事情：4単位

(ロ) 専門教育科目：93単位以上

・専門基礎科目：21単位

必修科目：6単位

地球科学入門Ⅰ（2単位）、地球科学入門Ⅱ（2単位）、地学基礎実験A（1単位）、
地学基礎実験D（1単位）

選択必修科目：15単位以上

各分野で定められた単位以上履修すること。

数学・情報数理学（4単位履修）

情報科学概論（2単位）、統計学A（2単位）、統計学B1（2単位）、統計学B2（2単位）、
微積分学A（2単位）、微積分学B1（2単位）、微積分学B2（2単位）、線形代数学A（2単位）、
線形代数学B1（2単位）、線形代数学B2（2単位）

物理学（4単位履修）

物理学A I 入門（2単位）、物理学B 力学入門（2単位）、物理学C 電磁気学入門（2単位）

化学（4単位履修）

地球科学基礎化学（2単位）、化学（2単位）、有機化学（2単位）、物理化学A（2単位）、
物理化学B（2単位）

生物学（2単位履修）

生命科学入門（2単位）、生命科学B 1（2単位）、生命科学B 2（2単位）、生命科学B 3（2単位）、
生命科学B 4（2単位）、生命科学B 5（2単位）、生命科学B 6（2単位）

実験関係（1単位履修）

物理学基礎実験 I（1単位）、化学基礎実験（1単位）、生物学基礎実験 1（1単位）

・専門科目72単位以上

必修科目：33単位（卒業研究8単位を含む）

選択必修科目：1単位以上

選択科目：38単位以上

なお、専門科目 選択科目から、JABEEの学習・教育目標（D）に属する科目を16単位以上、学習・教育目標（G）に属する科目を8単位以上履修すること。

また、選択必修科目の余剰単位を選択科目に振り替えることができる。

(ハ) 自由選択：8単位

・普遍教育科目：初修外国語科目（一般学生のみ）及び教養展開科目で卒業要件を超えて修得した単位を充当できる。

・専門教育科目：卒業単位を超えて修得した単位を充当できる。

◎ 履修上の注意

地球科学科では、2007年度、2008年度、2013年度に授業科目名の変更を行っている。2007年度以前の旧授業科目名が授業科目一覧の備考欄に記してある。旧授業科目で単位を修得している学生が、該当する新授業科目を受講しても卒業単位とはならないので注意すること。

◎ 卒業研究履修の条件

4年次で、普遍教育科目及び専門基礎科目は卒業に要する単位を全て取得しており、専門科目は3年次までの必修及び選択必修科目の単位を全て取得しているものとし、卒業研究と地球科学演習を除く未取得単位数が20単位以内の者とする。

◎ 理学部他学科及び他学部の授業の履修について

理学部他学科の授業科目及び自然科学系大学院の学部開放科目「ベンチャービジネス論」、「ベンチャービジネスマネジメント」は自由選択として履修できる。

他学部の開放科目及びそれ以外の科目（大学院の学部開放科目を含む）について自由選択として履修したい場合は、各セメスターの初めの履修登録前に地球科学科教務委員に届け出ること。授業内容が自由選択としてふさわしいと承認を受けた場合、自由選択として履修することができる。

ただし、下記の科目については地球科学科教務委員への届け出なしに履修することが可能である（10ページ参照）。

文学部 行動科学科 情報科学基礎論 a、データ解析基礎論 a、データ解析基礎論 b

◎ 学部共通英語科目の履修について

「科学英語 I」及び「科学英語 II」は自由選択として履修できる。

◎ JABEE プログラムについて

地球科学科では、2007年5月14日に日本技術者教育認定機構（JABEE）教育プログラムの認定を受け、これにより2006（平成18）年度卒業生からJABEEカリキュラム修了認定を受け、卒業生全員に修習技術者の資格が与えられる。このため、2004年度以前に入学した学生は、卒業に必要な要件として「地球科学・技術者倫理」の履修が追加される。

地球科学科のJABEEプログラムについては94～98ページで詳述してあるので熟読すること。

各学科に共通する科目

教育職員免許状取得に関する科目

				平成25年度開講状況						
授業科目名	単 位			履修 年次	担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	備 考
	講義	演習	実習 実験							
事前・事後指導			1	4	教務委員会	通期	集中			
教育実習（中学校）			4	4	教務委員会	通期	集中			
教育実習（高等学校）			2	4	教務委員会	通期	集中			

学芸員資格取得に関する科目

				平成25年度開講状況						
授業科目名	単 位			履修 年次	担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	備 考
	講義	演習	実習 実験							
ナチュラルヒストリー （博物館実習）			3	3～4	朝川 毅守 松本みどり 古川 登 （利光誠一） （兼子尚知） （中島 礼） （板野靖行） （池田 博） （佐々木猛智） （矢島道子）	通期	集中			

学部共通英語科目

				平成25年度開講状況						
授業科目名	単 位			履修 年次	担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	備 考
	講義	演習	実習 実験							
科学英語Ⅰ	2			2～3	(J.Dennisson)	後期	木	Ⅳ	1 2 2	
科学英語Ⅱ	2			2～4	(J.Dennisson)	後期	木	Ⅴ	1 2 2	

ベンチャービジネス関係科目（自然科学系大学院にて開設）

				平成25年度開講状況						
授業科目名	単 位			履修 年次	担当教員	期 別	曜 日	時 限	教 室	備 考
	講義	演習	実習 実験							
ベンチャービジネス論	2				斎藤 恭一	前期	水	Ⅴ	自然科学系総合 研究棟2マルチ メディア講義室	
ベンチャービジネス マネージメント	2				選考中	後期	水	Ⅴ	ベンチャービジ ネスラボラト リー3階会議室	

5 授 業 概 要

《数学・情報数理学科》

(注)「授業科目一覧」の順に、今年度開講する科目のみ記載されています。

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
スタートアップセミナー				この授業は、ポートフォリアの使用を始め、数学と社会の関わりなどを担当教員が講義し、また学生が主体となってプレゼンテーションを行い、将来のキャリアについて深く考えていくことが目的とする。
全 教 員				
前期	木	I	4号館1階マルチメディア講義室1	
計 算 機 演 習				情報リテラシーおよびプログラミング入門の実際である。計算機を使う際に必要不可欠な知識ならびに倫理を学ぶ。また、プログラミング言語Pascalを用いたプログラミングを実際に行い、きちんとした筋道の通った考え方を身につけるようにする。
桜井 貴文・山本 光晴				
前期	月	IV	総合メディア基盤センター	
数 学 の 基 礎 I				数学における言葉（集合、命題、推論）に習熟し、正しい証明が書けるようになることがこの講義の目標である。 集合の表記、集合の演算、その命題との対応、関数の基本概念を、証明を自ら書くことで学んでいく。
藤川 栄華				
前期	火	III	大講義室	
数 学 の 基 礎 II				集合の濃度、順序、同値関係、同値類などの基本事項について学ぶ。初等整数論における合同式などの具体例を通して理解を進める。また選出公理とZorn補題に関しても簡単に触れる。
北詰 正顕				
後期	火	III	大講義室	
代 数 学 I				代数的な構造をもつ集合の中でもっとも基本的な「群」について、基礎的な部分を講義する。
越谷 重夫				
前期	水	II	4号館1階マルチメディア講義室1	
代 数 学 II				整数環と多項式環を通して、可換環の基本的概念について学ぶ。
西田 康二				
後期	水	II	4号館2階マルチメディア講義室2	
プ ロ グ ラ ミ ン グ				計算機における情報の表現法と基本的な処理、プログラムの動作について学ぶことにより、コンピュータの入門をする。更に、ソフトウェアの基本概念を理解し、プログラム言語Pascalを用いてプログラミングの技法を初歩から学習する。
桜井 貴文				
前期	金	II	4号館1階マルチメディア講義室1	
情 報 シ ス テ ム 基 礎 論				「プログラミング」に引き続き、Pascal言語を用いてデータの表現・構造、再帰プログラミング、入出力とファイルシステム等について学び、ソフト開発の基本概念、ファイルシステムのDB、運用保守のし易いソフトウェアシステムの構築等の基礎を理解する。
山本 光晴				
後期	金	II	4号館1階マルチメディア講義室1	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
デ ー タ 構 造 概 論				データ構造とそれに関する検索、整列などの基本的なアルゴリズムについて講義する。
多 田 充				
前期	月	II	122	
コ ン ピ ュ ー タ 数 理 学				総合メディア基盤センターの端末を使い、数式処理ソフトウェア Mathematica を使用する。代数学、解析学を題材に、数学の理解の補助として計算機を活用できるようにする。
佐々木 浩宣				
前期	金	IV	123	
情 報 学 演 習				「計算機演習」に続き、ウェブページの作成など、さらに進んだレベルの演習を行う。また、「情報システム基礎論」の演習として、再帰やポインタを含むデータ構造を用いたプログラミングなどに関する演習を行う。
山本 光晴・萩原 学				
後期	月	IV	総合メディア 基盤センター	
微 積 分 学 続 論 I				微積分学B 1、B 2の受講を前提とし、1変数関数の微積分、とくに実数の性質、極限、連続関数、定積分について、厳密な理論展開を紹介する。
佐々木 浩宣				
前期	木	III	4号館1階マ ルチメディア 講義室1	
線 形 代 数 学 続 論				線形代数学B 1、B 2の受講を前提とし、線形空間と線形写像、線形変換の標準形、とくにジョルダン標準形や最小多項式等について学習する。
大坪 紀之				
前期	水	V	大講義室	
代 数 学 演 習				群論を主として、代数学の基礎事項に関する演習を行う。
北詰 正顕				
前期	火	II	大講義室	
微 積 分 学 続 論 II				微積分学続論 I に引き続き、微積分学の講義を展開する。
筒井 亨				
後期	木	III	4号館1階マ ルチメディア 講義室1	
位 相 空 間 論				距離空間と位相空間の基礎的事項について学習する。開集合、閉集合、点列の収束、連続写像、分離公理、コンパクト空間、連結性について学習する。
梶浦 宏成				
後期	月	II	4号館1階マ ルチメディア 講義室1	
位 相 演 習				距離空間と位相空間の基礎的事項について演習を行う。
前田 昌也				
後期	火	II	総合校舎	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
卒 業 研 究				
各 教 員				
複 素 関 数 論				複素関数の基礎理論を初歩から学ぶ。
藤川 英華				
前期	月	Ⅲ	4号館1階マルチメディア講義室1	
関 数 論 演 習				複素関数論に関連した問題演習を行い、内容に対する理解を深める。
藤川 英華				
前期	月	Ⅳ	4号館1階マルチメディア講義室1	
位 相 空 間 論 Ⅱ				距離空間における開集合や収束などの考え方を一般化、抽象化した位相空間について学ぶ。ハウスドルフの分離公理、コンパクト性を学習する。
筒井 亨				
後期	金	Ⅱ		
代 数 学 特 論 Ⅰ				有限群と関連の深い、二元符号、格子と頂点作用素代数について講義する。特に、これらの間の類似の性質に重点をおいて解説をする。
(島倉 裕樹)				
通期	集中			
代 数 学 特 論 Ⅳ				初等整数論について解説する。整数論の入門的な内容や、可換環について復習した後、二次体や円分体の整数論、平方剰余の相互法則などを説明する。
松田 茂樹				
前期	月	Ⅱ		
幾 何 学 特 論 Ⅲ				ブラウワーの不動点定理やバナッハの縮小写像の原理などの応用について入門的な講義を行う。
(小山 晃)				
通期	集中			
幾 何 学 特 論 Ⅷ				多様体のトポロジーに関する話題を講義する。詳しい内容はシラバスを参照のこと。
稲葉 尚志				
後期	月	Ⅱ		
解 析 学 特 論 Ⅶ				
渚 勝				
後期	木	Ⅱ		

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
数 理 解 析 学 特 論 V				
(山崎 文明)				
通期	集中			
統 計 数 理 学 特 論 VI				<p>数理計画法のさまざまな基礎手法、線形計画法、動的計画法、ラグランジュ法、変分問題、ゲーム論、ネットワークフローなどについて学び、この応用として数理ファイナンスにおける平均分散分析や最小分散ポートフォリオを解説します。また確率過程をもちいたオプション評価についても学びます。</p>
(津熊 久幸)				
通期	集中			
統 計 数 理 学 特 論 VII				<p>確率過程や統計学に関する数理モデルや現象の具体例を紹介し、様々な視点から考察して理論の基本概念の理解を深める。</p>
井上 玲				
後期	月	IV		
情 報 数 理 学 特 論 IV				<p>述語論理のコンパクト性定理とその応用を講ずる。 レーベンハイム＝スコレムの定理、公理系の完全性、量化記号消去、識別不能集合などを論じる。</p>
新井 敏康				
後期	水	II	121	
情 報 数 理 学 特 論 V				<p>オペレーティングシステム (OS) について講義する。OSは計算機の有効的な利用を容易にすることを目的とするが、それにはハードウェアとソフトウェアのインターフェイスを設定し、計算機システム全体としての実行効率の向上をはかる必要がある。そのために使われている、プロセス制御、記憶管理、ファイルシステム等の基礎的な仕組みについて学ぶ。</p>
(河野 健二)				
通期	集中			
情 報 数 理 学 特 論 VII				
萩原 学				
後期	火	III	122	
情 報 化 と 社 会				<p>コンピュータとネットワークの発展の歴史を辿るとともに、それらを利用するために必要な基礎知識と技能を学ぶ。また、情報化が社会に及ぼす影響を知的所有権、情報セキュリティ、情報倫理などをキーワードにして総合的に学ぶ。</p>
多田 充				
前期	火	II	F-51	
職 業 的 情 報 学 I				<p>実際に計算機がどのように使われているか、ソフトウェアがどのように開発されているか、また計算機を使ってどのような研究がなされているかについて外から人を招いて話をして貰い、情報学について視野を広めることを目標とする。</p>
通期	集中			
職 業 的 情 報 学 II				<p>計算機がどのように使われているか、ソフトウェアがどのように開発されているか、計算機を使ってどのような研究がなされているかについて外から人を招いて話をして貰い、いろいろな側面から理解することを目的とする。</p>
(伊知地 宏)・(的場 ひろし) (阿部 正佳)				
通期	集中			

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
代 数 学 続 論				<p>体の有限代数拡大の理論とガロア理論について講義する。有限体や正標数の体も扱う。付値の理論や、超越拡大の理論までは扱わない。</p>
安藤 哲哉				
前期	火	II	4号館2階マルチメディア講義室2	
幾 何 学				<p>曲面の微分幾何について講義する。空間内の曲面のパラメータ表示から始め、ガウス曲率を説明する。曲面に対するガウス・ボンネの定理の証明を目標とする。これは、曲面上でガウス曲率を積分するとオイラー数（の定数倍）になるという定理で、現代数学のいくつかの定理の原型となっている。</p>
久我 健一				
前期	木	III	4号館2階マルチメディア講義室2	
多 様 体 論 I				<p>曲線や曲面を一般次元で考えたものが多様体であり、数学の様々な領域で幾何学的考察の舞台となる。この講義では多様体の具体的な例から始め、滑らかな多様体の定義、接空間、微分可能写像等の基本的な概念を学ぶ。</p>
杉山 健一				
前期	水	IV	141	
多 様 体 論 II				<p>多様体論 I に続く講義である。微分形式について学ぶ。ベクトル場との関係、外積、閉形式、完全形式、積分、ストークスの定理、ドラーム・コホモロジー等について解説する。</p>
梶浦 宏成				
後期	水	IV	4号館2階マルチメディア講義室2	
トポロジー				<p>図形を曲げたり伸ばしたりしても変わらない性質にはどんなものがあるだろうか？「つながっている」「穴があいている」など思いつくが、実は他にもたくさんある。この講義では、それらを捉えるための重要手段としてホモロジー群を紹介する。</p>
杉山 健一				
後期	木	III	121	
現 代 解 析 I				<p>リーマン積分からルベーグ積分誕生までのお話をし、一般の集合上の測度、可測関数、ルベーグ積分を講義する。具体例としてユークリッド空間上のルベーグ積分を解説する。</p>
渚 勝				
前期	金	II	141	
現 代 解 析 II				<p>ノルム空間から初め、線形代数学や位相空間論の基本事項を確認しながら講義を行う。有限次元線形空間に代わってヒルベルト空間やバナッハ空間を、線形写像（行列）に代わって有界線形作用素や閉作用素を考え、無限次元線形代数学を展開する。</p>
松井 宏樹				
後期	金	II	123	
微 分 方 程 式 論 I				<p>まず微分方程式の存在と一意性定理、線形微分方程式の解の基本行列や定数変化法などをはじめとする基礎理論についての講義をおこない、さらに様々な微分方程式の解法、特に定数係数線形微分方程式に対する解法について学ぶ。</p>
石村 隆一				
前期	水	II	141	
微 分 方 程 式 論 II				<p>偏微分方程式の入門についての講義を行う。1階偏微分方程式の幾何学的な考察と解法、および2階の線形偏微分方程式について、特に典型的な熱方程式、ラプラス方程式、波動方程式を物理的意味にも配慮しながら講義する。</p>
岡田 靖則				
後期	水	II	4号館1階マルチメディア講義室1	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
確 率 論 I				測度論の基本的概念を解説して、確率空間の定義を行う。そして確率変数、確率分布、期待値を例を用いながら説明する。
種村 秀紀				
前期	火	IV	4号館1階マルチメディア講義室1	
確 率 論 II				期待値に対する収束定理、モーメントと特性関数の関連などの基本的性質を説明し、大数の法則、中心極限定理を解説する。さらに、マルチンゲール性、条件付期待値の基本的性質を勉強して、応用例を述べる。
種村 秀紀				
後期	火	IV	123	
数 理 統 計 学				点推定の理論、特に最尤推定の考え方とその性質について詳しく解説する。また、信頼区間の構築や仮説検定の理論についても展開し、特にNeyman-Pearsonの補題について詳しく解説する。更に、時間に応じて、線形モデルやノンパラメトリック統計的推測法についても、適宜取り入れる。
汪 金芳				
前期	水	III	大講義室	
数 理 統 計 学 演 習				数理統計学や確率論で学習した内容の理解を深めるため、例題の解説や問題演習を行う。また補遺的な基礎事項についても、必要に応じて解説する。
笹本 智弘				
後期	水	III	122	
ア ル ゴ リ ズ ム 論				言語や関数の計算の複雑さなど、計算量理論における基本的事項に関して講義する。
多田 充				
後期	月	III	141	
計 算 機 科 学 概 論				UNIXを題材として、計算機システムについての基本的事項および一般の原理に関する説明と問題演習を行う。題材としては、UNIXオペレーティングシステムの概要、C言語入門、計算機ネットワークを扱う。
山本 光晴				
後期	金	IV	123	
数 値 計 算 法				数値計算の基本事項について解説する。行列のいろいろな計算とその誤差、方程式の近似解の求め方についても解説する。数値計算用のソフトウェアを用いて、近似計算の原理を実感していただきたい。
渚 勝				
後期	火	II	4号館2階マルチメディア講義室2	
情 報 数 学 I				数学および情報数理学の基礎としての数理論理学について学ぶ。命題論理と述語論理の完全性定理を述べ、その応用についても触れる。
新井 敏康				
前期	木	III	123	
情 報 数 学 II				言語の複雑さは、系統的にいくつかのクラスに分類することができ、また同じものでもいくつかの表現法がある。この講義ではそういったもののうち、有限オートマトン、正則集合、文脈自由文法について講義する。
萩原 学				
前期	火	III	122	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
プログラミング言語論Ⅰ				Lispの1種であるSchemeについて、その文法やSchemeを使ったプログラミングについて講義するが、プログラミングの技法については、Schemeにとらわれないでプログラミングの一般に関連することを取り扱う。特に、Schemeの高階関数を利用したデータの抽象化の技法について学ぶ。
山本 光晴				
前期	木	Ⅱ	121	
プログラミング言語論Ⅱ				Prologによるプログラミングを講義する。Prologを利用しての知識データベース、知識表現、節形式の条件表現による情報検索、問題解決についてもふれ、さらにPrologの論理的基礎についても講義する。
桜井 貴文				
後期	木	Ⅱ	121	
計 算 理 論				直観的な概念である「計算可能性」の分析を通して、その数学的定義を与える。計算の機械モデルとして、チューリング機械とレジスタ機械を導入し、それらが計算可能性の意味で再帰関数と等価であることも示す。 また、計算によって解けない問題についても論ずる。
新井 敏康				
後期	木	Ⅲ	123	
コ ン パ イ ラ				高級言語翻訳系(コンパイラ)の構成法について講義する。超言語、字句解析、構文解析法、記号表、誤りの回復、意味付処理、実行時の記憶域の構成、コード生成、最適化等、コンパイラ構成法にかかわることについて解説する。
(山口 文彦)				
通期	集中		2号館6階 609	
ソフトウェア演習Ⅰ				「計算機科学概論」に引き続き、計算機システムについてさらに詳しく学ぶ。具体的にはUNIX上で、入出力、プロセス、シグナル、ネットワーク間通信等を扱うシステムコールを理解する。
桜井 貴文				
前期	金	Ⅲ	121	
ソフトウェア演習Ⅱ				言語としてSchemeとPrologを取り上げ、言語処理系の作成法を学ぶ。処理系(SchemeおよびCによるScheme、SchemeによるProlog)について講義した後、それを改造するという形で演習を行なう。
桜井 貴文				
後期	金	Ⅲ	141	

《物 理 学 科》

(注)「授業科目一覧」の順に、今年度開講する科目のみ記載されています。

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
現 代 物 理 学				大学で学ぶ物理学の全体像を把握し、最先端の物理学研究に親しむための準備を行う。そのためまず必要と考えられる物理や数学などに関して、少人数のセミナーを行う。またキャリア教育としてのポートフォリオ活用など大学での学業・活動の様々な記録とその活用法についても指導する。
全 教 員・(瀬戸 秀紀)				
前期	月	I	大講義室	
物 理 数 学 I				微分の物理的意義から始めて、テイラー展開、微分方程式の解法など物理学に直結する数学の基礎を解説する。
櫻井 建成				
前期	水	I	大講義室	
物 理 数 学 II				多重積分、線積分、面積分及びこれらに関連した各種定理を講義する。また、デルタ関数の初等的内容を解説する。
倉澤 治樹				
後期	水	I	大講義室	
力 学				解析力学の基礎的事項を講義する。まずLagrange形式に重点を置いて、その考え方や意義及び具体的な問題への応用例を解説した後、さらにHamilton形式の基礎を解説し、量子力学や統計力学を学ぶための準備とする。
(中村 敦)				
前期	火	IV	大講義室	
力 学 演 習				力学の講義に準じた演習
(海老原 亨)				
前期	月	II	141	
計 算 物 理 学				物理現象を記述する方程式を計算機を用いて解く際に必要になる数値計算法の基礎について講義と演習を行う。プログラミング言語としてはC言語を用いる。数値計算結果をグラフ表示する方法についても扱う。
松元 亮治				
前期	木	I	123	
物 理 数 学 III				ベクトルと行列、フーリエ級数、フーリエ解析について、初歩的な事柄の講義。
山田 篤志				
前期	木	III	大講義室	
物 理 数 学 IV				波動方程式、拡散方程式などの物理学に出てくる線形偏微分方程式の解法および複素関数論の初歩についての解説を行う。
岩崎 三郎				
後期	木	III	141	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
電 磁 気 学				Maxwell方程式から出発して、電磁波の電波、放射を扱う。また、電気回路について、交流回路、過渡現象を扱う。
大濱 哲夫				
後期	金	I	123	
電 磁 気 学 演 習				電磁気学の講義内容を補足説明し理解を深める。そのために毎回演習問題を解いて提出してもらう。
岩崎 三郎				
後期	木	V	141	
量 子 力 学 I				量子力学の基礎原理、水素原子、角運動量などの量子力学的取扱いを解説し、量子力学の基礎をしっかりと学ぶ。
倉澤 治樹				
前期	火	II	141	
量 子 力 学 演 習 I				量子力学Iの講義内容をふまえて、なるべく多くの基礎的な問題を解く演習を行い理解を深める。特に、量子力学の数理と基礎原理、波束の伝搬、対称性と物理量、中心力場と軌道・スピン角運動量、角運動量の合成などを扱う。
中山 隆史				
前期	月	IV	123	
統 計 物 理 学 I				平衡系の統計物理学を基礎から論じる。内容は次の通り：1 熱力学のまとめ、2 微視状態数の計算と小正準集合理論、3 正準集合理論と簡単な応用、4 粒子の統計性と量子統計法
太田 幸則				
前期	火	V	123	
統 計 物 理 学 演 習 I				演習問題を解くことを通して平衡系の統計物理学に習熟する。内容は次の通り：1. 熱力学のまとめ、2. 微視状態数の計算と小正準集合理論、3. 正準集合理論と簡単な応用、4. 粒子の統計性と量子統計法
横田 紘子				
前期	月	V	調整中	
量 子 力 学 II				量子力学における近似法（時間に依存しない・する摂動論、変分法など）、散乱問題（グリーン関数と極、断面積、ボルン近似など）、多粒子系の量子力学（第2量子化、電磁場の量子化、コヒーレント状態など）に関し、例をまじえながら講義する。
中山 隆史				
後期	木	II	大講義室	
量 子 力 学 演 習 II				「量子力学II」の講義に即した問題演習を行う。特に、近似法（摂動論、変分法、WKB）、散乱問題等について、基本的な問題を解き、理解を深める。
中田 仁				
後期	月	II	141	
統 計 物 理 学 II				平衡系の統計物理学を基礎から論じる。内容は次の通り：1 大正準集合理論と理想量子気体、2 波動場の統計力学と素励起の概念、3 体系の安定性とゆらぎ、4 相互作用の強い系への統計力学の応用
太田 幸則				
後期	火	II	123	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
統計物理学演習Ⅱ				演習問題を解くことを通して平衡系の統計物理学に習熟する。内容は次の通り：1. 大正準集合理論と理想量子気体、2. 波動場の統計力学と素励起の概念、3. 体系の安定性とゆらぎ、4. 相互作用の強い系への統計力学の応用
山田 篤志				
後期	金	Ⅱ	大講義室	
物理学実験				物理学は自然現象に強く立脚しており、実験事実に基づいて論理が展開される。多様な現象をより単純で美しい理論で組立てを理解しようと指向する学問であることを身をもって学び取る。
全 教 員・(福田 茂一) (野田 耕司)・(高田 栄一)				
通期	金	Ⅲ～Ⅴ		
卒業研究				
全 教 員				
通期	集中		各研究室	
基礎物理学演習Ⅰ				素粒子物理学分野の研究室での卒業研究の課題に関連し教科書や原著論文等を輪読する。発表とそれに基づく討論を通して、この分野の基礎知識を修得し、研究の意義を理解する。
近藤 慶一・山田 篤志				
通期	集中		各研究室	
基礎物理学演習Ⅱ				宇宙物理学分野の研究室での卒業研究の課題に関連した教科書や解説記事、原著論文を輪読する。発表とそれに基づく討論を通して、この分野の基礎知識を修得し理解を深める。
松元 亮治・宮路 茂樹 花輪 知幸				
通期	集中		各研究室	
基礎物理学演習Ⅲ				粒子線物理学研究室の研究分野に関連する基礎知識の習得を、最近の発展に照らしながら学ぶ。
河合 秀幸・吉田 滋 間瀬 圭一				
通期	集中		各研究室	
計算物理学演習Ⅰ				原子核理論分野の専門的な教科書や原著論文を読み、発表や討論を行うことによって、この分野の基礎的な知識を修得し理解を深める。
倉澤 治樹・中田 仁 岩崎 三郎				
通期	集中		各研究室	
計算物理学演習Ⅲ				物性理論物理学の専門的な教科書や論文を読み、その基礎や考え方を修得すると共に、関連した課題を解法し発表・討論することで理解を深める。
中山 隆史				
通期	集中		各研究室	
計算物理学演習Ⅳ				凝縮系物理学分野の専門的な教科書や原著論文などを読み、内容を理解し、発表・討論を行うことによって、この分野の基礎的な知識を修得する。
太田 幸則				
通期	集中		各研究室	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
凝 縮 系 物 理 学 演 習 I				半導体の光物性および量子伝導分野の基本的文献を輪読し内容の把握と理解の方法を学ぶ。また、卒業研究に関連した専門分野の文献の読み方を学ぶ。
音 賢一・中嶋 誠				
通期	集中		各研究室	
凝 縮 系 物 理 学 演 習 II				凝縮系物理学の教科書や論文を読み、基礎知識を習得する。発表や討論を通して、この分野の理解を深める。
小堀 洋・大濱 哲夫 深澤 英人・横田 紘子				
通期	集中		各研究室	
凝 縮 系 物 理 学 演 習 III				非線形科学、特に、リズム現象や時間空間的パターン形成についての専門分野に関して学ぶ。
櫻井 建成・北畑 裕之				
通期	集中		各研究室	
物 理 数 学 演 習 I				具体的な演習問題を解くことにより「物理数学I」の理解を深める。
間瀬 圭一				
前期	水	Ⅲ	123	
物 理 数 学 演 習 II				「物理数学II」の講義内容に即した演習問題を解く。
近藤 慶一				
後期	水	Ⅲ	123	
物 理 数 学 演 習 III				ベクトルと行列、常微分方程式、フーリエ級数、フーリエ解析について、初歩的な事柄の演習。
山田 篤志				
前期	木	Ⅳ	大講義室	
物 理 数 学 演 習 IV				物理数学IVの授業に沿って、物理学における線形偏微分方程式、複素関数論に関する演習を行う。
岩崎 三郎				
後期	木	Ⅳ	141	
計 算 物 理 学 実 習 I				計算物理学の基礎となる数値計算手法の習得を目標とし、典型的な問題に対して実際にプログラミングを行っていく中で、数値計算能力を高める。
宮路 茂樹				
前期	火	Ⅳ	123	
計 算 物 理 学 実 習 II				物理学科の各研究室の教育研究分野の内容に対応した具体的課題に即したコンピュータプログラムの開発を行うことにより数値計算法を学習し物理学の諸問題への応用力を養う。
全 教 員				
後期	集中		各研究室	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
流 体 力 学 (横井 喜充)				連続体力学の立場から、弾性体や流体を捉える。力に応じた変形をする弾性体の変形や解析する方法を学ぶ。また、空気や水のように自由に変形する流体の運動を解析する手法を学ぶ。
前期	木	II	141	
特 殊 相 対 論 吉田 滋				
前期	金	II	141	特殊相対性理論の基礎を解説する。時間・空間に対する考え方、質量とエネルギーの等価性、電磁気学の相対論的記述など、理論が形成される論理的過程を中心に基本的概念の習得を目的とする。
素 粒 子 物 理 学 河合 秀幸				
後期	月	III	122	
原 子 核 物 理 学 中田 仁				量子力学の学習内容を基にして、原子核の構造についての基礎的知識から最近の話題までを講義する。主な内容は次の通りである：量子力学の復習、原子核における密度とエネルギーの飽和性、原子核の殻構造、核力、不安定核の構造に関する諸問題。
後期	水	III	141	
宇 宙 物 理 学 A 松元 亮治				
後期	水	IV	122	様々な天体現象を理解するために必要になる気体力学、電磁波放射過程、原子核反応、熱統計力学に焦点を当て、具体的な天体現象を例にあげながら、これらに共通する物理過程について講義する。
物 性 物 理 学 A 音 賢一				
前期	木	III	141	
物 性 物 理 学 B 小堀 洋・中嶋 誠				結晶中の周期ポテンシャルの下での電子のBloch状態とエネルギーバンド構造について学ぶ。また、(電気的・光学的・磁気的特性)がどのようにバンド構造と関わっているかを学ぶ。
後期	水	II	122	
物 性 物 理 学 C 北畑 裕之				
後期	火	IV	122	平衡系の熱力学、統計力学の拡張として、平衡系からわずかにずれた線形非平衡領域で成り立つ理論について学ぶ。次に、平衡系から大きくずれた非線形非平衡領域ではじめて見られる秩序構造に関して、どのような取扱いが可能であるか学ぶ。
放 射 線 物 理 学 (福田 茂一)・(野田 耕司) (高田 栄一)				
後期	木	V	121	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
非平衡系の統計物理学				非平衡系の統計物理学について、基礎から分かりやすく講義する。
(瀬戸 秀紀)				
通期	集中			
物性物理学特論				広い意味での物性物理学に関連する比較的高度な内容の基礎を講義する。学外から著名な先生をお招きし、基礎と最新の話題に関し分かりやすく講義して頂きます。
(野村 健太郎)				
通期	集中		物理会議室	
宇宙物理学特論				3・4年生向けに、X線による観測天文学および観測技術について講義する。
(北本 俊二)				
通期	集中			
力学特論				古典力学に限らず、すべての物理理論を統一的に記述できる枠組みとしての解析力学の役割と基礎概念を理解し、その本質を習得することを目標とする。
近藤 慶一				
後期	火	II	122	
電磁気学特論				Maxwellの方程式を出発点に電磁波の伝播・発生・検知について講義する。光学やレーザーさらには通信の基礎についての理解を深める。
中嶋 誠				
前期	水	II	122	
相対論特論				一般相対論の指導原理である等価原理から出発し、その数学的基礎となる微分幾何学、テンソル解析を踏まえて、アインシュタイン方程式を導出し、その解として計量を求める。応用としてブラックホール、重力波、宇宙論への適用等を論じる。
近藤 慶一				
後期	月	II	1号館1階 セミナー室	
量子力学特論				ローレンツ変換に対して共変な量子力学の方程式であるディラック方程式を導出し、その基本的性質及び簡単な系に適用して相対論的效果を考察する。
倉澤 治樹				
後期	火	III	141	
場の量子論入門				ゲージ原理は素粒子の相互作用を理解探求してゆく上でもっとも重要な指導原理と思われるものの一つである。このゲージ原理とそれに基づいた素粒子理論について、基本的な事柄を講義する。
山田 篤志				
後期	金	IV	122	
統計物理学Ⅲ				平衡系の統計物理学を概論的かつ体系的に講義する。学部レベルの復習の後、相互作用する多体系に焦点を当て、局在スピン系および遍歴電子系を取り扱う種々の手法を概説する。平均場理論から始め、それを超える試み、特に低次元系や無限次元系における厳密な取り扱いを概説する。また、超伝導理論、ランダウ理論、臨界現象の理論、繰り込み理論の初歩などを紹介する。
太田 幸則				
前期	火	III	121	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
宇 宙 物 理 学 B				宇宙の構造形成過程と高エネルギー宇宙現象について、観測、理論、実験の最新成果を踏まえて論じる。講義の前半では標準宇宙モデルを紹介し、膨張宇宙の中で銀河・銀河団等がどのようにして形成されたかを議論する。後半ではX線、ガンマ線、高エネルギー粒子線等を放射する天体高エネルギー現象と宇宙線の加速機構を扱う。
松元 亮治・吉田 滋				
前期	月	Ⅱ	1号館 セミナー室	
計 算 物 理 学 特 別 講 義 I				物理学の専門分野における特別な学習活動に対し単位を認定する。
全 教 員				
通期	集中			
計 算 物 理 学 特 別 講 義 II				物理学の専門分野における特別な学習活動に対し単位を認定する。
全 教 員				
通期	集中			

《化 学 科》

(注)「授業科目一覧」の順に、今年度開講する科目のみ記載されています。

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
化学基礎セミナー				大学での諸学問の学び方、諸分野への普遍的な広がりを与えるための必読書の紹介、現代化学研究の現状や最先端問題の紹介、更に化学の実験手法のワークショップ等を各教員の専門分野を中心に紹介する。
全 教 員				
前期	金	IV		
基本物理化学Ⅰ				気体のエネルギーを分子運動論から理解できるようにし、分子間相互作用を考慮した気体の状態方程式を学びます。分子の運動には振動や回転があることと、それぞれのエネルギーおよび分布について学びます。次に化学反応式により反応次数に応じた反応速度を導き、素反応過程と反応速度の導出、および活性化エネルギーの温度依存性について学びます。
泉 康雄				
前期	木	II	大講義室	
基本物理化学Ⅱ				分子・原子からなる化学の対象系のエネルギーを表す内部エネルギーと物質系の安定性を表すエンタルピー、変化の方向を示すエントロピーの具体例を用い、マクロな物質形の安定性、相平衡、化学平衡をギブスエネルギーで表す方法、および、溶液の熱力学的基礎を学びます。
加納 博文				
後期	火	V	大講義室	
基礎無機化学Ⅰ				無機化学全般の基礎が学習できるように、典型的な理論をわかりやすく解説し、一部の元素及び無機化合物を取り上げ性質や用途を説明する。これらの基礎的な知識を通して、未知の領域に視野を広げる。
工藤 義広				
前期	月	II	大講義室	
基礎無機化学Ⅱ				主要な元素の単体及び化合物について、その性質や構造などを系統的に解説する。
勝田 正一				
後期	月	II	大講義室	
基礎有機化学ⅠA				有機化学の基礎を学ぶ。指定された教科書の1章から4章について、順を追って、板書を中心に説明する。受講者の修得度の評価は2回の筆記試験によって行う。
柳澤 章				
前期	水	I	141	
基礎有機化学ⅠB				基礎有機化学ⅠAの続きの講義である。指定された教科書の5章から9章について、順を追って、板書を中心に説明する。受講者の修得度の評価は2回の筆記試験によって行う。
柳澤 章				
後期	水	I	141	
基盤化学演習Ⅰ				基本物理化学Ⅰ、Ⅱおよび化学統計熱力学Ⅰにおいて取り上げる重要概念と法則の理解を演習により深める。
二木 かおり				
前期	月	III	141	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
分 析 化 学 I				分析化学の基礎として、濃度の表し方、活量および化学平衡などの基本概念を講述した上で、各種の容量分析法、溶媒抽出法などの化学分析法について解説する。
勝田 正一				
前期	木	I	141	
無 機 ・ 分 析 化 学 実 験 I				無機・分析化学における実験操作の基本を解説し、無機化合物の合成法及び物質の定量的な取り扱いについての実習を行う。
勝田 正一・沼子 千弥				
前期	木・金	Ⅲ～Ⅴ	化学実験室	
有 機 化 学 実 験 I				有機化学の基本である液体及び固体の精製技術を修得すると共に、サルファ剤の合成、Diels-Alder反応及び天然有機化合物の単離を通し、有機化学の身近さを学ぶ。
荒井 孝義・森山 克彦				
前期	木・金	Ⅲ～Ⅴ	化学実験室	
物 理 化 学 実 験 I				物理化学の基礎的実験を通して物理化学現象を深く理解するとともに、物理化学の基本的手法や装置の取り扱い方を学ぶことを目的とする。また、研究計画、実験、実験結果の整理、考察など一連の研究活動に必要な基本的姿勢を身につける。
城田 秀明・泉 康雄 小西 健久・大場 友則 森田 剛				
後期	木・金	Ⅲ～Ⅴ	化学実験室	
生 化 学 実 験 I				授業内容にある8種目の実験について、配布テキストに基づき、原理と実験操作を理解し、各実験グループにおいて正しく実験操作を行う。得られた結果と考察を含めたレポートを作成する。
米澤 直人・村田 武士 坂根 郁夫・赤間 邦子				
後期	木・金	Ⅲ～Ⅴ	化学実験室	
蛋 白 質 ・ 核 酸 化 学 I				蛋白質と核酸の一次構造、高次構造と化学的性質を述べるとともに、それらの生物学的機能を構造と化学的性質に基づいて解説する。Iでは主に蛋白質を扱う。
坂根 郁夫				
前期	水	I	123	
蛋 白 質 ・ 核 酸 化 学 II				蛋白質と核酸の一次構造、高次構造と化学的性質を述べるとともに、それらの生物学的機能を構造と化学的性質に基づいて解説する。IIでは主に核酸を扱う。
坂根 郁夫				
後期	水	I	123	
有 機 化 学 演 習 I				有機化学の基礎を復習し、演習問題を解く。
吉田 和弘・森山 克彦				
前期	月	I	123	
無 機 ・ 分 析 化 学 演 習 I				無機・分析化学に関連する溶液内平衡反応の原理とその計算法を中心に解説し、問題についての演習を行う。
沼子 千弥				
前期	月	IV	141	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
基 盤 化 学 演 習 II				基本物理化学Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を、演習問題を解くことで、より深く詳細に検討し身につける。問題の解法過程で物理化学において必要な基礎数学についても理解する。
二木 かおり				
前期	火	Ⅱ	123	
無 機 ・ 分 析 化 学 実 験 II				機器分析法を用いた無機化合物の機能評価法を中心に解説し、その手法について実習を行う。
工藤 義広・沼子 千弥				
前期	火・水	Ⅲ～Ⅴ	化学実験室	
有 機 化 学 実 験 II				有機反応の代表的な実験として、Fischerエステル合成、Grignard反応、ベンゾイン縮合反応、光反応、Friedel-Crafts反応、ポリマーの合成及びアゾ染料の合成を行う。これらの実験を通じて、目的物の基礎的単離精製法を学ぶとともに、NMRやIR等のスペクトルによる構造解析を学ぶ。
吉田 和弘・森山 克彦				
前期	火・水	Ⅲ～Ⅴ	化学実験室	
生 化 学 演 習 I				タンパク質・糖質・脂質・核酸などの生体物質に関する問題演習を発表形式で行うことにより、基礎的な生化学の概念を復習する。区切りのよいところで小テストを数回行い、演習内容の理解を助ける。
米澤 直人・村田 武士				
前期	金	Ⅲ	123	
物 理 化 学 実 験 II				物理化学実験Ⅰに続いて基礎的実験を行い、物理化学現象をさらに深く理解するとともに、物理化学の基本的手法や装置の取り扱い方を学ぶことを目的とする。また、研究計画、実験、実験結果の整理、考察など一連の研究活動に必要な基本的姿勢を身につける。
城田 秀明・泉 康雄 小西 健久・大場 友則 森田 剛				
後期	火・水	Ⅲ～Ⅴ	化学実験室	
生 化 学 実 験 II				授業内容にある8種目の実験について、配布テキストに基づき、原理・実験操作を理解し、各班において正しく実験操作を行う。得られた結果と考察を含めたレポートを作成する。
村田 武士・米澤 直人 坂根 郁夫・赤間 邦子				
後期	火・水	Ⅲ～Ⅴ	化学実験室	
有 機 化 学 演 習 II				有機化学を深く理解し、柔軟に思考できる能力を身につける。
吉田 和弘・森山 克彦				
後期	木	I	123	
生 化 学 演 習 II				The United States Medical Licensing Examination (USMLE) の生化学セクションの問題を各自が解き、解説を加えていくことにより、これまで学んできた生化学の知識を整理し有機的に関連させる。
坂根 郁夫・村田 武士				
後期	金	Ⅳ	141	
卒 業 研 究				
各 教 員				
通期			各研究室	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
無 機 化 学 I				無機化合物の溶液内反応を、化学平衡の立場から、具体例を挙げ解説する。
沼子 千弥				
前期	月	I	141	
化 学 統 計 熱 力 学 I				統計力学の基礎的な考え方を学ぶ。分子論的に温度、エントロピー、自由エネルギーを定義し、熱力学と関連づける。
西川 恵子				
前期	水	II	123	
量 子 化 学 I				量子化学の基本的考え方に慣れるために、話題を井戸型ポテンシャル（有機色素のモデル）、調和振動子（分子振動のモデル）、水素原子に絞る。不確定性原理、エネルギーと節の関係など実例を通して量子力学に慣れ親しむ。
小西 健久				
後期	月	IV	141	
化 学 統 計 熱 力 学 II				化学統計熱力学 I の基礎を基に、化学への応用に重点をおいて学ぶ。低温における量子効果、相平衡、相変化など、出来るだけ具体的な問題を取り上げる。
西川 恵子				
後期	水	II	123	
無 機 化 学 II				無機化合物を含む溶液の分析法、研究法について、データ解析法の考え方・モデルを、具体例を挙げ解説する。
工藤 義広				
後期	火	I	123	
分 析 化 学 II				化学物質の定性・定量に用いられる各種機器分析法（分子・原子スペクトル分析、質量分析、クロマトグラフィー、X線分析など）の原理、装置および応用について概説する。
沼子 千弥				
後期	火	II	141	
量 子 化 学 II				量子化学 I で重要な基本例を学んだが、ここではやや抽象的な一般論、それを元にしていくつかの近似法について学ぶ。この手法を学ぶことによって、応用範囲が飛躍的に広がる。
藤川 高志				
前期	月	III	122	
錯 体 化 学				錯体化学の概論を述べ、特に、溶液中の錯体の性質や構造並びに研究方法について論ずる。
工藤 義広				
前期	火	I	122	
表 面 物 理 化 学				界面の特徴が強く現れる超微粒子および高表面積物質、巨大分子溶液などのコロイド系を例に挙げながら、界面が持つ特性を理解するために必要な、分子間力と粒子間力、界面の熱力学、酔歩運動、表面構造、吸着などの説明をする。
加納 博文				
前期	金	II	121	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
物 質 結 合 論				量子化学Ⅰ、Ⅱで学んだ事を基にして、電子数が多い系、原子、分子、固体、固体表面の電子状態を独立粒子近似で統一的に議論する。用いる数学は初等的なものに限定されている。
藤川 高志				
後期	月	Ⅲ	121	
無 機 ・ 分 析 化 学 演 習 Ⅱ				無機化学及び分析化学に関する基礎力と問題解決能力を高めるため、基礎的な例題の解説や発展的な問題演習を行う。
勝田 正一				
後期	月	Ⅳ	122	
分 子 分 光 学				光と分子の相互作用を調べることにより明らかにできる、分子の静的構造、回転、振動、電子励起状態、動的挙動（ダイナミクス）について、その方法論と原理を学ぶ。
城田 秀明				
後期	木	Ⅱ	122	
物 性 化 学				溶液や固体といった原子やイオン、分子などが集合した状態の物理化学的基本原理や法則を学び、固体物性の基礎を理解する。
小西 健久				
前期	水	Ⅱ	121	
基 礎 有 機 化 学 Ⅱ				基礎有機化学ⅠBの続きの講義である。指定された教科書の10章から14章について、順を追って、板書を中心に説明する。受講者の修得度の評価は2回の筆記試験によって行う。
柳澤 章				
前期	木	Ⅱ	123	
細 胞 生 化 学				先ず、生体物質（タンパク質、脂質、核酸等）について、構造と機能および物質間相互作用等を中心に基本的内容を学習する。さらに、それらの代謝やエネルギー生成、物質輸送等の多様な反応について、その反応機構とともに解説していく。
村田 武士				
後期	月	Ⅲ	123	
酵 素 化 学				酵素の触媒活性及び特異性の発現機構を酵素反応速度論及び高次構造と機能の相関に重点を置き解説する。
赤間 邦子				
後期	木	Ⅱ	123	
有 機 化 学 Ⅰ				指定の教科書下巻のカルボニル基の化学Ⅰ、Ⅱ、カルボン酸、カルボン酸誘導体について講義する。形式的には基礎有機化学ⅠA、ⅠB、Ⅱの延長であるが、より高度の有機化学について解説する。
東郷 秀雄				
後期	金	Ⅱ	141	
有 機 元 素 化 学				有機化合物の物性および反応性を元素の特性によって分類し、順を追って説明する。受講者の修得度の評価は、筆記試験等の方法により行う。
荒井 孝義				
後期	月	Ⅰ	123	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
有 機 反 応 機 構 論				指定の教科書をもとに、膨大な数の素反応からなる有機化学を、反応機構面から整理し、物理有機化学的に解説していくとともに、有機化合物の構造及び電子の効果と反応性の関係を、官能基の性質と対比させて詳述する。
東郷 秀雄				
後期	水	II	141	
生 化 学 研 究 法				タンパク質を中心として、生体高分子の構造と機能を研究する上で基礎となる、精製法および分析法についてトピックスを交え概説する。
赤間 邦子				
前期	木	II	122	
遺 伝 子 生 化 学				核酸の構造等の基礎的内容から始める。遺伝情報の伝わり方（複製、転写、翻訳）、DNAの変異および修復機構、ゲノム構造、遺伝子組換え技術等について概説する。
米澤 直人				
前期	金	I	123	
有 機 化 学 II				指定の教科書下巻のうち、15章、20～23章の内容を中心にして講義する。
荒井 孝義				
前期	月	II	123	
免 疫 化 学				自己・非自己の区別と非自己の排除の分子メカニズムを概説し、クローン選択説などいくつかの重要な概念を解説する。抗体の構造と機能ならびに免疫化学的手法の解説に重点を置く。
米澤 直人				
後期	水	I	121	
放 射 化 学				放射性核種および種々の原子核現象の化学について解説する。
(入江 俊章)				
後期	月	I	141	
環 境 化 学 II				環境物質の循環に関する基礎的内容と環境物質を分析する手法について解説する。
(保倉 明子)				
通期	集中		調整中	
化 学 英 語				英語で発表する機会が増えたとはいえ、一般の技術者が頻繁に必要なのは英文を正確に、できれば筆者の気持ちに沿って理解することである。化学関係の英文を15回に亘って読んでいく。毎回出席を取り、発表者には出席点に加え発表点をあたえる。さらに、毎回課題を与え提出者にレポート点を加える。最後の授業で試験を行い、レポートの採点3回の結果とあわせ、この二つの結果に、出席点、発表点、レポート点を加算し、最終的な総合評価とする。
(仲吉 洋一)				
前期	金	II	123	
生 物 物 理 化 学				蛋白質や核酸等の生体高分子の立体構造とその決定法をトピックスを交え概説する。
(田之倉 優)				
通期	集中			

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
化 学 数 学				熱・統計力学、量子力学を学ぶ上で基礎となる数学的な技術を習得する。1、2年で習った微積分、線形代数を用いて化学の諸問題を解いていき、さらに今まで学習しなかった数学的手法、例えば複素解析などを学ぶ。
(雨宮 健太)				
前期	火	I	大講義室	
生 化 学 特 講				我々が、物を見たり、聞いたり、感じたりすること。さらには、学習・記憶等も全て脳の働きによる。本講義では、脳の基本要素であるニューロンから脳の働きまでを概説する。
(饗場 篤)				
通期	集中			
構 造 有 機 化 学				有機化合物の構造に関する基礎的事項について解説する。
(後藤 敬)				
通期	集中			
有 機 工 業 化 学				有機化学関連の学問が産業界でどのような役割を担っているかについて論じる。本講義では、主として農薬産業における有機工業化学について解説する。
(渡辺 淳一)				
通期	集中			

《生物学科》

(注)「授業科目一覧」の順に、今年度開講する科目のみ記載されています。

授業科目名				授 業 概 要
担当教員				
期別	曜日	時限	教室	
生物学基礎実験2				生物学を研究するために用いられている各専門分野の基礎的な観察方法および測定方法を学ぶ。
全教員				
前期	月	Ⅲ・Ⅳ	総合校舎E号館学生実験室	
生命科学 B 5				幅広いスケールと多様な分野にわたる現代生態学について、基礎的知識を習得すると共に、生態学の基礎的概念や考え方について理解する。
土谷 岳令・村上 正志				
通期	集中		4号館2階マルチメディア講義室2	
生命科学 B 6				生物界は共通祖先から種分化を繰り返して多様化してきた。系統学とはこの過去の進化プロセスが生んだ系統(血縁)関係を推定する学問である。進化理論の発展をたどると共に、この系統推定の方法について学ぶ。また植物・動物の系統進化についても概説する。
綿野 泰行・朝川 毅守 小笠原 道生				
通期	集中		4号館2階マルチメディア講義室2	
生命科学 B 2				多細胞生物の生命現象を理解するには、細胞内部で起きている変化と共に細胞の集合体が示す特性にも注目する必要がある。この講義では、細胞小器官の役割からマクロな組織・器官の成り立ちまで幅広く細胞について概観する。
松浦 彰・石川 裕之 寺崎 朝子				
通期	集中		4号館2階マルチメディア講義室2	
生命科学 B 1				ひとつの受精卵から始まる個体の発生は、最も基本的な生命現象の一つである。この講義では、いくつかのモデル動物における個体発生の基本的な過程を概観し、発生を制御する遺伝子発現との関連の理解をはかる。
阿部 洋志・野川 宏幸				
通期	集中		4号館2階マルチメディア講義室2	
生命科学B3(分子生物学入門)				核酸の構造や性質について詳しく述べると共に、DNAの複製・修復・組換え、遺伝情報の発現、そして大腸菌の分子生物学と遺伝子組換え実験について概説する。さらに、遺伝子による形質の決定や形態形成の制御、遺伝子の変異によって起こる形質の異常などの分子機構について解説する。
田村 隆明・遠藤 剛				
後期	木	I	大講義室 一部自然科学2 マルチメディア	
生命科学 B 4				生体を構成する分子の構造と機能の関係を学ぶと共に代謝の基礎を学ぶ。
山本 啓一・伊藤 光二				
通期	集中		4号館2階マルチメディア講義室2	
生物学セミナー				生物学科で行われている研究分野の内容の把握し、将来に生かすため、チューター制による少人数教育により大学での研究の現場に触れるとともに、キャリアポートフォリオを活用しながら、自分のキャリアパスについて考える。
全教員				
前期	金	V	4号館2階マルチメディア講義室2	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
生 物 学 総 合 演 習				分子細胞生物学講座には分子生物学、分子生理学、細胞生物学、発生生物学の4分野が、多様性生物学講座には生態学、系統学の2分野がある。各研究室の研究課題を中心に、研究の背景、目的、成果、およびその意義と展望を解説する。これにより学生たちに、卒業研究を行なう研究室を決定するための指針を提供する。
全 教 員				
後期	集中			
発 生 生 物 学 I				さまざまな動物の個体発生の基本的な理解を計る。具体的には、無脊椎動物(海綿動物・扁形動物・線虫・軟体動物・棘皮動物)および脊椎動物の初期発生の分子機構について説明し、発生現象に横たわる普遍性と多様性を考察する。
阿部 洋志				
前期	月	II	総合校舎 F-20	
形 態 形 成 学				動物の体や諸器官は、その発生過程において細胞分化と形態形成が同時に進行して形成される。本講義では形態形成の面に焦点を絞り、マクロな形態形成とその成因となるミクロな要素との関連について解説する。
野川 宏幸				
前期	金	I	4号館1階マ ルチメディア 講義室1	
卒 業 研 究				
各 教 員				
通期				
分 子 進 化 発 生 学 I				動物のかたちづくり(発生)の進化と、それをもたらす分子的背景(構造や動態)について概説する。本講義では、無脊椎動物のボディープランとその進化についての理解をはかる。
小笠原 道生				
前期	火	I	123	
植 物 系 統 学 I				陸上植物の比較形態学および系統・進化・分類について講義を行う。
梶田 忠				
前期	水	II	大講義室	
分 子 生 理 学 I				私達の身体の生理的現象を輸送体、チャネル、受容体といったタンパク質分子の機能から解説する。
山本 啓一				
前期	金	II	大講義室	
生 体 分 子 機 能 学 I				生命の活動をタンパク質ホールディング、シャペロン、シャペロニン、ユビキチン、分子スイッチ、分子モーター、膜輸送タンパク質などタンパク質分子の機能から解説する。
伊藤 光二				
後期	木	I	141	
動 物 生 態 学				生物の行動、繁殖生態、および生活史特性とその変化、個体群の構造や動態、更により大きな空間スケールを対象とする。景観生態学やマクロ生態学の概略を俯瞰し、動物や微生物を題材とした事例研究を研究する。
村上 正志				
後期	金	I	大講義室	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
生 理 化 学 II				生物が動く仕組みや動物の生理機構がどのように制御され、統合されているかについて学ぶ。細胞運動、筋肉、バイオメカニクス、神経と神経系および内分泌系を主に解説する。
大橋 一世				
前期	木	I	大講義室	
分 子 生 命 情 報 学 II				細胞分化、分化の可塑性、組織の再生、アポトーシス、細胞接着、細胞遊走を制御する様々な分子と、それらによって構成されるシグナル伝達ネットワークについて、医学への応用面を含めて解説する。
遠藤 剛				
前期	木	II	4号館1階マルチメディア講義室1	
細 胞・組 織 分 化 制 御 学				動物の体や諸器官は、その発生過程において細胞分化と組織形成が同時に進行して形成される。本講義ではこれらの機構を理解する上で重要な組織学を微細構造のレベルを含めて解説する。
佐藤 成樹				
前期	火	II	4号館1階マルチメディア講義室1	
海 洋 生 物 学				海洋における生物の進化、生態、生理について解説する。
富樫 辰也・菊地 友則				
後期	集中			
細 胞 構 築 学				真核生物の細胞内構造は、翻訳されたタンパク質が細胞内で特定の秩序をもって配置されることにより構築されている。本講義では、細胞内のタンパク質の集合・局在化・選別の分子機構に焦点をあてて解説し、細胞小器官の構築と細胞機能発現制御の基本原理に関する理解をはかる。
松浦 彰				
後期	火	I	4号館1階マルチメディア講義室1	
植 物 生 態 学				草原とくに湿原の成因、構造、機能について概説する。
土谷 岳令				
後期	火	II	4号館1階マルチメディア講義室1	
分 子 生 理 学 II				酸素の活性や細胞表面受容体の働きを数理モデルを使って解析することによりさらに理解を深める。
山本 啓一				
通期	集中		大講義室	
分 子 生 物 学 II				遺伝子発現全般について講義する。転写機構、転写制御因子、転写制御機構について講義するが、真核生物に関しては、発生・分化・癌・神経機能といった生命現象も踏まえて特に詳しく解説する。転写後修飾、翻訳、翻訳後修飾、RNAの機能などについても述べる。
田村 隆明				
後期	水	I	自然2マルチ講義	
進 化 生 物 学 II				進化研究は、1) 進化の機構のプロセスと 2) 生命進化の歴史推定の二つのテーマを持つ。これらの理解のために重要な、集団遺伝学と系統推定法について講義を行う。
綿野 泰行				
後期	水	II	大講義室	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
生 体 構 造 学 II				生体構造の形成・維持機構を説明し、関係するタンパク質の構造、機能、研究手法について解説する。
石川 裕之				
後期	木	II	4号館2階マルチメディア講義室2	
発 生 生 物 学 実 験 I				脊椎動物の骨格の比較解剖学及びXenopusの発生に関する実験。脊椎動物の各綱に属する動物の骨格標本を作製し、それらの間の普遍性と多様性を理解することを目的とする。解剖する動物は、硬骨魚類、カエル、ヘビ・カナヘビ・カメ、ウズラ、ラット・ブタ頭部を予定。精密なスケッチを課す。
阿部 洋志				
通期	集中		生物学実験室	
組 織 学 実 験				マウスを材料に、いくつかの臓器の組織標本をパラフィン切片法により作製する。作製した組織標本を顕微鏡観察し、細胞、組織、器官の成り立ちを理解する。
野川 宏幸				
通期	月・水	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	
細 胞 遺 伝 学 実 験				モデル生物キイロシヨウジョウバエを材料にして、遺伝学の基本的概念を理解する。さらに、突然変異体を用いた遺伝学的解析手法の基礎を習得する。
石川 裕之				
通期	集中		生物学実験室	
動 物 学 臨 海 実 験				沿岸域に生息する動物について、生態学に関する実験を行う。特に動物行動観察の基本的な手法について生体を用いて習得する。
菊地 友則				
通期	集中		海洋バイオシステム研究センター	
発 生 生 物 学 特 講 A				生物の多様性は生物学の根本である。様々な生物の生命現象を知り、知識を蓄積していくことなしに生命というものの理解は進まない。本講義では原生生物テトラヒメナの分子生物学をとりあげ、より深く生物を理解するための一助とする。
(沼田 治)				
通期	集中			
系 統 学 実 験 I				植物系統分類学にとって、植物標本の作製や、様々な形態形質の観察とその結果を用いた種の同定は最も基礎的な手法である。実際に野外で生育する植物を用いて、これらの手法について学ぶ。
梶田 忠・朝川 毅守				
通期	集中			
生 態 学 実 験 I				樹木の形態や成長に関する法則性および植物の生理的活性と環境との関係を理解するための野外測定実験を学内で行う。
土谷 岳令				
通期	集中		生物学実験室	
生 態 学 実 験 II				様々な生物群集について、その多様性の計測方法を野外実習を通じて習得する。
村上 正志				
通期	集中			

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
植 物 学 臨 海 実 験				大型海藻ならびに植物プランクトンを中心に海洋性の生物についてその分類と生態を学ぶ。野外で採集と調査を行う。採集した材料を用いて、標本の作製や有性生殖機構を理解するための実験を行う。
富樫 辰也				
通期	集中		海洋バイオシステム研究センター	
分 子 生 物 学 実 験 I				転写制御にかかわる遺伝子や制御因子を用いる実験を通して、分子生物学と遺伝子発現制御機構に対する理解を深める。
田村 隆明				
通期	月～木	Ⅲ～Ⅴ	分子生物学実験室	
分 子 生 物 学 実 験 II				プラスミドDNAを調製し、その塩基配列の決定と解析を行う。またトランスフェクションによる培養細胞への遺伝子導入と、それによる形質の変化を観察する。これにより遺伝子が形質の担い手であることを理解する。
遠藤 剛・高野 和儀				
通期	月～木	Ⅲ～Ⅴ	分子生物学実験室	
分 子 生 物 学 実 験 III				様々な動物の組織からRNAを抽出する。ノーザンブロット解析やRT-PCR法を用いて遺伝子発現の検出を行う。核酸の抽出および検出の手法・原理を学び、種間や組織間における核酸の存在状態の違いとその意味を考える。
小笠原 道生				
通期	月～木	Ⅲ～Ⅴ	分子生物学実験室	
生 理 学 実 験 I				骨格筋細胞や平滑筋細胞の微細構造や神経細胞の軸索伸長の観察を通じて、細胞運動のメカニズムを考察する。また、タンパク質間の相互作用を利用したアンフィニティクロマトグラフィーを行い、生化学的研究法の実際を学ぶ。
大橋 一世・寺崎 朝子				
通期	月～木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	
生 理 学 実 験 II				植物の原形質流動と細胞性粘菌の運動に対する各種薬物の作用を調べる。運動の計測にはビデオ顕微鏡を用いる。また、細胞内のモータータンパク質の活性を蛍光標識アクチンを使った <i>in vitro motility assay</i> によって計測する。
伊藤 光二				
通期	月～木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	
生 理 学 実 験 III				タンパク質の基本的性質を学び、分離、精製の実習をおこなう。
山本 啓一				
通期	月～木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	
細 胞 生 物 学 実 験				酵母を材料に、細胞生物学研究を行う上での基本的手技を習得する。細胞周期を同調した細胞を用い、細胞周期の各時期に進行するイベントとタンパク質の動態、修飾変化との関係を理解する。
松浦 彰				
通期	月～木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	
発 生 生 物 学 実 験 II				分化に伴う細胞形態とタンパク質の発現様式を明らかにすることは発生現象を理解する上で重要である。本実験は骨格筋初代細胞培養を行い、タンパク質の発現様式を間接蛍光抗体法とイムノブロットで解析する。
佐藤 成樹				
通期	月～木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
系 統 学 実 験 II				DNAなど分子情報を用いることで、生物種の持つ遺伝学的・系統学的情報を得ることが出来る。DNA抽出やPCR法、DNAの電気泳動など、分子系統学的手法の基礎実験を行なう。
綿野 泰行・朝川 毅守				
通期	月～木	Ⅲ～Ⅴ	生物学実験室	
分 子 生 物 学 演 習				(1) 転写因子と遺伝子発現、および (2) 細胞分化、分化の可塑性、細胞運動、再生、形態形成に関する分子生物学、分子細胞生物学、分子発生生物学的な研究について、セミナー形式で講義と討論を行う。
田村 隆明・遠藤 剛 小笠原 道生				
通期	金	V	分子生物学研究室	
生 理 学 演 習				細胞運動全般に関して、微細構造学、細胞生物学、生化学、生物物理学、免疫生物学等の多角的な見地からセミナー形式により討論を行う。
山本 啓一・伊藤 光二				
通期	月	II	分子生理学研究室	
細 胞 生 物 学 演 習				細胞生物学・発生生物学の分野の論文を講読し、セミナー形式で発表・討論をおこない、専門的知識と共に研究論文のまとめ方を修得する。
大橋 一世・松浦 彰 石川 裕之・寺崎 朝子				
通期	金	Ⅲ	細胞生物学研究室	
発 生 生 物 学 演 習				英文の論文などの講読により知識を深めるとともに、実験・研究の進め方を学ぶ。
阿部 洋志・野川 宏幸 佐藤 成樹				
通期	水	II	生物セミナー室	
生 態 学 演 習				研究方法、論文作成方法等を説明する。
土谷 岳令				
通期	火	Ⅲ	生態学研究室	
生 態 学 演 習				生態学についての野外調査の方法、データ解析、論文作成方法について、セミナーおよび研究論文の作成を通じて学ぶ。
村上 正志				
通期	水	IV	生態学研究室	
系 統 学 演 習				卒業研究に関連した分野の文献を読み、最新の知識を習得すると共に、論文の書き方、発表の方法、討論の仕方などの訓練を行なう。
綿野 泰行・梶田 忠				
通期	火	I・II	系統学研究室	
水 界 生 態 学 演 習				水界（海洋、湖沼、河川）における生物活動と環境動態について学ぶ。特に、生物間相互関係、生物と環境との相互作用、物質循環（炭素、窒素、リン等の水界における循環）に関して詳述する。
富樫 辰也				
通期	火	IV	海洋バイオシステム研究センター	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
水 界 生 態 学 演 習				水界（海洋、湖沼、河川）における生物活動と環境動態について学ぶ。特に、生物間相互関係、生物と環境との相互作用、物質循環（炭素、窒素、リン等の水界における循環）に関して詳述する。
菊地 友則				
通期	水	V	海洋バイオシステム研究センター	
科 学 英 語				生物学関係の英文を読み、正確に理解する能力を養う。
(仲吉 洋一)				
後期	金	Ⅲ	大講義室	
科 学 英 語 Ⅲ				
(J・Dennison)				
後期	木	Ⅲ	122	
免 疫 化 学				自己・非自己の区別と非自己の排除の分子メカニズムを概説し、クローン選択説などいくつかの重要な概念を解説する。抗体の構造と機能ならびに免疫化学的手法の解説に重点を置く。
化学科の記載を参照				
分 子 生 物 学 特 講 A				脂質による細胞内シグナル伝達について解説する。特にイノシトールリン脂質およびそれらを制御する酵素による細胞機能ならびに高次機能の制御について解説する。
(深見 希代子)				
通期	集中			
生 理 化 学 特 講 A				私たちの体を支えている骨のリモデリングとカルシウム代謝について、基礎的な話を中心として、骨粗鬆症などの疾病や再生医療の応用などの話を織り交ぜながら概説する。
(神澤 信行)				
通期	集中			
細 胞 生 物 学 特 講 A				発生段階の神経組織では神経細胞から伸長した軸索突起が標的に向かって移動し神経回路網を形成する。 神経回路網形成の基礎知識を伝えつつ、軸索末端構造である成長円錐が軸索ガイダンス因子を認識し自らの移動方向を選択する分子メカニズムに関する最新の知見を紹介する。
(戸島 拓郎)				
通期	集中			
生 態 学 特 講 A				景観生態学の基本的な概念と生態系や生物多様性保全などへの応用を説明する。
(富田 瑞樹)				
通期	集中			
生 態 学 特 講 B				岩礁潮間帯の生物群集を例に取り、生物群集の成立・維持機構について、最新の理論を紹介しつつ概説する。さらに、個体群の維持機構の理解を通じて、保全生態学のアイデアについて紹介する。
(野田 隆史)				
通期	集中			

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
系 統 学 特 講 A				藻類は、光合成能力を持つ生物の中から、陸上植物を除いたものであり、異質かつ多様な系統の生物の寄せ集めである。真核光合成生物の二次共生による葉緑体の獲得などをトピックとして取り上げ、藻類の系統進化の概説を行う。
(石田 健一郎)				
通期	集中			
植 物 分 類 学 野 外 実 験				分類学の歴史と分類学の据え方について概説し、野外において実地に分類方法等を講義し、生きた植物の形態・生態に親しむ。対象はシダ植物以上の維管束植物である。年間数回、日帰り又は宿泊を伴う実験を行う。
綿野 泰行・朝川 毅守				
通期	集中			
公 開 臨 海 実 験 I				他大学で開講される公開臨海実験で得た単位の振替のための科目
公 開 臨 海 実 験 II				他大学で開講される公開臨海実験で得た単位の振替のための科目

《地球科学科》

(注)「授業科目一覧」の順に、今年度開講する科目のみ記載されています。

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
地球科学基礎セミナー				地球科学科の教育内容を説明し、学習方法についてきめ細やかな指導を行い、地球科学の学習の基礎を作る。
全教員（1年担任含む）				
前期	木	I	地球科学学生実験室	
岩石鉱物学概論 I				固体地球を構成する岩石・鉱物を科学的に見る・扱う方法のうち、結晶形態と内部構造、対称性、岩石の分類、珪酸塩鉱物の分類、相平衡図に関する入門である。
井上 厚行・廣井 美邦				
前期	火	II	564	
地球ダイナミクス概論				地震、地磁気・電磁気、重力、測地、データ解析、地質構造、テクトニクスなどについて、基本的な講義を行う。
佐藤 利典・金川 久一				
前期	火	I	564	
層 序 学 概 論				堆積岩を研究対象として地球史を復元し理解する際に必要不可欠となる層序学の基礎概念を解説する。また、代表的な研究手法の基礎および内包する問題点等を解説するとともに、対処・解決法も解説・紹介する。
亀尾 浩司・伊藤 慎				
前期	水	II	4号館2階マルチメディア講義室2	
環境リモートセンシング概論				地球表層を空間的かつ継続的に観測することができる衛星リモートセンシングを利用して、大気および陸域をモニタリングする手法と、その結果を環境解析に応用する方法について学ぶ。
近藤 昭彦・樋口 篤志 建石 隆太郎				
前期	月	II	4号館1階マルチメディア講義室1	
地 表 動 態 学 概 論				地球生物の生活基盤である自然的要素（地形・気候・植生・土壌・陸水・雪氷）の多様な成り立ちやその変化過程について、自然地理学的・第四紀学的視点から解説する。その知識に基づいた自然環境の将来予測と人類に与える影響に関する理解を深める。
宮内 崇裕・竹内 望				
後期	月	II	564	
地 球 科 学 基 礎 数 学				自然科学の基礎となる力学や電磁気学等を理解する為に必要なベクトル、行列、微積分（線形微分方程式を含む）等の数学的手法について学ぶ。併せてデータ解析に必須である誤差論、確率統計学、級数展開による近似法、フーリエ解析の基礎を理解する。
(鎌田 勝)				
前期	水	IV	大講義室	
地 球 科 学 英 語				学部や大学院の授業・研究のために必要な地球科学英語とコミュニケーション能力の基礎を学び、これらを将来も学び続けるための効果的な学習法を身に付ける。具体的には(1)英文記事のCritical Reading、(2)プレゼン技術、(3) Mind Mapを用いたアイデアのまとめ方とWriting、(4)論理力とCritical Thinking、の4つを中心に学ぶ。
吉田 修二				
後期	木	I	地球科学学生実験室	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
地 質 調 査 法				地質調査の基礎となる図学について講義とそれに基づく作図作業を重ねながら学習する。また歩測とコンパスによる簡易測量の実習を行う。
亀尾 浩司・小竹 信宏 松本 みどり				
前期	月	V	4号館2階マ ルチメディア 講義室2	
地 質 学 野 外 実 験 I				「地質調査法」で学習した内容に基づいて、基本的な地質調査の方法について野外で実習する。特に、クリノメーターによる走向・傾斜の測定、地層区分とルートマップの作成、地質柱状図の作成方法などの基本を実習する。
伊藤 慎・亀尾 浩司				
後期	集中		地球科学学 生実験室	
地 球 科 学 ・ 技 術 者 倫 理				地球科学に関する技術者倫理について産業界、官界の立場から講述する。
(横山 尚秀)・(村田 正敏)				
後期	集中		564	
地 球 科 学 演 習				地球科学に関する課題に対し、与えられた制約の下で各自が自主的、計画的に考え、継続的に学習する。9教育研究分野から1分野を選び、分野における複数教員の指導体制のもとに、卒業研究遂行のために必要な論文の講読・研究紹介・議論等の演習を行う。
全 教 員				
通期	集中		各教室	
卒 業 研 究				
全 教 員				
通期	集中		各研究室	
岩 石 鉱 物 学 実 験 III				岩石・鉱物の研究方法の基礎をフィールドで採取した試料を対象として学ぶ。実験は、試料採取の巡検(日帰りの予定)を伴う。また、レポート提出前に、それぞれの観察結果を発表し、相互に議論する。
廣井 美邦・井上 厚行・津久井 雅志 古川 登・高橋 奈津子				
後期	集中		地球科学学 生実験室	
地 球 物 理 学 実 験 II				地球物理的探査方法の基礎を実際の観測機器を扱いながら学ぶ。実験は、地震波速度構造探査と地磁気測定を行う。取得したデータを解析し、結果の発表も行う。
佐藤 利典・中西 正男 服部 克巳・津村 紀子				
後期	火	Ⅲ～Ⅴ	地球科学学 生実験室	
地 殻 構 造 学 野 外 実 験 I				房総半島南部清澄山周辺で地質学野外実験Ⅱに引き続き実施し、断層、褶曲などの地質構造調査を行う。
金川 久一				
前期	集中		地球科学学 生実験室	
地 史 古 生 物 学 実 験 I				2年次までに習得した層序学と地質調査法を基礎として、より実践的な地質調査の実習を行う。同時に野外での試料の採取法も習得し、室内にてその試料から微化石を取り出し、観察することを通じて、地史を考察する際に重要な知識を学ぶ。
亀尾 浩司・小竹 信宏				
前期	水	Ⅲ～Ⅴ	地球科学学 生実験室	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
地 形 学 実 験 II				地形学図の作成、地形測量・地形構成層の掘削調査法などを学び、地形成立に関する諸要素を、野外で観察・測定・サンプリング・記載し、これらを総合解析する技術をエクスカージョン（2泊3日）と室内作業によって習得し、レポートに基づく発表会を行う。
宮内 崇裕・金田 平太郎				
前期	集中		地球科学学生実験室・空中写真判読室	
堆 積 学 実 験 II				地層の露頭観察及び室内の試料分析にもとづいて堆積環境を復元する。
伊藤 慎				
後期	集中		地球科学学生実験室	
雪 氷 学 実 験				日本の山岳地帯において、氷河地形観察、積雪断面観測、積雪の採取と分析などの技術を習得し、雪氷圏の変動と気候システムへの役割、雪氷を使った環境変動解析の基礎を理解する。
竹内 望・戸丸 仁				
前期	集中		地球科学学生実験室	
地 球 化 学 実 験				東京湾沿岸域の堆積物を採取し、堆積物、溶存ガス、間隙水の地化学分析を行い、海洋化学調査の基礎とデータの考察方法を取得する。
戸丸 仁・竹内 望				
後期	集中		地球科学学生実験室	
リモートセンシング・GIS実習				リモートセンシング画像解析および地理情報解析の手法を、コンピューターを操作することにより習得する。各時間の実習の課題および材料は環境に係わる諸問題の中から選定し、結果に対する議論を通して具体的な問題解決能力の習得をめざす。
近藤 昭彦・本郷 千春				
後期	金	Ⅲ～Ⅴ	環境リモートセンシング研究センター8階地理情報解析室	
地 質 学 野 外 実 験 II				房総半島南部清澄山周辺で地質調査の基本を学習し、地質図および地質断面図を作成する。日程：9月上旬～中旬
金川 久一・亀尾 浩司 戸丸 仁・松本 みどり				
前期	集中		地球科学学生実験室	
岩 石 鉱 物 学 概 論 II				固体地球を構成する物質の性質や挙動を理解するために必要な基礎的概念について解説する。
井上 厚行・津久井 雅志				
後期	水	Ⅱ	532	
岩 石 学 野 外 実 験				八丈島において2泊3日の野外学習を行い、火山噴出物の産状・構造の観察、鍵層の追跡、火山噴出物の分布の調査など、基本的な野外調査の方法を習得し、噴火史の復元を行う。4月に開講予定なので、開講案内に注意のこと。
廣井 美邦・津久井 雅志 古川 登				
前期	集中		地球科学学生実験室	
岩 石 鉱 物 学 実 験 I				岩石鉱物の肉眼観察と偏光顕微鏡観察、薄片の作製などの実習を通して、岩石や鉱物の観察法を学ぶ。
井上 厚行・津久井 雅志 古川 登・高橋 奈津子				
後期	水	Ⅲ・Ⅳ	地球科学学生実験室	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
鉍 物 学 II				環境条件の変化に対して元の鉍物はどのように変化し、どのように新しい鉍物が生成するののかということを、溶液を反応場とする鉍物の生成と変化に重点を置いて解説する。
井上 厚行				
前期	金	I	532	
岩 石 学 II				地殻及びマントルを構成している岩石は様々に変化する。まず、岩石の熔融温度以下での変化（変成作用）の仕方について解説し、天然の岩石からいかにしてその生成過程についての情報を得るかを述べる。次に、岩石の部分融解過程について言及する。
廣井 美邦				
前期	水	II	532	
岩 石 鉍 物 学 実 験 II				偏光顕微鏡下での造岩鉍物の鑑定と組織等の観察法を学ぶ。岩石の成因や生成条件、形成過程・履歴等の情報を読みとる訓練を行う。
廣井 美邦・津久井 雅志 古川 登・高橋 奈津子				
前期	金	Ⅲ・Ⅳ	偏光顕微鏡室	
岩 石 学 I A				火山の分布や火山体、マグマの生成、上昇、そして噴火の機構について解説する。さらに過去の火山噴火が人間社会にもたらした災害、将来の噴火に備えた防災対策についても考える。
津久井 雅志				
後期	水	I	564	
地 球 物 理 学 I				海洋底の構造および形成過程を理解するために必要な地球物理学の基礎を講義する。
中西 正男				
前期	木	II	564	
地 球 物 理 学 II				電磁気を用いた地球内部の調査方法の基礎についてを学ぶ。そのために必要な数学的・物理学的な基礎知識についても講義する。
服部 克巳				
後期	金	I	532	
地 球 物 理 学 III				地震学の基礎について学ぶ。地震学は、「地震とは何か？どうして発生するかを調べる」という面と「地震波を使って地球内部構造を調べる」という面がある。これらについて基礎的知識を講義する。地震学は応用数学という観点から数式による説明に重点をおく。
佐藤 利典				
前期	火	II	532	
情 報 地 球 科 学 I				総合メディア基盤センターの計算機を利用して、科学技術計算の基本的な手法の理解・習得を講義・演習を通じて行う。流れ図による計算の流れの理解、およびいくつかの定石的な手法の習得に特に重点をおく。
服部 克巳				
前期	金	V	総合校舎A号館4階情報処理演習室	
情 報 地 球 科 学 II				『地球物理学実験Ⅱ』で得たデータを用いて、実際の実験・観測データ処理をコンピュータを用いて行い、その手法を習得する。
中西 正男・佐藤 利典 服部 克巳				
後期	金	II	532	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
地球物理学実験Ⅰ				地球探査に使用される機器のほとんどは、電子技術を用いており、そのためエレクトロニクスの知識は、探査を行う上において、不可欠である。実験により電子機器の基本的な扱いについて学ぶ。
津村 紀子・中西 正男 佐藤 利典・服部 克巳				
前期	火	Ⅲ～Ⅴ	地球科学学生実験室	
地 殻 構 造 学 Ⅰ				岩石変形の基盤、岩石変形機構、断層、褶曲、テクトニクスなど、構造地質学の基礎について講義する。
金川 久一				
後期	月	I	532	
地 殻 構 造 学 Ⅱ				リモートセンシング、物理検層、反射法地震探査などの地質構造解析に用いられる物理探査法、バランス断面図の作成、および地層・岩石中の応力・歪解析法など、構造地質学の応用について講義する。
金川 久一				
前期	月	Ⅱ	532	
地 殻 構 造 学 実 験 Ⅰ				褶曲や断層の方位解析に必要なステレオ投影法を解説し、野外でのデータ採取と室内作業により実習する。
金川 久一				
前期	月	Ⅲ～Ⅴ	地球科学学生実験室	
地 殻 構 造 学 野 外 実 験 Ⅱ				日本有数の大断層である、中央構造線と糸魚川－静岡構造線の断層露頭と断層地形を観察し、断層運動とその履歴について学習する。
金川 久一・津村 紀子				
後期	集中		地球科学学生実験室	
地 殻 構 造 学 実 験 Ⅱ				肉眼および偏光顕微鏡による岩石の変形微細構造の観察を行い、また偏光顕微鏡とユニバーサルステージを用いて造岩鉱物の結晶方位を測定する。
金川 久一				
後期	月	Ⅲ～Ⅴ	偏光顕微鏡室	
地 史 古 生 物 学 Ⅰ				始生代から顕生代最初期にかけての生命史を、地球表層環境および大陸配置の変遷史に関連づけて解説する。
小竹 信宏				
前期	金	Ⅱ	564	
地 史 古 生 物 学 Ⅱ				地球史のなかで地球表層環境と生物活動がどのようにかわりあい、お互いにどのように影響しあってきたのかを解説する。大気－海洋系システムの実態を理解するとともに、その変遷史が生物活動と密接に関係していることを解説する。
小竹 信宏				
後期	金	Ⅲ	4号館1階マルチメディア講義室1	
地 史 古 生 物 学 Ⅲ				国際深海掘削計画の結果や陸上の古生物学的・地質学的記録を中心にして、かつての地球環境をひもとくために必要な地球年代学的手法や古環境解析のための方法を紹介し、主に中生代から新生代のダイナミックな古環境変遷史を解説する。
亀尾 浩司・松本 みどり				
後期	水	Ⅲ	564	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
地 史 古 生 物 学 実 験 II				2年次までに習得した層序学と地質調査法を基礎として、より実践的な地質調査の実習を行う。同時に野外での試料の採取法も習得し、室内にてその試料から大型化石を取り出し、観察することを通じて、地史を考察する際に重要な知識を学ぶ。
小竹 信宏・亀尾 浩司				
後期	木	Ⅲ～Ⅴ	地球科学学生実験室	
水 文 学 I				地球表層における水循環と自然を構成する諸要素あるいは人間活動との相互作用について講義を行う。水文学は学際領域の科学であり、環境学を構成する主要な領域でもある。河川水文学、森林水文学、農業水文学、等の幅広い分野から題材を選び、総合的な水循環認識を試みる。
近藤 昭彦				
前期	木	V	564	
地 形 学 I				地形（固体地球の表面形状）の特徴とその物理的変化過程のなかで、内的営力（とくに地殻変動）が作用して生み出す変動地形形成の原動力・構成物質・運動（変化）様式と速度などの動態について解説する。
宮内 崇裕				
後期	水	II	564	
地 形 学 II				地形学における基礎的な事項、特に通常の地形（外的営力による地形）の形成過程や形態の特徴について学んだのち、地表地震断層の累積としての異常地形（活断層地形）および有史以前の地震の記録を読みとくための方法論（古地震学）について解説する。
金田 平太郎				
前期	火	I	543	
堆 積 学 I				振動流、一方向流ならびに動流にともなう碎屑粒子の移動と堆積過程、陸域から深海域までに至るさまざまなならびに動流堆積環境で形成される堆積システムの特徴とその形成過程、ならびに地質時代の地球環境の変動と堆積・侵食作用の時空的变化の特徴などについての基礎を学ぶ。
伊藤 慎				
前期	水	I	4号館1階マルチメディア講義室1	
堆 積 学 II				河川、沿岸域、ならびに深海域における堆積過程と堆積環境の時空的变化の特徴についての基礎を学ぶ。特に、海水準の変動にともなう堆積環境の変化に関する基礎を講義する。
吉田 修二				
前期	木	I	地球科学学生実験室	
堆 積 学 III				堆積盆地の形成を支配する要因とテクトニックな背景、シーケンス層序学の基本的概念とモデルの特徴、陸域から深海域における地層の形成過程と海水準変動との関係、ならびに地層の解析方法などに関する基礎的事項についての理解を深める。
伊藤 慎				
後期	木	I	地球科学学生実験室	
堆 積 学 実 験 I				露頭観察を中心に、堆積学的な地層観察の基本を学ぶ。特に、野外における地層観察とデータ収集の基本的プロセスやデータ解析方法の基本事項について、野外実習をとおして学ぶ。
伊藤 慎				
前期	集中		地球科学学生実験室	
地 球 生 理 学				現在の地球環境はどのようにして成り立っているのか？気候変動とその要因、地球の気候システムの基礎を理解し、その中で生物活動がどのような役割を果たしているのかをガイア仮説を通して学ぶ。そこから地球環境についての総合的な見方を養う。
竹内 望				
前期	木	II	532	

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
表 層 環 境 化 学				地球表層では環境の変化に対応して物質が移動・濃集し、これらの現象は化学的な変化として岩石や水に記録される。地球表層の物質の化学種や同位体比の変化から地球環境の変化を読み解くための基本的な考え方を理解する。
戸丸 仁				
後期	火	Ⅱ	564	
生 物 地 球 化 学 実 験				地球表面でおこる様々な自然現象、特に地表面熱収支、雪氷および物質循環に関する現象についての基礎的な調査手法を、実験、野外観測および室内作業を通じて身につける。
竹内 望・戸丸 仁				
後期	火	Ⅲ～Ⅴ	地球科学学生実験室	
リ モ ー ト セ ン シ ン グ 入 門				リモートセンシングの歴史、原理、応用、データ処理に関して講述する。将来、衛星データを利用するために必要な知識を自ら効率的に学べるように、基礎的な事項を解説する。
建石 隆太郎				
後期	木	Ⅱ	141	
天 気 と 大 気 科 学				日常経験する気象・気候現象を、これまで習った科学の知識を活かして理解し、地球環境変動に果たす大気役割について考える基礎とすることを目標とする。宇宙から見る地球大気環境や大気科学を勉強したい人のための入門を目指す。主として理学部2、3年生で大気科学に興味のある学生を対象とするが、いずれの学部学生でも受講可能である。若干の物理的知識が必要な内容も含まれる。
高村 民雄				
前期	金	Ⅱ	D-33	
基 礎 測 量 学				測量は社会生活を行なう上での建設、調査等において欠かせない技術であり、地球、国土及び土地に関連した情報の調査、測定、加工、分析、評価、計画、提言、管理を行なう。講義では測量の基本について説明するとともに、測量と地球科学との関係についても理解させる。
(大木 正喜)				
前期	月	Ⅲ・Ⅳ	564	
測 量 学 実 験				測量機械器具の使い方及び測量方法を説明し、それら機械器具を用いて実際に測量し、測量方法及び技術を習得させる。測量技術は近年の電子技術と宇宙技術等の進歩により大きく変わりつつある。しかしながら基礎をしっかり学ぶ事は大切な事である。
(大木 正喜)				
前期	月	Ⅲ・Ⅳ	564	
流 体 地 球 科 学				海洋物理学や気象学における基礎的な知識（地球流体力学など）を講義し、その応用として、海洋の大規模な流れの様子やそれらがどのようにして生じるかを紹介する。
(藤尾 伸三)				
後期	金	Ⅴ	大講義室	

《各学科に共通する科目》

(注)「授業科目一覧」の順に、今年度開講する科目のみ記載されています。

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	

教育職員免許状取得に関する科目

事 前・事 後 指 導				6 教育職員免許状取得のための履修について(81～89ページ)を参照のこと。 なお、教職ガイダンスを4月8日(月)13:30(予定)より大講義室にて実施するので、平成25年度に教育実習を登録した4年次学生は必ず出席すること。
教務委員会				
通期	集中			

教 育 実 習 (中 学 校)				6 教育職員免許状取得のための履修について(81～89ページ)を参照のこと。 なお、教職ガイダンスを4月8日(月)13:30(予定)より大講義室にて実施するので、平成25年度に教育実習を登録した4年次学生は必ず出席すること。
教務委員会				
通期	集中			

教 育 実 習 (高 等 学 校)				6 教育職員免許状取得のための履修について(81～89ページ)を参照のこと。 なお、教職ガイダンスを4月8日(月)13:30(予定)より大講義室にて実施するので、平成25年度に教育実習を登録した4年次学生は必ず出席すること。
教務委員会				
通期	集中			

学芸員資格取得に関する科目

ナチュラルヒストリー(博物館実習)				学芸員資格取得についての説明を含め、7 学芸員資格取得について(90～98ページ)を参照のこと。
朝川 毅守・松本 みどり 古川 登				
通期	集中			

学部共通英語科目

科 学 英 語 I				ベーシック・コース。科学の話題に関する英語によるコミュニケーションができるようにする。英語によるコミュニケーションに強い意欲を持っている人なら受講可。授業時間内は、日本語を一切使用しない。(シラバスのウェブページも参照のこと。)
J. Dennisson				
後期	木	IV	122	

科 学 英 語 II				アドバンスト・コース。科学英語 I 履修者程度の能力を持ち、大学院進学を目指す人を主対象とする。特に英語によるプレゼンテーションの能力を高める。
J. Dennisson				
後期	木	V	122	

ベンチャービジネス関係科目(自然科学系大学院にて開設科目)

ベンチャービジネス論				ベンチャービジネスの第一線で活躍する起業家やベンチャービジネスに関わりの深い専門家・有識者を講師に招き、オムニバス形式で講義を進め、ベンチャービジネスに対する理解を深める。また、学内でベンチャービジネスに取り組む教員にもスポットを当てる。
斎藤 恭一				
前期	水	V		

授 業 科 目 名				授 業 概 要
担 当 教 員				
期別	曜日	時限	教室	
ベンチャービジネスマネジメント				資金調達やマーケティング、産官学連携施策など実際のベンチャーの起業・運営に必要な事柄について講義する。さらに、ベンチャービジネスの創生に向けてグループ演習によりビジネスプランを作成する。
選 考 中				
後期	水	V		

6 教育職員免許状取得のための履修について

教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法に定める科目の単位を修得しなければなりません。

理学部で取得できる免許状の種類は、次のとおりです。

数学・情報数理学科	中学校教諭一種免許状（数学）
	高等学校教諭一種免許状（数学）
	高等学校教諭一種免許状（情報）
物 理 学 科	中学校教諭一種免許状（理科） 高等学校教諭一種免許状（理科）
化 学 科	
生 物 学 科	
地 球 科 学 科	

原則として、上記免許状のみ大学から一括申請が可能です。一括申請した学生は卒業時に免許状を受領することができます。

また、所定の単位を修得していれば、卒業後に個人申請することも可能です。

[必要な資格及び単位数]

	必要な資格 (基礎資格)	教科に関する 科 目	教職に関する 科 目	教科又は 教職に関 する科目	普遍 教育 科目	介護等 体 験
中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	学士の学位	数 学 20 理 科 20	3 1	8	8	必要
高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	学士の学位	数 学 20 理 科 20 情 報 20	2 3	1 6	8	不要

[履修すべき科目]

■ 教科に関する科目

「教科に関する科目表（85～89ページ）」に指定された科目から、各区分ごとに最低1単位、合計20単位以上を修得してください。

なお、所属学科の卒業要件に算入できる科目は、卒業に必要な単位に認められます。

■ 教職に関する科目

「教職に関する科目表（82ページ）」に記載する授業科目を履修し、同表の単位を充足してください。授業科目は教育学部で開講されますので、他学部（教育学部以外の学部）向けの科目を履修してください。ただし、「事前・事後指導」「教育実習」は理学部で開講します。

なお、教職に関する科目は卒業に必要な単位には認められません。

「教職に関する科目表」

教職に関する専門教育科目	教育職員免許法に定める最低取得単位		理学部の定める修得単位 (実際に履修を要する科目・単位数)						
	免許状の種類		左記に該当する 千葉大学開講科目	免許状の種類					
	中一免	高一免		中一免		高一免			
				数	理	数	情	理	
教職の意義等に関する科目	2	2	教 育 学 部	現代教職論		2		2	
教育の基礎理論に関する科目	6	6		教育学概論 (旧 教育学Ⅱ)		2		2	
				教育心理学		2		2	
				教育制度論 (旧 教育学Ⅰ)		2		2	
教育課程及び指導法に関する科目	12	6		教育課程論		2		2	
				教科教育法		6		2	
				道德教育		2		0	
				教育方法論・特別活動論 (旧 教育学Ⅲ)		2		2	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	4		生徒指導・教育相談・ 進路指導Ⅰ	このうち 2科目 (4単位) 履修		2		2
				生徒指導・教育相談・ 進路指導Ⅱ			2		2
			臨床教育実践			2		2	
教育実習	5	3	理学部	事前・事後指導		1		1	
				教育実習		4		2	
教職実践演習	2	2	教育学部	教職実践演習		2		2	
合計	31	23		合計		31		23	

* 「教科教育法 (数学)」に関する科目を履修する場合は、次の科目を履修してください。

高等学校一種：「数学科教育法Ⅰ (他学部)」 「数学科教育法Ⅱ (他学部)」 「数学科教育法Ⅲ (他学部)」
のいずれか1科目 (2単位)

中学校一種：「数学科教育法Ⅰ (他学部)」 「数学科教育法Ⅱ (他学部)」 「数学科教育法Ⅲ (他学部)」
の合計3科目 (6単位)

* 「教科教育法 (情報)」に関する科目を履修する場合は、次の科目を履修してください。

高等学校一種：「情報科教育法Ⅰ」 「情報科教育法Ⅱ」 のいずれか1科目 (2単位)

* 「教科教育法 (理科)」に関する科目を履修する場合は、次の科目を履修してください。

高等学校一種：「理科教育概説Ⅰ (他学部)」 「理科教育概説Ⅱ (他学部)」 のいずれか1科目 (2単位)
中学校一種：「理科教育概説Ⅰ (他学部)」 「理科教育概説Ⅱ (他学部)」 の2科目 (4単位) 及び、「理
科学習論」 「理科授業論」 のいずれか1科目 (2単位)、合計3科目 (6単位)

* 「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」を履修する場合は、「生徒指導・教育相談・進
路指導Ⅰ」 「生徒指導・教育相談・進路指導Ⅱ」 「臨床教育実践」 のいずれか2科目 (4単位) を履
修してください。「臨床教育実践」は平成25年度入学者より適用となる科目です。平成24年度以前の
入学者は従前どおり (入学年度の履修要項のとおり) です。

*「教育実習」は、下記のような要領で実施される予定です。詳細についてはガイダンスや掲示でお知らせします。

対象年次：4年次

期 間：高等学校一種 2週間（10日）以上
 中学校一種 4週間（20日）程度

ガイダンス：3年次の4月初旬に翌年度に教育実習を行うための教育実習校への訪問等についてガイダンスを開催します。4年次の4月初旬には「事前指導」を行います。これに出席しない者は、教育実習に参加できません。

費用等：教育実習校への謝金等が必要な場合は、学生個人の負担となります。学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入していない場合は、加入してください。

その他：3年次修了時まで「教職に関する科目」（事前・事後指導、教育実習及び教職実践演習を除く）を全て履修してください。原則として、未履修者及び卒業の見込みのない者は教育実習に参加できません。

*平成21年度以前の入学者で、「総合演習」を履修していない場合は、4年次後期に「教職実践演習」を履修してください。「教職実践演習」の履修には、履修カルテが必要です。

■ 教科又は教職に関する科目

「教科に関する科目」又は「教職に関する科目」のうち、最低修得単位数を超えて履修した単位を充てます。

■ 普遍教育科目

普遍教育科目から次の単位を修得することが必要です。

教育職員免許法施行細則に定める科目	単位数	左記に対応する開設科目	単位数
日本国憲法	2単位	憲法（教養展開科目）	2単位
体育	2単位	スポーツ・健康科目	2単位
外国語コミュニケーション	2単位	英語科目、初修外国語科目（検定科目を除く）	2単位
情報機器の操作	2単位	情報処理 （数学・情報数理学科は「計算機演習」及び「情報学演習」）	2単位

■ 介護等体験

中学校教諭一種免許状を取得しようとする者には、「介護等体験」が義務付けられています。下記のような要領で実施される予定です。詳細についてはガイダンスや掲示でお知らせします。

対象年次：3年次

期 間：7日間（社会福祉施設 5日間、特別支援学校 2日間）

ガイダンス：3年次の4月初旬にガイダンスを開催し、その場で受付します。これに出席しない者は介護等体験に参加できません。

実施施設：千葉県内の社会福祉施設（老人ホーム等）及び千葉県立仁戸名特別支援学校
（変更される場合があります。）

費用等：経費の徴収があります。学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入していない場合は、加入してください。

その他：介護等体験をしなくてもよい者

- ①介護等に関する専門的知識及び技術を有すると認められた者
- ②身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者

[科目の履修計画について]

教育職員免許状を取得するためには、卒業要件の科目のほかに、様々な分野の科目を履修することになります。履修しなければならない科目を入学時の履修要項をよく読んで確認し、更に「教職に関する科目」（事前・事後指導、教育実習及び教職実践演習を除く）については、1年次から3年次までの間に全ての科目を修得できるよう十分に計画を立てて臨んでください。また、「教科に関する科目」については、3年次修了時までには大方の科目を修得できるようにしてください。

履修のことで不明な点は、各学科の教務委員又は学務係に相談してください。

[教職履修者の主なスケジュール]

1年次	4月	教職ガイダンス（1年次用）
各自、必要な科目を履修する。		
3年次	4月初旬	介護等体験ガイダンス（中学校教諭一種免許状取得希望者のみ） 教育実習ガイダンス（教育実習校への訪問等について） 履修カルテ配布（記入後、クラス顧問教員による面談をうける。） 実習校へ行き、教育実習の内諾を取る。
	～10月中旬	教育実習の登録手続きをする。
	10月下旬	介護等体験ガイダンス（特別支援学校での体験について）
4年次	4月初旬	教育実習ガイダンス（事前指導） 履修カルテを記入し、クラス顧問教員による面談をうける。
	5月～	教育実習
	実習後	事後指導
	9月下旬～	教育職員免許状一括申請受付（以後、12月に手続き）
	10月上旬	履修カルテを記入し、クラス顧問教員による面談をうける。
	後期	教職実践演習の履修
	3月	卒業時に教育職員免許状交付

*ガイダンスの具体的日時・場所等については、掲示するとともに、学期末に送付する成績通知表に案内を同封しますので、必ず確認してください。

「教科に関する科目表」

数学・情報数理学科において「数学」の免許状の取得希望者が履修すべき教科（専門科目）

中 一 免 許「数 学」				高 一 免 許「数 学」			
教員免許法施行細則に定める専門教育科目区分等		左記に対応する開設専門科目		教員免許法施行細則に定める専門教育科目区分等		左記に対応する開設専門科目	
科目・単位数		授業科目・単位数		科目・単位数		授業科目・単位数	
代 数 学	1	数学・情報数理学科の 専門科目	20	代 数 学	1	数学・情報数理学科の 専門科目	20
幾 何 学	1			幾 何 学	1		
解 析 学	1			解 析 学	1		
「確率論、統計学」(注)	1			「確率論、統計学」(注)	1		
コンピュータ	1			コンピュータ	1		
計		20		計		20	

(注) 教職科目の「確率論、統計学」は「確率論Ⅰ（2単位）」及び「数理統計学（2単位）」を履修してください。

数学・情報数理学科において「情報」の免許状の取得希望者が履修すべき教科（専門科目）

高 一 免 許「情 報」			
教員免許法施行細則に定める専門教育科目区分等		左記に該当する開設専門科目	
科目・単位数		授 業 科 目 ・ 単 位 数	
情報社会及び情報倫理	1	情報化と社会	2
コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	1	プログラミング	2
		○ アルゴリズム論	2
		情報数学Ⅰ	2
		計算理論	2
		○ プログラミング言語論Ⅰ	2
		符号理論	2
		情報理論	2
情報システム（実習を含む。）	1	○ ソフトウェア演習Ⅱ	2
		情報数学Ⅱ	2
		情報システム基礎論	2
		データ構造概論	2
		プログラミング言語論Ⅱ	2
		コンパイラ	2
情報通信ネットワーク（実習を含む。）	1	○ 計算機科学概論	2
		○ ソフトウェア演習Ⅰ	2
		情報数理学特論Ⅱ	2
		情報数理学特論Ⅳ	2
		情報数理学特論Ⅴ	2
		情報数理学特論Ⅶ	2
		情報数理学特論Ⅷ	1
マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	1	情報学演習	2
		○ 数値計算法	2
情報と職業	1	職業の情報学Ⅰ	1
		職業の情報学Ⅱ	1
計		20	

○印は履修が望ましい科目

物理学科において「理科」免許状の取得希望者が履修すべき教科（専門科目）

中 一 免 許 「数 学」				高 一 免 許 「数 学」			
教員免許法施行細則に定める専門教育科目区分等		左記に該当する開設専門科目		教員免許法施行細則に定める専門教育科目区分等		左記に該当する開設専門科目	
科目・単位数		科目・単位数		科目・単位数		科目・単位数	
物 理 学	1	物理学科開講の 専門科目		物 理 学	1	物理学科開講の 専門科目	
物 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	物理学実験	6	化 学	1	物理化学A 物理化学B	2 2
化 学	1	物理化学A 物理化学B	2 2	生 物 学	1	生命科学B 1 生命科学B 2 生命科学B 3 生命科学B 4 生命科学B 5 生命科学B 6 ○生命科学入門	2 2 2 2 2 2 2
化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	化学基礎実験	1	地 学	1	○地学概論A 地学概論B	2 2
生 物 学	1	生命科学B 1 生命科学B 2 生命科学B 3 生命科学B 4 生命科学B 5 生命科学B 6 ○生命科学入門	2 2 2 2 2 2 2	「物 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)」	1	物理学実験 化学基礎実験 生物学基礎実験1 生物学基礎実験6 地学基礎実験B 地学基礎実験C	6 1 1 1 1
生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	○生物学基礎実験1 生物学基礎実験6	1 1				
地 学	1	○地学概論A 地学概論B	2 2				
地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	地学基礎実験B 地学基礎実験C	1 1				
計		20		計		20	

○印は履修が望ましい科目

化学科において「理科」の免許状の取得希望者が履修すべき教科（専門科目）

中 一 免 許「数 学」				高 一 免 許「数 学」			
教員免許法施行細則に定める専門教育科目区分等		左記に該当する開設専門科目		教員免許法施行細則に定める専門教育科目区分等		左記に該当する開設専門科目	
科目・単位数		科目・単位数		科目・単位数		科目・単位数	
物 理 学	1	基本物理化学Ⅰ 基本物理化学Ⅱ 表面物理化学 ○物理学B ○物理学C	2 2 2 2 2	物 理 学	1	基本物理化学Ⅰ 基本物理化学Ⅱ 表面物理化学 ○物理学B ○物理学C	2 2 2 2 2
物 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	物理学基礎実験Ⅰ 物理学基礎実験Ⅱ	1 1	化 学	1	化学科開講の 専門科目	
化 学	1	化学科開講の 専門科目		生 物 学	1	生命科学B 1 生命科学B 2 生命科学B 3 ○生命科学B 4 生命科学B 5 生命科学B 6 ○生命科学入門	2 2 2 2 2 2 2
化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	化学科開講の実験		地 学	1	○地学概論A 地学概論B	2 2
生 物 学	1	生命科学B 1 生命科学B 2 生命科学B 3 ○生命科学B 4 生命科学B 5 生命科学B 6 ○生命科学入門	2 2 2 2 2 2 2	「物 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)」	1	化学科開講の実験 物理学基礎実験Ⅰ 物理学基礎実験Ⅱ 生物学基礎実験1 生物学基礎実験6 地学基礎実験B 地学基礎実験C	1 1 1 1 1 1
生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	○生物学基礎実験1 生物学基礎実験6	1 1				
地 学	1	○地学概論A 地学概論B	2 2				
地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	地学基礎実験B 地学基礎実験C	1 1				
計 20				計 20			

○印は履修が望ましい科目

生物学科において「理科」の免許状の取得希望者が履修すべき教科（専門科目）

中 一 免 許「数 学」				高 一 免 許「数 学」			
教員免許法施行細則に定める専門教育科目区分等		左記に該当する開設専門科目		教員免許法施行細則に定める専門教育科目区分等		左記に該当する開設専門科目	
科目・単位数		科目・単位数		科目・単位数		科目・単位数	
物 理 学	1	○物理学A I 物理学B 物理学C 物理学D I 物理学E I	2 2 2 2 2	物 理 学	1	○物理学A I 物理学B 物理学C 物理学D I 物理学E I	2 2 2 2 2
物 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	物理学基礎実験 I 物理学基礎実験 II	1 1	化 学	1	生理化学 I ○化学	2 2
化 学	1	生理化学 I ○化学	2 2	生 物 学	1	生物学科開講の 専門科目	
化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	○化学基礎実験	1	地 学	1	○地学概論A 地学概論B	2 2
生 物 学	1	生物学科開講の 専門科目		「物 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)」	1	生物学科開講の実験 物理学基礎実験 I 物理学基礎実験 II 化学基礎実験 地学基礎実験B 地学基礎実験C	1 1 1 1 1
生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	生物学科開講の実験					
地 学	1	○地学概論A 地学概論B	2 2				
地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	地学基礎実験B 地学基礎実験C	1 1				
計 20				計 20			

○印は履修が望ましい科目

地球科学科において「理科」の免許状の取得希望者が履修すべき教科（専門科目）

中 一 免 許 「数 学」				高 一 免 許 「数 学」			
教員免許法施行細則に定める専門教育科目区分等		左記に該当する開設専門科目		教員免許法施行細則に定める専門教育科目区分等		左記に該当する開設専門科目	
科目・単位数		科目・単位数		科目・単位数		科目・単位数	
物 理 学	1	○物理学A I 物理学B 物理学C 物理学D I 物理学E I	2 2 2 2 2	物 理 学	1	○物理学A I 物理学B 物理学C 物理学D I 物理学E I	2 2 2 2 2
物 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	物理学基礎実験 I 物理学基礎実験 II	1 1	化 学	1	○化学 地球科学基礎化学 有機化学 物理化学A 物理化学B	2 2 2 2 2
化 学	1	○化学 地球科学基礎化学 有機化学 物理化学A 物理化学B	2 2 2 2 2	生 物 学	1	生命科学B 1 生命科学B 2 生命科学B 3 生命科学B 4 生命科学B 5 生命科学B 6 ○生命科学入門	2 2 2 2 2 2 2
化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	化学基礎実験	1	地 学	1	地球科学科開講の 専門科目	
生 物 学	1	生命科学B 1 生命科学B 2 生命科学B 3 生命科学B 4 生命科学B 5 生命科学B 6 ○生命科学入門	2 2 2 2 2 2 2	「物 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)、 地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)」	1	地球科学科開講の 実 験	
生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	○生物学基礎実験 1 生物学基礎実験 6	1 1		1	地球科学科開講の 実 験	1 1 1 1 1 1 1
地 学	1	地球科学科開講の 専門科目			1	地球科学科開講の 実 験	1
地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	1	地球科学科開講の 実 験 地学基礎実験B 地学基礎実験C	1 1		1	地球科学科開講の 実 験	1 1 1
計 20				計 20			

○印は履修が望ましい科目

7 学芸員資格取得について

学芸員の資格を得ようとする者は、次に示す事項を熟読し、所定の単位を取得すること。

1. 学芸員とは

博物館法に基づき、博物館・美術館等において、資料の収集・保管・展示・調査・研究などの専門的事項を担当する専門職である。

2. 学芸員の資格

学芸員の資格〔博物館法（昭和26年法律第285号第5条第1項第1号）による〕は、学士の学位を持つ者で、大学において博物館に関する科目の単位を取得したものに与えられる。

なお、学芸員の資格は、これ以外の方法によっても取得できるので、詳しくは博物館法を参照すること。

3. 科目の履修方法

(1) 大学において取得すべき博物館に関する科目と単位〔博物館法施行規則（平成8年8月文部省第28号）〕は、博物館概論2単位、博物館資料論2単位、博物館情報論1単位、博物館経営論1単位、博物館実習3単位、生涯学習概論1単位、教育学概論1単位、視聴覚教育メディア論1単位である。なお、上記科目と本学において開講される読み替え科目との関係は、次ページの表1のとおりである。

注意：博物館法の改定により平成24年度から「博物館法」科目が大幅に変更になり、平成24年度入学生より、取得が必要な単位数が増えます。それに伴い、本学では平成24年度から開講授業科目の変更・増設を行います。平成23年度までの入学生には、下記の「博物館法」科目と必要単位が適用されるので、平成24年度以降は新規の表で対応します。

(2) (博物館法で定められた)学芸員資格証明書交付は、昭和42年1月24日付けの文社社第48号各関係大学長あて社会教育局長通達で、取りやめになり、以下のように簡略化されている。

大学において博物館に関する科目の単位を修得した者は、当然学芸員の資格が発生する。これを明らかにする必要がある場合は、大学が発行する卒業証明書および博物館に関する科目の単位取得証明書を任命権者（都道府県および市町村の教育委員会など博物館の管理機関）に提出すること。

4. 博物館実習

(1) 理学部学生にあつては、ナチュラルヒストリー（博物館実習、3単位）を履修できる学生は、前年度までに普遍教育科目の博物館概論（2単位）、博物館資料論B（自然系、2単位）または博物館資料論D（環境系、2単位）を履修した学生である。他学部の学生にあつては、同上の条件を満たした自然科学系の学科の学生であることが必要である。申し込み手続きは、掲示により指示する。

(2) 博物館実習の履修申請は、他の授業科目と同様である。ただし、ガイダンスは、西千葉と松戸にて10月～11月に各1回行う（どちらか都合のつく日に参加すれば良い）。また、実習先決定ガイダンスは、西千葉にて11月～12月に行う。ガイダンス等の連絡は、理学部、教育学部、工学部、園芸学部、総合校舎などに掲示する。

- (3) 博物館実習には、実習経費、謝金などを必要とするが、これについては別に指示する。
- (4) 博物館実習は、原則として大学が指定した博物館などにおいて行う。実習の日程は、博物館などが決定し、他の講義・実習、教育実習などと同様に学生の個人的な都合は考慮されない。

表1

大学において取得すべき博物館に関する科目等〔博物館法施行規則（平成8年8月文部省第28号）〕と本学において開講される読み替え科目との関係一覧
(平成24年度以降入学生用)

大学において履修すべき博物館に関する科目（「博物館法」科目）と必要単位は、合計19単位必要です。本学では、これらに対応する授業科目を複数の学部等で開講しています。

「博物館法」 法令上の科目	必要 単位	本学開講授業科目	受講対象	単位	開講学部等	
生涯学習概論	2	社会教育概論	教育学部	4	教育学部	
		生涯学習概論	教育学部以外	2		
博物館概論	2	博物館概論	全学部	2	普遍教育	
博物館経営論	2	博物館経営論	全学部	2	普遍教育	
博物館資料論	2	博物館資料論A～D（※Dは隔年開講）	全学部	2	普遍教育	
		博物館学 a 博物館学 b	全学部	2	文学部	
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	全学部	2	普遍教育	
博物館展示論	2	博物館展示論	全学部	2	普遍教育	
博物館教育論	2	博物館教育論	全学部	2	普遍教育	
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	全学部	2	普遍教育	
博物館実習	3	博物館実習A（自然史系・環境科学系）	このうち、 1科目履修	(資料論BD履修者)	3	普遍教育
		博物館実習B（美術系）		(資料論C履修者)	3	普遍教育
		博物館学実習 a、b、c（歴史系）	(資料論A又は博物館学 a・b履修者)	3	文学部	
		ナチュラルヒストリー（自然史系）	(資料論BD履修者)	3	理学部	
計	19	計	教育学部の学生 教育学部以外の学生	21 19		

(平成23年度以前入学生用)

平成23年度以前の入学生については、卒業までに資格取得に必要な旧科目の単位（合計12単位）をすべて修得することで、新科目の単位の全部を修得したものと見なされます（博物館法施行規則附則第3項）。新科目の単位は旧科目の単位に読替えが可能です。

「博物館法」科目 (旧科目)	必要 単位	本学開講授業科目	受講対象	単位	開講学部等	
生涯学習概論	1	社会教育概論	教育学部	4	教育学部	
		生涯学習概論	教育学部以外	2		
博物館概論	2	博物館概論	全学部	2	普遍教育	
博物館資料論	2	博物館資料論（Dは隔年開講）	全学部	2		
		博物館学 a 博物館学 b	全学部	2	文学部	
博物館情報論	1	博物館情報・経営論	全学部	2	普遍教育	
博物館経営論	1					
教育学概論	1	社会と教育又は学校と教育	教育学部	2	教育学部	
		教育制度論又は教育学概論	教育学部以外	2		
視聴覚教育 メディア論	1	視聴覚教育（メディアと教育）	教育学部	2	教育学部	
		視聴覚教育メディア論	教育学部以外	2	普遍教育	
博物館実習	3	博物館実習 A（自然史系・環境科学系）	このうち、 1科目履修	(資料論BD履修者)	3	普遍教育
		博物館実習 B（美術系）		(資料論C履修者)	3	普遍教育
		博物館学実習（歴史系）		(資料論A又は博物館学 a・b履修者)	3	文学部
		ナチュラルヒストリー（自然史系）		(資料論BD履修者)	3	理学部
計	12	計	教育学部の学生	17		
			教育学部以外の学生	15		

8 地球科学科における測量士補資格取得について

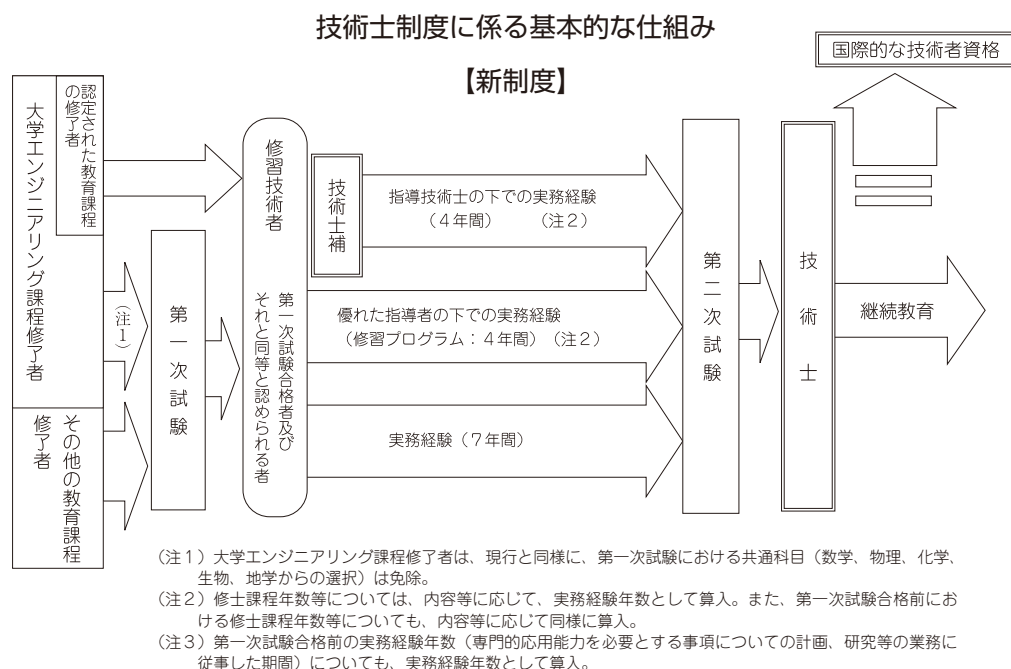
地球科学科の学生は、以下の専門科目の単位をすべて取得し、かつ、卒業要件単位を満たすことによって、国土交通省国土地理院認定の測量士補の資格を得ることができる（別途、国土地理院への登録申請が必要）。

授業科目名	履修年次	単位
基礎測量学	2～4	2
測量学実験	2～4	1

9 地球科学科におけるJABEEプログラム

1. JABEEと技術士制度について

日本技術者教育認定機構（JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education）は、統一的基準に基づいて理工農系大学における技術者教育プログラムの認定を行う機関として1999年11月に設立され、2001年度から本格的な認定活動を開始した。大学教育を評価し、認定を与えるという点で、JABEEの認定制度も一種の大学評価であると言える。JABEE設立の背景には、技術者の国際的な流動性が飛躍的に高まってきたことが挙げられる。アメリカにはPE（プロフェッショナル・エンジニア）、イギリスにはCE（チャータード・エンジニア）などの国際的な技術者資格がある。しかもアメリカではPEを取得するためには、FE（ファンダメンタル・オブ・エンジニア）の資格が必要で、FEを取得するには認定を受けた技術者教育プログラムを卒業しなければならない。日本には「技術士」という資格制度が存在するが、実務経験と論文中心の試験であり、大学の教育課程とリンクしたものではなかった。



そこで、JABEEの動きと連動して技術士制度も改正され、技術士の前段階としてアメリカのFEと同等と位置づけられる「修習技術者」の資格が創設された（上図）。しかもJABEEの認定プログラムの修了生は、無試験で「修習技術者」の資格を取得できる。大学教育と職業教育がリンクしたことで、海外の技術者資格に近づいた。

理学部においては、伝統的に地球科学の分野で卒業生が実務経験をつんだ上で、応用理学の分野で技術士を取得する場合が一般的であった。そのため千葉大学理学部地球科学科の卒業生にとって、修習技術者となり技術士を得ることが重要であると考え、JABEE地球科学科プログラムを準備することになった。

千葉大学理学部地球科学科では、2004年4月にプログラムに関わる教職員と学生に学習・教育目標の公開・周知を行って、2006年11月にJABEEの審査を受け、2007年5月に認定された。2003年入学以降の学生は、理学部地球科学科卒業の際に、地球科学科プログラムの修了証書が渡され、技術者教育プログラム修了者として認定される。

2. 地球科学科プログラム

(1) 地球科学科プログラムと育成しようとする技術者像について

本プログラムは、これから説明する地球科学を「社会に役立てるにはどうしたらいいか」という点にポイントを絞り勉強していくためのプログラムである。地球科学科は、地球内部科学、地球表層科学の2大講座からなる。これらの教員に加えて環境リモートセンシングセンターの教員も本プログラムの教育を行っている。国内の他の地球科学関連学科には珍しく、地質学、地球物理学以外に地形災害や地震変動を扱う自然地理学・地形学、さらには地表の物質循環や雪氷などを対象とする地球化学・雪氷学を包含する地球環境科学に関する研究・教育を行っていることが大きな特色である。地球科学科では、気圏を除く地球上で起こるすべての地球科学的現象および地球に記録された過去のそれらを、時間軸を柱としてグローバルな視点から理解することを目的とした研究・教育を行っている。教育については、広範な分野の基礎知識の理解を必要とする学問の性格上、特定の分野に偏ることを避け、講義、実験、セミナーを通じ可能な限り広い視野での理解ができるように心がけている。特に、野外における実験を通じての教育・指導を重視し、教科書からの知識にとどまらず地球という本物の教科書に触れる機会を増やし、学生の具体的興味を引き出す努力をしている。この教育姿勢は、卒業研究や大学院での研究でさらに強化されることになる。

従って、このプログラムを受講することは、2つの大講座と環境リモートセンシングセンターにまたがる地球科学の基礎知識を広く身につけることとなる。地球科学を学んだ卒業生は、地質コンサルタント、土木建設関連会社、地球資源関連会社、環境コンサルティング会社などの分野で活躍している。このような情勢を考慮し、本プログラムで育成しようとする自立した技術者像を以下のように設定した。「地球環境や災害等を理解するための地球科学に関する幅広い基礎知識と専門知識、そして、これらに関する地球的及び地域的・社会的・倫理的視点も含めた総合的な判断力を有し、与えられた制約の下で自主的・計画的に仕事を遂行し、さらに、将来は国際的に認知され協働作業のできる地球科学の自立した技術者」。

(2) 地球科学科プログラムの学習・教育到達目標

地球科学科プログラムの特徴は、従来の固体地球科学に加えて雪氷学や地形学などを含む多様な分野を含んでおり、地域の開発・防災・環境に対して、野外調査を基本とした多面的な教育を行っていることである。この特徴を生かして、本プログラムでは下記の9つ学習・教育到達目標を設定した。

- (A) 地球的視点：幅広く深い教養を備え、科学技術と社会・文化とのかかわりを理解し、地球的視点を含むさまざまな視点の総合的な判断力を養うための基礎的能力を身に付け活用できる。
- (B) 技術者倫理：技術社会と自然の調和を目指すための社会的・倫理的責任を理解する能力を身に付け、社会に対する責任を自覚できる。
- (C) 科学的基礎学力：地球・資源と環境に関する科学技術の基礎的な知識と応用能力を養うため、基礎的な自然科学、数学、情報科学などを身に付け活用できる。
- (D) 地球科学の専門学力：地球科学を基礎として社会に貢献するために、幅広い多様な分野の知識を習得し、多様な現場における問題解決に応用できる基礎的能力を身に付け活用できる。
- (E) デザイン能力：地球科学に関する幅広い知識を利用して、社会的・学術的な問題点の把握、研究立案、研究の実施と解析などを行い、結果の取りまとめや報告・討論をおこなう統合的な能力を身に付け活用できる。
- (F) コミュニケーション力：自分の意見を論理的にわかりやすく伝え、他者の意見を的確に理解する能力と、地球科学に関して国際社会に通用するコミュニケーション能力を身に付け活用でき

る。

(G) 地域問題解決力：地域における開発・保全・防災・環境などの問題に取り組むため、関連する地球科学の幅広い多様な分野の知識を習得し、問題解決に応用できる基礎的能力を身に付け活用できる。

(H) 自主的計画力：社会の変化や技術の進歩に対応し、自主的、継続的に学習できる能力を養うとともに、与えられた制約の下で計画的に考え行動し表現することのできる能力を身に付け活用できる。

(I) チームワーク力：他者と協働する際に、自己のなすべき行動や他者のとるべき行動を的確に判断し、それらを実現できる能力を身に付け活用できる。

この学習・教育到達目標は、JABEEで重要としている自立した技術者に必要な以下の9つの知識・能力の獲得を目指す。

a. 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養

これは学習・教育到達目標(A)によって修得できる。

b. 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解

これは学習・教育到達目標(A)と(B)によって修得できる。

c. 数学及び自然科学に関する知識とそれらに応用する能力

これは学習・教育到達目標(C)によって修得できる。

d. 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらに応用する能力

これは主として学習・教育到達目標(D)、(G)、(H)によって修得できる。

e. 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

これは主として学習・教育到達目標(E)、(H)によって修得できる。

f. 論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力

これは主として学習・教育到達目標(E)、(F)、(H)によって修得できる。

g. 自主的、継続的に学習する能力

これは主として学習・教育到達目標(C)、(D)、(G)、(H)によって修得できる。

h. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

これは主として学習・教育到達目標(C)、(D)、(E)、(G)、(H)によって修得できる。

i. チームで仕事をするための能力

これは主として学習・教育到達目標(I)によって修得できる。

以上、地球科学科プログラムの学習・教育到達目標を述べたが、国際化時代において我が国の地球科学はどうあるべきか、地圏の開発と防災のためだけでなく地球環境問題をどのようにとらえればよいかなど、社会的ニーズに対応した教育を行っている。これらの観点から、地球科学科プログラムでは、技術者の視点および手法により、地球システムを解析、修正・改善、創造する能力を取得させることを目標に、地球科学現象に関するコンピューターシミュレーション解析やリモートセンシング、GIS、GPS、同位体など各種分析技術などの新しい技術をも取り入れた教育を行っている。自然環境の保全や再生のための計画・設計などに関する専門教育とこれらに必要な基礎教育を行っている。その結果、地球科学科プログラムを修了した卒業生が、設定した技術者像に合致した技術者として活躍することを念頭に置いて教育を行っている。

学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育到達目標	授 業 科 目 名							
	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	コアC(芸術と文化) コアD(社会と歴史) コアB(暮らしと環境) コアF(いのちと科学)	初修外国語 展開科目	展開科目	展開科目				
(B)	コアA(論理と哲学) コアB(こころと発達)			地球科学技術者倫理				
(C)	地球科学入門I 地球科学入門II 地学基礎実験A 地学基礎実験D 微積分学A 微積分学B1 微積分学B2 線形代数学B1 線形代数学B2 統計学A 統計学B1 統計学B2 物理学AI 物理学B 物理学C 物理化学A 物理化学B 地球科学基礎化学 生命科学入門 物理学基礎実験I 生物学基礎実験I 情報処理 化学基礎実験		地球科学基礎数学 化学 有機化学					
(D)	地球科学基礎セミナー		岩石鉱物学概論I 岩石学野外実験 地球物理学I 地球物理学II 地球ダイナミクス概論 地殻構造学I 層序学概論 地史古生物学II 地質調査法 地質学野外実験I 基礎測量学 測量学実験 天気と大気科学	岩石学IA 岩石学II 地球物理学III 情報地球科学I 地球物理学実験I 地殻構造学II 地殻構造学III 地殻構造学実験I 地史古生物学I 地史古生物学III 地史古生物学実験II 地質学野外実験I 流体地球科学	鉱物学I 鉱物学II 岩石学II 岩石学III 地球物理学III 情報地球科学II 地球物理学実験II 情報地球科学II 地殻構造学実験II 地殻構造学野外実験II 日本列島形成史 地史古生物学III 地史古生物学実験II 堆積学I* 堆積学III* 地形学I*			
(E)					地史古生物学実験I 地殻構造学野外実験I 地質学野外実験II 地形学実験II 水文学実験II 雪水学実験	岩石鉱物学実験III 地球物理学実験II 堆積学実験II 地球化学実験 リモートセンシング・GIS実習	卒業研究	卒業研究
(F)	英語科目 地球科学基礎セミナー 情報処理	英語科目	英語科目	英語科目 地球科学英語			地球科学演習 卒業研究	地球科学演習 卒業研究
(G)			層序学概論 地質学野外実験II 環境リモートセンシング概論 天気と大気科学 基礎測量学 測量学実験 岩石学野外実験II	堆積学I 堆積学II 堆積学実験I 地形学II 地形学I 水文学I 水文学II 地球生理学 表層環境化学 リモートセンシング入門 岩石学IA# 日本列島形成史#				
(H)							地球科学演習 卒業研究	地球科学演習 卒業研究
(I)	情報処理	地学基礎実験D			地史古生物学実験I 地殻構造学野外実験I 地質学野外実験II 地形学実験II 水文学実験II 雪水学実験	岩石鉱物学実験III 地球物理学実験II 堆積学実験II 地球化学実験 リモートセンシング・GIS実習		

*付科目の他の科目との関連は (G) 欄中を参照のこと。
 #付科目の他の科目との関連は (D) 欄中を参照のこと。
 太字は必修科目、斜体字は選択必修科目。

10 事務手続等の案内

種 別	摘 要	
授 業 料 関 係	<p>指定銀行口座からの引落としによります。</p> <p>毎年4月、10月に授業料についてのお知らせを掲示しますので、各自必ず確認して下さい。</p> <p>半期分授業料 267,900円</p> <p>納入期限</p> <p>前期 4月末日（土、日の場合はその前日）</p> <p>後期 10月末日（土、日の場合はその前日）</p> <p>口座引落日</p> <p>前期 平成25年4月30日（火）</p> <p>後期 平成25年10月28日（月）</p> <p>*在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。</p>	
授 業 料 免 除	<p>授業料は、経済的理由により授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる者については免除されます（1年時の前期分は合格者心得による）。</p> <p>なお、申請については、前期分は前年度の後期授業終了前（1年次の前期分については、入学手続等の手引きによる）、後期分は夏季休業前までに掲示されるので、注意して下さい。</p>	
証 明 書 関 係	<p>在学証明書は、大学内設置の自動発行機を各自で操作し、受領して下さい。</p> <p>その他の証明書は、学務係所定用紙により、申し込んだ分について原則として3日後（土、日、祝日は除き）発行します。</p> <p>なお、4年次学生は成績証明書及び卒業見込証明書（卒業見込みの者のみ）自動発行機で受領できます。</p>	
身 分 関 係	休 学 願	<p>疾病その他の事由により、2か月以上修学することができない場合、事由を付して休学を願い出て下さい。休学願の提出期限は、原則として休学しようとする日から起算して1か月前までとします。（疾病の場合は、診断書を添付。）</p>
	復 学 願	<p>休学期間満了の場合、又は休学期間中に、その事由が消滅した場合には、原則として履修を再開しようとする日から起算して1か月前までに復学願を提出して下さい。（疾病の場合は、診断書を添付。）</p>
	退 学 願	<p>退学しようとする日から起算して1か月前までに手続きを行って下さい。</p> <p>なお、退学する Semester の授業料を完納しなければなりません。</p>
	学 生 証 再 発 行	<p>紛失または忘失した場合は、学務係所定用紙により届け出て下さい。</p>
	現 住 所 等 の 変 更 に つ い て	<p>本人の現住所、連絡先等、及び本人以外の連絡先（氏名・連絡先等）が変更になった場合は、学内のパソコンでその都度速やかに変更を入力して下さい。入力方法の詳細については、ガイダンス等でお知らせします。</p>

種 別		摘 要
身分 関係	自 転 車 通 学	自転車で通学する学生は、掲示された期間に学務係窓口で「所定」の手続きをとる。
	車 輜 に よ る 通 学 (自 動 車 等)	車輜での通学は、原則として認めません。特殊な事情により車輜で通学を希望する学生は、学務係窓口申し出て下さい。その事由が、車輜による通学が認められる場合は、これを許可します。
学割 関係	学 校 学 生 生 徒 旅 客 運 賃 割 引 証 (学 割 証)	鉄道の片道区間が100km以上の場合、1枚につき1人1回使用できます。1人年間10枚となっているので、計画を立てて使用して下さい。なお、1回に発行できる枚数は、5枚を限度とします。(発行日から3か月有効) 発行は自動発行機によります。
課外 活動 関係	建 物 使 用 願	事前に学務係に相談のうえ予約をとり、使用日の5日前までに建物使用願を提出して下さい。
	掲 示 許 可 願	ビラ・ポスター・立看板等は、学務係に願い出て許可印を受けて下さい。 掲示は1週間以内とし、所定の場所以外には掲示しないで下さい。 掲示期間を経過したものは、責任者が直ちに取り外して下さい。
そ の 他	健 康 診 断	毎年4月～6月に行われます。日程については、2月中に学務係の掲示板に掲示します。 健康診断証明書の発行は、自動発行機によります。但し、定期健康診断及びその再検査に未受診項目がある場合は発行できません。 〔詳細は総合安全衛生管理機構からの案内(掲示)で確認して下さい。〕
	学 生 の 事 故 に つ い て	正課中、課外活動中、及びその他の事故の場合、学務係窓口へ申し出て下さい。 学生教育健康災害傷害保険、及び千葉大学学生保健互助会に加入している者は、保険及び互助会の請求手続きを行うことができます。
	公 用 掲 示 ・ 呼 出 し に つ い て	1. 大学・学部からの伝達事項は、学務係の掲示板に掲示します。学生は、登学したら必ず掲示板を見るよう心がけて下さい。なお、必要に応じて各館の掲示板を使用することもあります。 2. 事務室・学科から個人に対する伝達のための呼出しは、学務係の掲示板に個人名を明記して掲示します。また、緊急の場合等には、直接連絡することもありますので、住所等を変更した場合は必ず届け出て下さい。 3. 授業の休講掲示は、学務係の掲示板に掲示します。
	各 種 奨 学 制 度	お知らせや案内等は、学務係掲示板にて掲示しますが、詳細は学生部学生支援課へ問い合わせして下さい。

11 教 員 一 覧

学 部 長



【氏 名】 大橋 一世 教 授

【主な研究内容】 細胞骨格タンパク質の生理化学

■数学・情報数理学科■

—教育研究領域：代数—



【氏 名】 北詰 正顕 教 授

【主な研究内容】 有限群と関連する代数構造、幾何構造



【氏 名】 越谷 重夫 教 授

【主な研究内容】 有限群と代数の表現論



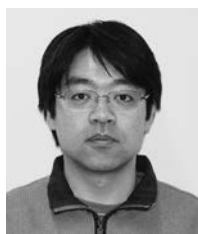
【氏 名】 西田 康二 教 授
(\times)

【主な研究内容】 可換環論



【氏 名】 安藤 哲哉 准教授

【主な研究内容】 高次元代数多様体の構造論



【氏 名】 松田 茂樹 准教授

【主な研究内容】 代数多様体の分岐理論と p 進解析



【氏 名】 大坪 紀之 准教授

【主な研究内容】 数論幾何学

—教育研究領域：幾何—



【氏 名】 稲葉 尚志 教 授

【主な研究内容】 微分位相幾何学、特に、葉層構造および力学系理論



【氏 名】 久我 健一 教 授

【主な研究内容】 位相幾何学、3次元および4次元多様体のトポロジー



【氏 名】 杉山 健一 教 授

【主な研究内容】 代数的サイクルと無限次元代数の表現論



【氏 名】 梶浦 宏成 准教授

【主な研究内容】 代数的位相幾何学と数理論理学

—教育研究領域：基礎解析—



【氏名】石村 隆一 教授

【主な研究内容】偏微分方程式論、代数解析学、層の超局所理論



【氏名】岡田 靖則 教授

【主な研究内容】偏微分方程式論、超局所解析学、超函数論



【氏名】筒井 亨 准教授

【主な研究内容】複素解析的な微分方程式



【氏名】藤川 英華 准教授

【主な研究内容】複素解析学

—教育研究領域：応用解析—



【氏名】渚 勝 教授

【主な研究内容】関数解析学、作用素の順序構造および代数構造の研究



【氏名】松井 宏樹 准教授

【主な研究内容】作用素環と位相力学系の相互作用



【氏名】佐々木浩宣 助教

【主な研究内容】非線型偏微分方程式、解の漸近挙動



【氏名】前田 昌也 助教

【主な研究内容】非線型偏微分方程式

—教育研究領域：確率・統計—



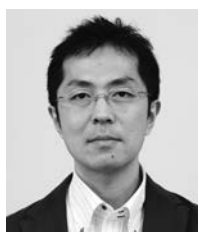
【氏名】種村 秀紀 教授

【主な研究内容】確率論、相互作用をもつ粒子系の確率解析



【氏名】汪 金芳 教授

【主な研究内容】数理統計学



【氏名】笹本 智弘 准教授

【主な研究内容】確率論・統計力学・可積分系



【氏名】井上 玲 准教授

【主な研究内容】数理物理学、可積分系

—教育研究領域：情報数理—



【氏名】 新井 敏康 教授

【主な研究内容】 数理基礎論、証明論



【氏名】 桜井 貴文 教授

【主な研究内容】 計算の論理と意味



【氏名】 山本 光晴 准教授

【主な研究内容】 計算機による検証と
そのための枠組



【氏名】 萩原 学 准教授

【主な研究内容】 符号理論、組合せ論
とそれらの応用



【氏名】 多田 充 准教授
(メ)

【主な研究内容】 計算理論とその応用

■物理学科■

—教育研究領域：素粒子宇宙物理学—



【氏名】 近藤 慶一 教授

【主な研究内容】 素粒子論



【氏名】 花輪 知幸 教授
(先進)

【主な研究内容】 宇宙物理学、数値シミュレーション星形成、高密度星、輻射輸送



【氏名】 松元 亮治 教授

【主な研究内容】 天体物理学および計算物理学



【氏名】 河合 秀幸 准教授

【主な研究内容】 高エネルギー実験、医学物理



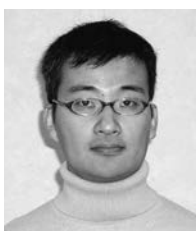
【氏名】 宮路 茂樹 准教授

【主な研究内容】 天体物理学



【氏名】 山田 篤志 准教授

【主な研究内容】 素粒子論



【氏名】 吉田 滋 准教授

【主な研究内容】 高エネルギー粒子天体物理学



【氏名】 間瀬 圭一 助教

【主な研究内容】 高エネルギー粒子天体物理学



【氏名】 松本 洋介 特任助教

【主な研究内容】 宇宙・天体プラズマ物理学、計算物理学

—教育研究領域：量子多体系物理学—



【氏名】 太田 幸則 教授

【主な研究内容】 強相関電子系の理論的研究



【氏名】 倉澤 治樹 教授
(普)

【主な研究内容】 原子核構造の理論的研究



【氏名】 中山 隆史 教授

【主な研究内容】 半導体・表面界面等の量子物性の理論的研究



【氏名】 中田 仁 教授

【主な研究内容】 原子核理論



【氏名】 岩崎 三郎 准教授

【主な研究内容】 原子核の構造の研究

—教育研究領域：凝縮系物理学—



【氏名】小堀 洋 教授

【主な研究内容】核磁気共鳴法を用いた低温での物性研究



【氏名】音 賢一 教授

【主な研究内容】ナノ閉じ込め電子系電気伝導



【氏名】大濱 哲夫 准教授

【主な研究内容】電子相関の実験的研究



【氏名】櫻井 建成 准教授

【主な研究内容】非線形科学



【氏名】北畑 裕之 准教授

【主な研究内容】非線形非平衡物理学



【氏名】深澤 英人 准教授

【主な研究内容】強相関物質の低温での物性研究



【氏名】中嶋 誠 准教授

【主な研究内容】半導体光物性・テラヘルツ分光計測



【氏名】横田 紘子 助教

【主な研究内容】強誘電体物理、非線形光学

■化学科■

—教育研究領域：基盤物質化学—



【氏名】 加納 博文 教授

【主な研究内容】 新規ナノ細孔性固体の創製とキャラクターゼーション



【氏名】 西川 恵子 教授
(融合)

【主な研究内容】 複雑凝集系の構造化学と物性化学



【氏名】 藤川 高志 教授
(融合)

【主な研究内容】 X線光電子分光、X線吸収分光法の理論的研究



【氏名】 泉 康雄 准教授

【主な研究内容】 表面反応化学、X線分光



【氏名】 勝田 正一 准教授

【主な研究内容】 超分子錯体及びイオン液体の溶液反応の解析と分離・分析化学的応用



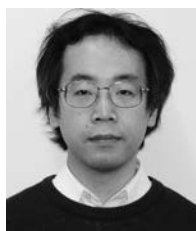
【氏名】 工藤 義広 准教授

【主な研究内容】 水溶液中における電解質のイオン対生成平衡定数の決定および応用に関する研究



【氏名】 城田 秀明 准教授
(融合)

【主な研究内容】 超高速分光による凝縮相の分子ダイナミクスの解明



【氏名】 小西 健久 准教授
(融合)

【主な研究内容】 X線吸収分光・光電子分光による物質の構造・電子状態の解析



【氏名】 沼子 千弥 准教授

【主な研究内容】 生体鉱物・地球表層環境試料や機能性材料に対するX線を用いた非破壊状態分析



【氏名】 大場 友則 助教

【主な研究内容】 ナノ空間中での分子構造、量子挙動、分子シミュレーション



【氏名】 森田 剛 助教
(融合)

【主な研究内容】 小角X線散乱、ゆらぎの概念に基づく構造化学



【氏名】 二木かおり 助教
(融合)

【主な研究内容】 X線光電子分光、X線吸収分光法の理論的研究

—教育研究領域：機能物質化学—



【氏名】赤間 邦子 教授
(善)

【主な研究内容】細胞の分化誘導のプロテオーム解析



【氏名】荒井 孝義 教授

【主な研究内容】効率的な新規不斉触媒の探索と実用的な触媒反応の探索



【氏名】坂根 郁夫 教授

【主な研究内容】細胞内情報伝達に関与する生理活性脂質とその産生除去酵素の生化学的解析



【氏名】東郷 秀雄 教授

【主な研究内容】ヨウ素の特性を活かした環境調和型有機反応の開発、及び有機反応試剤の開発



【氏名】柳澤 章 教授

【主な研究内容】元素の特性を活用した高選択的有機合成反応の開発



【氏名】吉田 和弘 准教授

【主な研究内容】遷移金属触媒を用いる有機合成反応



【氏名】米澤 直人 准教授

【主な研究内容】細胞間認識に関わる糖タンパク質の構造と機能



【氏名】村田 武士 准教授

【主な研究内容】創薬関連タンパク質のX線結晶構造解析



【氏名】森山 克彦 助教

【主な研究内容】ヨウ素を用いた新しい反応の開発

■生物学科■

—教育研究領域：分子細胞生物学—



【氏名】遠藤 剛 教授

【主な研究内容】細胞分化と組織・器官形成のシグナル伝達機構と分子機構



【氏名】大橋 一世 教授

【主な研究内容】細胞骨格タンパク質の生理化学



【氏名】田村 隆明 教授

【主な研究内容】遺伝子発現の分子機構



【氏名】山本 啓一 教授
(融合)

【主な研究内容】植物原形質流動の研究



【氏名】松浦 彰 教授
(融合)

【主な研究内容】遺伝情報維持の分子機構と高次生命機能



【氏名】阿部 洋志 准教授
(融合)

【主な研究内容】初期発生過程における細胞骨格の機能



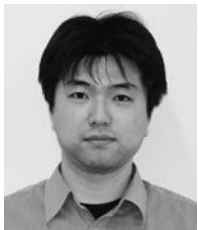
【氏名】伊藤 光二 准教授

【主な研究内容】分子細胞生物学的手法を用いたミオシン運動機構の解析



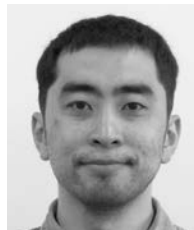
【氏名】野川 宏幸 准教授

【主な研究内容】器官の形態形成における組織間相互作用の研究



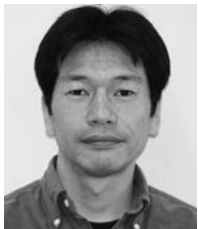
【氏名】小笠原道生 准教授
(融合)

【主な研究内容】脊索動物の分子系統発生学



【氏名】石川 裕之 准教授

【主な研究内容】細胞間シグナル伝達の調節機構と生体調節に関する研究



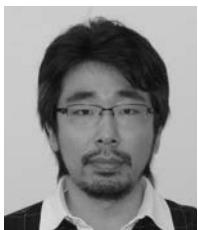
【氏名】佐藤 成樹 講師
(融合)

【主な研究内容】形態形成における細胞間接着の役割



【氏名】寺崎 朝子 講師
(融合)

【主な研究内容】細胞骨格の制御機構の研究



【氏名】高野 和儀 助教
(融合)

【主な研究内容】骨格筋の肥大と筋細胞融合の分子機構

—教育研究領域：多様性生物学—



【氏名】 土谷 岳令 教授

【主な研究内容】 水生植物の生理生態



【氏名】 富樫 辰也 教授
(バ)

【主な研究内容】 海産緑色藻類における配偶子行動と異型性の進化



【氏名】 綿野 泰行 教授

【主な研究内容】 植物の種分化機構の研究



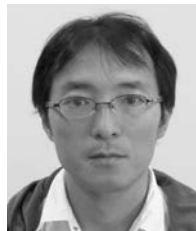
【氏名】 梶田 忠 准教授

【主な研究内容】 種子植物の系統分類および系統地理学的研究



【氏名】 平野 義明 准教授

【主な研究内容】 海洋における進化生物学：形態、行動、生態、発生



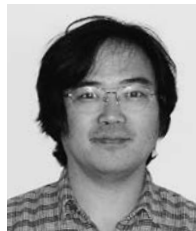
【氏名】 村上 正志 准教授

【主な研究内容】 群集生態学、生物群集の形成、維持機構の解明



【氏名】 菊地 友則 准教授
(バ)

【主な研究内容】 動物社会の維持、制御機構の解明



【氏名】 朝川 毅守 助教

【主な研究内容】 化石を用いた植物の系統、植物地理の研究

■地球科学科■

—教育研究領域：地球内部科学—



【氏 名】 井上 厚行 教授

【主な研究内容】 粘土鉱物学：溶液を反応場とする鉱物の生成と変化のダイナミクスに関する基礎的研究およびその応用



【氏 名】 廣井 美邦 教授

【主な研究内容】 変成作用の岩石学および地質学的研究



【氏 名】 金川 久一 教授

【主な研究内容】 地殻～マントル構成岩石の変形と物性



【氏 名】 佐藤 利典 教授

【主な研究内容】 海底地震学、地震発生過程解明のための研究



【氏 名】 服部 克巳 教授

【主な研究内容】 地球環境電磁気学、電磁気学的手法による地殻活動監視・予測に関する研究



【氏 名】 津久井雅志 教授

【主な研究内容】 火山地質、マグマ溜りの復元に関する研究



【氏 名】 中西 正男 准教授

【主な研究内容】 海洋底からみた地球内部ダイナミクス



【氏 名】 古川 登 助教

【主な研究内容】 高温高压実験による鉱物生成反応の解析



【氏 名】 高橋奈津子 助教

【主な研究内容】 マントル・下部地殻物質の成因とマグマ発生メカニズム



【氏 名】 津村 紀子 助教

【主な研究内容】 島弧・衝突帯の地震学的構造

—教育研究領域：地球表層科学—



【氏名】伊藤 慎 教授

【主な研究内容】地層形成プロセスの解析



【氏名】小竹 信宏 教授

【主な研究内容】顕生代における底生生物の生活・行動様式の変遷史解明



【氏名】宮内 崇裕 教授

【主な研究内容】活構造に由来する変動地形の形成過程



【氏名】竹内 望 教授

【主な研究内容】氷河と雪氷生物の相互作用、雪氷コアによる古環境復元



【氏名】亀尾 浩司 准教授

【主な研究内容】浮遊性微化石に基づく過去の海洋の環境変動



【氏名】金田平太郎 准教授

【主な研究内容】変動地形・山地地形の研究、地形・地質学的手法による活断層・古地震の研究



【氏名】吉田 修二 准教授

【主な研究内容】河川および浅海起源の砂岩の堆積相・層序・古環境の解析と石油開発・防災への応用



【氏名】松本みどり 准教授

【主な研究内容】中生代－新生代植物化石の比較形態学的、系統学的研究



【氏名】戸丸 仁 准教授

【主な研究内容】海洋環境変動に対応した物質循環と資源形成

—教育研究領域：環境リモートセンシング—



【氏名】 近藤 昭彦 教授
(環)

【主な研究内容】 リモートセンシング、
地理情報システムを
使った世界、アジア、
日本の環境変動に関
する研究



【氏名】 高村 民雄 教授
(環)

【主な研究内容】 人口衛星、地上観測
データを用いた、エア
ロゾル・雲が日射・放
射へ与える影響研究



【氏名】 建石隆太郎 教授
(環)

【主な研究内容】 衛星データからの情
報抽出手法に関する
研究



【氏名】 樋口 篤志 准教授
(環)

【主な研究内容】 衛星気候学、大気陸
面相互作用、水文学



【氏名】 本郷 千春 准教授
(環)

【主な研究内容】 生産・生態環境、環
境調和型農業、植物
栄養学、実利用リ
モートセンシング

- 備考 (融合) は大学院融合科学研究科専任教員
(環) は環境リモートセンシング研究センター専任教員
(メ) は総合メディア基盤センター専任教員
(先進) は先進科学センター専任教員
(普) は普遍教育センター専任教員
(バ) は海洋バイオシステム研究センター専任教員

12 理学部クラス顧問教員

学科 入学年度	数学・情報 数理学科	物理学科	化学科	生物学科	地球科学科
平成15年度(03S)					中西正男
平成16年度(04S)					
平成17年度(05S)	松田茂樹				小竹信宏
平成18年度(06S)	汪金芳	岩崎三郎	吉田和弘	木村澄子	吉田修二
平成19年度(07S)	西田康二	近藤慶一	城田秀明	小笠原道生	竹内望
平成20年度(08S)	筒井亨	大濱哲夫	大場友則	梶田忠	亀尾浩司
平成21年度(09S)	安藤哲哉	宮路茂樹	泉康雄	伊藤光二	金川久一
平成22年度(10S)	山本光晴	櫻井建成	村田武士	村上正志	金田平太郎
平成23年度(11S)	笹本智弘	太田幸則	森田剛	佐藤成樹	松本みどり
平成24年度(12S)	松井宏樹	北畑裕之	森山克彦	寺崎朝子	津村紀子
平成25年度(13S)	藤川英華	深澤英人	沼子千弥	石川裕之	戸丸仁

13 授業評価アンケートについて

千葉大学では、個々の授業に対し授業評価アンケートを実施している。これは主として学期末近くに、その授業に対して、受講した学生がどのような感想・意見を持ったかを、いくつかの設問に答えることによって集めようとするもので、今後の授業の改善に役立てるためのものである。設問の例としては次のようなものがあり、いくつかの選択肢の中から回答を選ぶようになっている。

学生による授業評価

A. シラバスについて

1. シラバスの内容と授業の内容は合っていましたか

- ①合っていた ②ほぼ合っていた ③まあまあ ④あまり合っていない
⑤全然合っていない

B. 授業の内容・方法等について

2. 授業の内容のレベルはどうでしたか

- ①高すぎる ②やや高い ③適切 ④やや易しすぎる ⑤易しすぎる

3. 授業は一貫性、計画性のあるものでしたか

- ①非常にあった ②あった ③まあまあ ④あまりなかった ⑤全然なかった

4. 教材は授業内容にてらして適切でしたか

- ①非常に適切だった ②適切だった ③普通 ④あまり適切でない ⑤全く適切でない

5. 教員の休講、大幅な遅刻、あるいは講義時間の短縮等による授業への支障はありましたか

- ①全くなかった ②ほとんどなかった ③すこしあった ④あった ⑤非常にあった

6. 授業のスピードはどうでしたか（授業の進度は適切でしたか）

- ①非常に良かった ②適切だった ③普通 ④遅い ⑤早過ぎた

7. 教員の話し方、板書の文字等はどうでしたか

- ①非常に適切だった ②適切だった ③普通 ④あまり適切でない ⑤全く適切でない

8. 授業において、担当教員と学生たちとの間のコミュニケーションは適切に成立していましたか

- ①十分適切に成立していた ②適切に成立していた ③普通 ④あまり成立していなかった
⑤全く成立していなかった

C. あなた自身について

9. 授業内容は興味・関心のあるものでしたか

- ①非常にあった ②あった ③まあまあ ④あまりなかった ⑤全然なかった

10. 授業はよく理解できましたか

- ①よく理解できた ②理解できた ③まあまあ ④難しかった ⑤全く理解できなかった

11. この授業は、専門分野の理解に役にたちましたか

- ①非常に役にたった ②役にたった ③まあまあ ④あまり役にたたなかった
⑤全然役にたたなかった

12. 授業により視野が広がりましたか

- ①非常に広がった ②広がった ③まあまあ ④あまり広がらなかった
⑤全然広がらなかった

13. 授業にどの程度出席しましたか

- ①すべて出席 ②1～2回欠席 ③3～4回欠席 ④5～6回欠席 ⑤7回以上欠席

14. 予習・復習はどの程度しましたか

- ①非常によくした ②よくした ③まあまあ ④あまりしなかった ⑤全くしなかった

D. 自由記述

これらは授業の効果を問う質問であるとともに、学生生活を知るための質問でもあるので、是非正直に答えてほしい。また、堂々と答えられるような生活を送っていただきたい。

この授業評価アンケートの結果は、集計され各教員に配られ、個々の授業の改善やカリキュラム全体の改善のために用いられる。学生と教員とを結ぶ大切な機会のひとつと考えて、真剣かつ正確に答えていただくよう希望する。

14 平成25年度 学科別時間割表

普遍教育科目・共通専門基礎科目

クラス・ブロック指定科目（理学部関係部分抜粋）

備考

1. 普遍教育科目・共通専門基礎科目の対象

数字は学年を、アルファベット大文字は学部を、漢字等は学科・課程等を示す。

E……教育学部〔小：小学校教員養成課程、理：中学校教員養成課程自然教育・
技術教育系の理科分野〕

S……理学部〔数：数学・情報数理学科、物：物理学科（先進科学プログラム 物理学コース
学生を含む）、化：化学科（先進科学プログラム 物理化学コース学生を含む）、
生：生物学科、地：地球科学科〕

N……看護学部

T……工学部〔建：建築学科、デ：デザイン学科、メ：メディカルシステム工学科、
ナ：ナノサイエンス学科、共：共生応用化学科〕

H……園芸学部〔園：園芸学科、応：応用生命化学科、食：食料資源経済学科〕

2. 英語

1年次はブロック指定で受講する。学部によっては、学科等によりブロックが区分される。

3. 一部の科目は以下のとおり省略して表記している。

物理学演習B I 力学演習1 → 物理学演習B I

物理学演習B II 力学演習2 → 物理学演習B II

物理学演習C I 電磁気学演習1 → 物理学演習C I

物理学演習C II 電磁気学演習2 → 物理学演習C II

物理学演習D I 熱統計力学演習 → 物理学演習D I

物理学演習E I 量子力学演習 → 物理学演習E I

4. 科目名の後に付く略号

[通期] → 通期開講

[前半] → 前半開講

[後半] → 後半開講

[隔週] → 隔週開講

[1期] → 1期

[2期] → 2期

[3期] → 3期

普遍教育科目のみ 前期

		I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)	
月	学部	1年次					
		2年次					
		3年次					
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 線形代数学B I 地球科学基礎数学	S物 S地	共通専門基礎科目 統計学 地球科学入門 I 生物学基礎実験 2	理系 S地 1S生	情報リテラシー科目 情報処理 1S化 共通専門基礎科目 生物学基礎実験 2 1S生
						初修外国語 ドイツ語 1 + 2 ⑥ SNH 園応食 ドイツ語 1 + 2 ⑦ SNH 園応食 フランス語 1 + 2 ⑧ SNH 園応食 フランス語 1 + 2 ⑦ SNH 園応食 中国語 1 + 2 ⑩ SNH 園応食 中国語 1 + 2 ⑪ SNH 園応食 中国語 1 + 2 ⑫ SNH 園応食	
火	学部	1年次					
		2年次					
		3年次					
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理学A I 入門 物理学B I 力学入門 1	理系文系 1E小S 1S数物	教養コア科目 B ところと発達[前半] C 芸術と文化[後半]	1E小S 1E小S S化	共通専門基礎科目 微積分B I E 暮らしと環境[前半] F いのちと科学[後半]
						教養コア科目 A 論理と哲学[前半] D 社会と歴史[後半]	
水	学部	1年次					
		2年次					
		3年次					
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理化学A	E 理S物地	英語科目 英語 I L & S31 英語 I L & S32 英語 I L & S33 英語 I L & S34 英語 I L & S35 C A L L 英語⑥	1S 1S 1S 1S 1S 1S	共通専門基礎科目 線形代数学B I 統計学A 物理学C II 電磁気学入門 2 物理学基礎実験 I [1期] 化学基礎実験[2期]
						共通専門基礎科目 情報リテラシー科目 情報処理 1S物 共通専門基礎科目 統計学B I 物理学演習C II 電磁気学演習 2 物理学基礎実験 I [1期] 化学基礎実験[2期]	
木	学部	1年次					
		2年次					
		3年次					
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 地学概論A	E 理STH (教職用)	共通専門基礎科目 微積分学演習B I [隔週] 線形代数学演習B I [隔週] 統計学A 物理学演習B I [隔週]	1S数 1S数 理系 1S物	英語科目 英語 I L & S31 英語 I L & S32 英語 I L & S33 英語 I L & S34 英語 I L & S35 C A L L 英語⑥
						1S 1S 1S 1S 1S 1S	
金	学部	1年次					
		2年次					
		3年次					
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		初修外国語 ドイツ語 1 + 2 ⑥ SNH 園応食 ドイツ語 1 + 2 ⑦ SNH 園応食 フランス語 1 + 2 ⑧ SNH 園応食 フランス語 1 + 2 ⑦ SNH 園応食 中国語 1 + 2 ⑩ SNH 園応食 中国語 1 + 2 ⑪ SNH 園応食 中国語 1 + 2 ⑫ SNH 園応食	共通専門基礎科目 微積分学A 微積分学B I 線形代数学B I	S 地E S物 S化	共通専門基礎科目 微積分学B I 物理学基礎実験IV [1・2期]	1S数 理系文系
						理系文系	

集中	地学基礎実験A	S 地
----	---------	-----

普遍教育科目のみ 後期

		I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)
月	学部	1年次				
		2年次				
		3年次				
		4年次				
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	共通専門基礎科目 物理学C I 電磁気学入門1 1S数物		共通専門基礎科目 物理学演習C I 電磁気学演習1 [隔週] 1S物 地球科学入門II S地	共通専門基礎科目 物理学演習E I 量子力学演習 [隔週] 2S物
火	学部	1年次				
		2年次				
		3年次				
		4年次				
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	共通専門基礎科目 物理学A I 入門 理系文系H 物理学B II 力学入門2 1S数物 生命科学入門 1S生以外 1Tメナ共 1E中技	共通専門基礎科目 物理学演習B II 力学演習II [隔週] 1S物	共通専門基礎科目 微積分学B 2 S化 物理学基礎実験I [1期] 1S物 物理学基礎実験II [3期] 1S物 化学基礎実験 [2期] S物生地 生物学基礎実験I [1期] 1S生以外 2T・共・他 (教職用)	共通専門基礎科目 線形代数学C 4 2S数 物理学基礎実験I [1期] 1S物 物理学基礎実験II [3期] 1S物 化学基礎実験 [2期] S物生地 生物学基礎実験I [1期] 1S生以外 2T・共・他 (教職用)
水	学部	1年次				
		2年次				
		3年次				
		4年次				
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	共通専門基礎科目 物理化学B E理S物地	英語科目 英語I R 47 1S 英語I R 48 1S 英語I R 49 1S 英語I R 50 1S 英語I R 51 1S 英語I W12 1S	共通専門基礎科目 線形代数学B 2 1S数 地学基礎実験B [1期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 統計学B 2 2S数 物理学D I 熱統計力学入門 2S物 地学基礎実験B [1期] 理系 (教職用含)
木	学部	1年次				
		2年次				
		3年次				
		4年次				
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	共通専門基礎科目 物理学E I 量子力学入門 2S物 地学概論B E理STH (教職用)	共通専門基礎科目 微積分学演習B 2 [隔週] 1S数 線形代数学B 2 S物 線形代数学演習B 2 [隔週] 1S数 統計学A 理系 物理学C 電磁気学入門 S化地	英語科目 英語I R 47 1S 英語I R 48 1S 英語I R 49 1S 英語I R 50 1S 英語I R 51 1S 英語I W12 1S	
金	学部	1年次				
		2年次				
		3年次				
		4年次				
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	初修外国語 ドイツ語3+4⑥ SNH園応食 ドイツ語3+4⑦ SNH園応食 フランス語3+4⑥ SNH園応食 フランス語3+4⑦ SNH園応食 中国語3+4⑩ SNH園応食 中国語3+4⑪ SNH園応食 中国語3+4⑫ SNH園応食	共通専門基礎科目 線形代数学A S地E 微積分学B 2 S物 線形代数学B 2 S化	共通専門基礎科目 微積分学B 2 1S数 地学基礎実験D [1期] S地	共通専門基礎科目 地学基礎実験D [1期] S地

数学・情報数理学科 前期

月	学部	1年次	I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)
		1年次				計算機演習 (櫻井、山本光)	
		2年次		データ構造概論 (多田)			
		3年次		代数学特論IV (松田)	複素関数論 (藤川英)	関数論演習 (藤川英)	
		4年次		代数学特論IV (松田)			
		普遍教育科目 共通専門基礎科目					初修外国語 ドイツ語1+2⑥ SNH園応食 ドイツ語1+2⑦ SNH園応食 ドイツ語1+2⑧ SNH園応食 フランス語1+2⑥ SNH園応食 フランス語1+2⑦ SNH園応食 中国語1+2⑩ SNH園応食 中国語1+2⑪ SNH園応食 中国語1+2⑫ SNH園応食
火	学部	1年次			数学の基礎I (藤川)		
		2年次		代数学演習 (北詰)			
		3年次		代数学統論 (安藤)	情報数学II (萩原)	確率論I (種村)	
		4年次		代数学統論 (安藤)			
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	共通専門基礎科目 物理学B I力学入門1 1S数物	教養コア科目 B ことと発達[前半] 1E小S C 芸術と文化[後半] 1E小S		教養コア科目 E 暮らしと環境[前半] 1E小S F いのちと科学[後半] 1E小S	教養コア科目 A 論理と哲学[前半] 1E小S D 社会と歴史[後半] 1E小S
水	学部	1年次					
		2年次		代数学I (越谷)			
		3年次		微分方程式論I (石村)	数理統計学 (汪)	多様体論I (杉山)	
		4年次					線形代数学統論 (大坪)
		普遍教育科目 共通専門基礎科目		英語科目 英語I L & S31 1S 英語I L & S32 1S 英語I L & S33 1S 英語I L & S34 1S 英語I L & S35 1S C A L L 英語⑥ 1S	共通専門基礎科目 線形代数学B 1 1S数 物理学C II電磁気学入門2 2S数物	共通専門基礎科目 統計学B 1 2S数	
木	学部	1年次	スタートアップセミナー (全員)				
		2年次			微積分学統論I (佐々木)		
		3年次		プログラミング言語論I (山本光)	幾何学 (久我) 情報数学I (新井)		
		4年次					
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	共通専門基礎科目 地学概論A E理STH (教職用)	共通専門基礎科目 微積分学演習B 1 [隔週] 1S数 線形代数学演習B 1 [隔週] 1S数	英語科目 英語I L & S31 1S 英語I L & S32 1S 英語I L & S33 1S 英語I L & S34 1S 英語I L & S35 1S C A L L 英語⑥ 1S		
金	学部	1年次		プログラミング (桜井)			
		2年次				コンピュータ数学 (佐々木)	
		3年次		現代解析I (渚)	ソフトウェア演習I (櫻井貴)		
		4年次					
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	初修外国語 ドイツ語1+2⑥ SNH園応食 ドイツ語1+2⑦ SNH園応食 ドイツ語1+2⑧ SNH園応食 フランス語1+2⑥ SNH園応食 フランス語1+2⑦ SNH園応食 中国語1+2⑩ SNH園応食 中国語1+2⑪ SNH園応食 中国語1+2⑫ SNH園応食		共通専門基礎科目 微積分学B 1 1S数		

集中	学部	3年次	4年次
		代数学特論I [通期] (鳥倉) 職業の情報学I [通期] 職業の情報学II [通期] (伊知地、的場、阿部) 幾何学特論III [通期] (小山) 数理解析学特論V [通期] (山崎) 統計数学特論VI [通期] (津熊) 情報数理学特論V [通期] (河野) コンパイラ [通期] (山口)	卒業研究 [通期] (各教員) 代数学特論I [通期] (鳥倉) 職業の情報学I [通期] 職業の情報学II [通期] (伊知地、的場、阿部) 幾何学特論III [通期] (小山) 数理解析学特論V [通期] (山崎) 統計数学特論VI [通期] (津熊) 情報数理学特論V [通期] (河野) コンパイラ [通期] (山口)

数学・情報数理学科 後期

月	学部	1年次	I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)
		1年次				情報学演習 (山本光、萩原)	
		2年次		位相空間論 (梶浦)	アルゴリズム論 (多田)		
		3年次		幾何学特論Ⅶ (稲葉)		統計数理学特論Ⅶ (井上)	
		4年次		幾何学特論Ⅶ (稲葉)			
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理学C I 電磁気学入門1 1S数物				初修外国語 ドイツ語3+4⑥ SNH園応食 ドイツ語3+4⑦ SNH園応食 フランス語3+4⑥ SNH園応食 フランス語3+4⑦ SNH園応食 中国語2 SNH園応食 中国語3+4⑩ SNH園応食 中国語3+4⑪ SNH園応食 中国語3+4⑫ SNH園応食
火	学部	1年次			数学の基礎Ⅱ (北詰)		
		2年次		位相演習 (前田)			
		3年次		数値計算法 (渚)	情報数理学特論Ⅶ (萩原)	確率論Ⅱ (種村)	
		4年次			情報数理学特論Ⅶ (萩原)		
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理学A I 入門 理系文系H 物理学B II 力学入門2 1S数物	共通専門基礎科目 物理学A I 入門 理系文系H			
水	学部	1年次					
		2年次		代数学Ⅱ (西田)			
		3年次		情報数理学特論Ⅳ (新井) 微分方程式論Ⅱ (岡田)	数理統計学演習 (笹本)	多様体論Ⅱ (梶浦)	
		4年次		情報数理学特論Ⅳ (新井)		統計数理学特論Ⅵ (安田)	
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		英語科目 英語 I R 47 1S 英語 I R 48 1S 英語 I R 49 1S 英語 I R 50 1S 英語 I R 51 1S 英語 I W12 1S	共通専門基礎科目 線形代数学B 2 1S数	共通専門基礎科目 統計学B 2 2S数		
木	学部	1年次					
		2年次			微積分学統論Ⅱ (筒井)		
		3年次		プログラミング言語論Ⅱ (桜井) 数理解析学特論Ⅳ (藤川) 解析学特論Ⅶ (渚)	トポロジー (杉山) 計算理論 (新井)		
		4年次		数理解析学特論Ⅳ (藤川) 解析学特論Ⅶ (渚)			
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 微積分学演習B 2 [隔週] 1S数 線形代数学演習B 2 [隔週] 1S数	英語科目 英語 I R 47 1S 英語 I R 48 1S 英語 I R 49 1S 英語 I R 50 1S 英語 I R 51 1S 英語 I W12 1S			
金	学部	1年次		情報システム基礎論 (山本光)			
		2年次		位相空間論Ⅱ (筒井)		計算機科学概論 (山本光)	
		3年次		現代解析Ⅱ (松井)	ソフトウェア演習Ⅱ (桜井貴)		
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		初修外国語 ドイツ語3+4⑥ SNH園応食 ドイツ語3+4⑦ SNH園応食 フランス語3+4⑥ SNH園応食 フランス語3+4⑦ SNH園応食 中国語3+4⑩ SNH園応食 中国語3+4⑪ SNH園応食 中国語3+4⑫ SNH園応食	共通専門基礎科目 微積分学B 2 1S数		共通専門基礎科目 線形代数学C 4 [06S以前用] 2S数	

集	学部	3年次	4年次
中		代数学特論Ⅰ [通期] (烏倉) 職業的情報学Ⅰ [通期] 職業的情報学Ⅱ [通期] (伊知地、的場、阿部) 幾何学特論Ⅲ [通期] (小山) 数理解析学特論Ⅴ [通期] (山崎) 統計数理学特論Ⅵ [通期] (津熊) 情報数理学特論Ⅴ [通期] (河野) コンパイラ [通期] (山口)	卒業研究 [通期] (各教員) 代数学特論Ⅰ [通期] (烏倉) 職業的情報学Ⅰ [通期] 職業的情報学Ⅱ [通期] (伊知地、的場、阿部) 幾何学特論Ⅲ [通期] (小山) 数理解析学特論Ⅴ [通期] (山崎) 統計数理学特論Ⅵ [通期] (津熊) 情報数理学特論Ⅴ [通期] (河野) コンパイラ [通期] (山口)

物理学科 前期

月	学部	1年次	I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)
		1年次	現代物理学 (全教員、瀬戸):一部集中				
		2年次		力学演習 (海老原)			
		3年次				量子力学演習 I (中山)	統計物理学演習 I (横田)
		4年次			宇宙物理学 B (松元、吉田)		
	普遍教育科目 共通専門基礎科目			共通専門基礎科目 線形代数 B I S物			初修外国語 ドイツ語 1 + 2⑥ SNH 園応食 ドイツ語 1 + 2⑦ SNH 園応食 ドイツ語 1 + 2⑧ SNH 園応食 フランス語 1 + 2⑥ SNH 園応食 フランス語 1 + 2⑦ SNH 園応食 中国語 1 SNH 園応食 中国語 1 + 2⑩ SNH 園応食 中国語 1 + 2⑪ SNH 園応食 中国語 1 + 2⑫ SNH 園応食
火	学部	1年次					
		2年次				力学 (中村)	
		3年次		量子力学 I (倉澤)		計算物理学実習 I (宮路):一部集中	統計物理学 I (太田)
		4年次			統計物理学 III (太田)		
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理学 B I 力学入門 I 1S 数物	教養コア科目 B ところと発達 [前半] 1E 小 S C 芸術と文化 [後半] 1E 小 S	教養コア科目 E くらしと環境 [前半] 1E 小 S F いのちと科学 [後半] 1E 小 S	教養コア科目 A 論理と哲学 [前半] 1E 小 S D 社会と歴史 [後半] 1E 小 S	
水	学部	1年次	物理数学 I (櫻井)		物理数学演習 I (間瀬)		
		2年次					
		3年次		電磁気学特論 (中嶋)			
		4年次		電磁気学特論 (中嶋)			
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理化学 A E 理 S 物地	英語科目 英語 I L & S31 1S 英語 I L & S32 1S 英語 I L & S33 1S 英語 I L & S34 1S 英語 I L & S35 1S C A L L 英語⑥ 1S	共通専門基礎科目 物理学 C II 電磁気学入門 2 2S 数物	情報リテラシー科目 情報処理 1 S 物	共通専門基礎科目 物理学演習 C II [隔週] 2S 物
木	学部	1年次					
		2年次	計算物理学 (松元)		物理数学 III (山田篤)	物理数学演習 III (山田篤)	
		3年次		流体力学 (横井)	物性物理学 A (音)		
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 地学概論 A E 理 STH (教職用)	共通専門基礎科目 統計学 A 理系 物理学演習 B I [隔週] 1S 物	英語科目 英語 I L & S31 1S 英語 I L & S32 1S 英語 I L & S33 1S 英語 I L & S34 1S 英語 I L & S35 1S C A L L 英語⑥ 1S		
金	学部	1年次					
		2年次					
		3年次		特殊相対論 (吉田滋)	物理学実験 [通期] (全教員、福田、野田、高田)	物理学実験 [通期] (全教員、福田、野田、高田)	物理学実験 [通期] (全教員、福田、野田、高田)
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		初修外国語 ドイツ語 1 + 2⑥ SNH 園応食 ドイツ語 1 + 2⑦ SNH 園応食 ドイツ語 1 + 2⑧ SNH 園応食 フランス語 1 + 2⑥ SNH 園応食 フランス語 1 + 2⑦ SNH 園応食 中国語 1 + 2⑩ SNH 園応食 中国語 1 + 2⑪ SNH 園応食 中国語 1 + 2⑫ SNH 園応食	共通専門基礎科目 微積分学 B I S 物			

集	学部	2年次	計算物理学特別講義 I [通期] (全教員) 計算物理学特別講義 II [通期] (全教員)	3年次	非平衡系の統計物理学 [通期] (瀬戸) 物性物理学特論 [通期] (野村) 宇宙物理学特論 [通期] (北本) 計算物理学特別講義 I [通期] (全教員) 計算物理学特別講義 II [通期] (全教員)	4年次	卒業研究 [通期] (全教員) 基礎物理学演習 I [通期] (山田篤、他) 基礎物理学演習 II [通期] (松元、他) 基礎物理学演習 III [通期] (河合秀、他) 計算物理学演習 I [通期] (倉澤、他) 計算物理学演習 III [通期] (中山) 計算物理学演習 IV [通期] (太田) 凝縮系物理学演習 I [通期] (音、他) 凝縮系物理学演習 II [通期] (小堀、他) 凝縮系物理学演習 III [通期] (櫻井、他) 非平衡系の統計物理学 [通期] (瀬戸) 物性物理学特論 [通期] (野村) 宇宙物理学特論 [通期] (北本) 計算物理学特別講義 I [通期] (全教員) 計算物理学特別講義 II [通期] (全教員)
		中					

物理学科 後期

		I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)	
月	学部	1年次					
		2年次					
		3年次		量子力学演習Ⅱ(中田)	素粒子物理学(河合秀)		
		4年次		相対論特論(近藤)			
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理学CⅠ電磁気学入門Ⅰ 1S数物		共通専門基礎科目 物理学演習CⅠ[隔週] 1S物	共通専門基礎科目 物理学演習EⅠ[隔週] 2S物	初修外国語 ドイツ語3+4⑥ SNH園応食 ドイツ語3+4⑦ SNH園応食 フランス語3+4⑥ SNH園応食 フランス語3+4⑦ SNH園応食 中国語2 SNH園応食 中国語3+4⑩ SNH園応食 中国語3+4⑪ SNH園応食 中国語3+4⑫ SNH園応食
火	学部	1年次					
		2年次					
		3年次				物性物理学C(北畑)	統計物理学Ⅱ(太田)
		4年次		力学特論(近藤慶)	量子力学特論(倉澤)		
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理学BⅡ力学入門Ⅱ 1S数物	共通専門基礎科目 物理学演習BⅡ[隔週] 1S物	共通専門基礎科目 物理学基礎実験Ⅰ[1期] 1S物 物理学基礎実験Ⅱ[3期] 1S物 化学基礎実験[2期] S物生 生物学基礎実験Ⅰ[1期] 1S生以外 2T共・他(教職用) 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 物理学基礎実験Ⅰ[1期] 1S物 物理学基礎実験Ⅱ[3期] 1S物 化学基礎実験[2期] S物生 生物学基礎実験Ⅰ[1期] 1S生以外 2T共・他(教職用) 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 物理学基礎実験Ⅰ[1期] 1S物 物理学基礎実験Ⅱ[3期] 1S物 化学基礎実験[2期] S物生 生物学基礎実験Ⅰ[1期] 1S生以外 2T共・他(教職用) 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含)
水	学部	1年次	物理数学Ⅱ(倉澤)		物理数学演習Ⅱ(近藤慶)		
		2年次					
		3年次		物性物理学B(小堀、中嶋)	原子核物理学(中田)	宇宙物理学A(松元)	
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理化学B E理S物地	英語科目 英語ⅠR47 1S 英語ⅠR48 1S 英語ⅠR49 1S 英語ⅠR50 1S 英語ⅠR51 1S 英語ⅠW12 1S	共通専門基礎科目 地学基礎実験B[1期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 物理学DⅠ熱統計力学入門2S物 地学基礎実験B[1期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 物理学演習DⅠ[隔週] 2S物 物理学基礎実験B[1期] 理系 (教職用含)
木	学部	1年次					
		2年次			物理数学Ⅳ(岩崎)	物理数学演習Ⅳ(岩崎)	電磁気学演習(岩崎)
		3年次		量子力学Ⅱ(中山)			放射線物理学(福田、野田、高田)
		4年次					放射線物理学(福田、野田、高田)
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理学EⅠ量子力学入門Ⅱ 2S物 地学概論B E理STH(教職用)	共通専門基礎科目 線形代数BⅡ S物 物理学C電磁気学入門 S化地	英語科目 英語ⅠR47 1S 英語ⅠR48 1S 英語ⅠR49 1S 英語ⅠR50 1S 英語ⅠR51 1S 英語ⅠW12 1S		
金	学部	1年次					
		2年次	電磁気学(大濱)				
		3年次		統計物理学演習Ⅱ(山田)	物理学実験[通期] (全教員、福田、野田、高田)	物理学実験[通期] (全教員、福田、野田、高田)	物理学実験[通期] (全教員、福田、野田、高田)
		4年次				場の量子論入門(山田)	
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		初修外国語 ドイツ語3+4⑥ SNH園応食 ドイツ語3+4⑦ SNH園応食 フランス語3+4⑥ SNH園応食 フランス語3+4⑦ SNH園応食 中国語3+4⑩ SNH園応食 中国語3+4⑪ SNH園応食 中国語3+4⑫ SNH園応食	共通専門基礎科目 微積分学BⅡ S物			

集	学部	2年次	計算物理学特別講義Ⅰ[通期](全教員) 計算物理学特別講義Ⅱ[通期](全教員)	3年次	非平衡系の統計物理学[通期](瀬戸) 物性物理学特論[通期](野村) 宇宙物理学特論[通期](北本) 計算物理学特別講義Ⅰ[通期](全教員) 計算物理学特別講義Ⅱ[通期](全教員)	4年次	卒業研究[通期](全教員) 基礎物理学演習Ⅰ[通期](山田篤、他) 基礎物理学演習Ⅱ[通期](松元、他) 基礎物理学演習Ⅲ[通期](河合秀、他) 計算物理学演習Ⅰ[通期](倉澤、他) 計算物理学演習Ⅲ[通期](中山) 計算物理学演習Ⅳ[通期](太田) 凝縮系物理学演習Ⅰ[通期](音、他) 凝縮系物理学演習Ⅱ[通期](小堀、他) 凝縮系物理学演習Ⅲ[通期](櫻井、他) 非平衡系の統計物理学[通期](瀬戸) 物性物理学特論[通期](野村) 宇宙物理学特論[通期](北本) 計算物理学特別講義Ⅰ[通期](全教員) 計算物理学特別講義Ⅱ[通期](全教員)
		中					

化学科 前期

月	学部	1年次	I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)
火	学部	1年次		基礎無機化学Ⅰ (工藤)			
		2年次	無機化学Ⅰ (沼子)		基礎化学演習Ⅰ (二木)		
		3年次	有機化学演習Ⅰ (吉田和、森山)	有機化学Ⅱ (荒井)	量子化学Ⅱ (藤川高)	無機・分析化学演習Ⅰ (沼子)	
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目					情報リテラシー科目 情報処理 1 S化	初修外国語 ドイツ語1+2⑥ SNH園応食 ドイツ語1+2⑦ SNH園応食 ドイツ語1+2⑧ SNH園応食 フランス語1+2⑥ SNH園応食 フランス語1+2⑦ SNH園応食 中国語1 SNH園応食 中国語1+2⑩ SNH園応食 中国語1+2⑪ SNH園応食 中国語1+2⑫ SNH園応食
水	学部	1年次	基礎有機化学ⅠA (柳澤)				
		2年次	蛋白質・核酸化学Ⅰ (坂根)	化学統計熱力学Ⅰ (西川)			
		3年次		物性化学 (小西)	無機・分析化学実験Ⅱ (工藤、沼子) 有機化学実験Ⅱ (吉田和、森山)	無機・分析化学実験Ⅱ (工藤、沼子) 有機化学実験Ⅱ (吉田和、森山)	無機・分析化学実験Ⅱ (工藤、沼子) 有機化学実験Ⅱ (吉田和、森山)
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目			教養コア科目 B ことと発達[前半] 1E小S C 芸術と文化[後半] 1E小S	共通専門基礎科目 微積分学B 1 S化	教養コア科目 E くらしと環境[前半] 1E小S F いのちと科学[後半] 1E小S	教養コア科目 A 論理と哲学[前半] 1E小S D 社会と歴史[後半] 1E小S
木	学部	1年次		基本物理化学Ⅰ (泉)			
		2年次	分析化学Ⅰ (勝田)	基礎有機化学Ⅱ (柳澤)	無機・分析化学実験Ⅰ (勝田、沼子) 有機化学実験Ⅰ (荒井、森山)	無機・分析化学実験Ⅰ (勝田、沼子) 有機化学実験Ⅰ (荒井、森山)	無機・分析化学実験Ⅰ (勝田、沼子) 有機化学実験Ⅰ (荒井、森山)
		3年次		生化学研究法 (赤間)			
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 地学概論A E理STH (教職用)		英語科目 英語ⅠL&S31 1S 英語ⅠL&S32 1S 英語ⅠL&S33 1S 英語ⅠL&S34 1S 英語ⅠL&S35 1S CALLE英語⑥ 1S	共通専門基礎科目 物理学基礎実験Ⅰ[1期] 1S化生地1N 化学基礎実験[2期] S化ITテ建	共通専門基礎科目 物理学基礎実験Ⅰ[1期] 1S化生地1N 化学基礎実験[2期] S化ITテ建
金	学部	1年次				化学基礎セミナー (全教員)	
		2年次		化学英語 (仲吉)	無機・分析化学実験Ⅰ (勝田、沼子) 有機化学実験Ⅰ (荒井、森山)	無機・分析化学実験Ⅰ (勝田、沼子) 有機化学実験Ⅰ (荒井、森山)	無機・分析化学実験Ⅰ (勝田、沼子) 有機化学実験Ⅰ (荒井、森山)
		3年次	遺伝子生化学 (米澤)	化学英語 (仲吉)	生化学演習Ⅰ (米澤、他)		
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		初修外国語 ドイツ語1+2⑥ SNH園応食 ドイツ語1+2⑦ SNH園応食 ドイツ語1+2⑧ SNH園応食 フランス語1+2⑥ SNH園応食 フランス語1+2⑦ SNH園応食 中国語1+2⑩ SNH園応食 中国語1+2⑪ SNH園応食 中国語1+2⑫ SNH園応食	共通専門基礎科目 線形代数学B 1 S化			

集中	学部	1年次	2年次	3年次	4年次
			環境化学Ⅱ[通期] (保倉) 生物物理化学[通期] (田之倉) 構造有機化学[通期] (後藤) 有機工業化学[通期] (渡辺) 生化学特講[通期] (饗場)	環境化学Ⅱ[通期] (保倉) 生物物理化学[通期] (田之倉) 構造有機化学[通期] (後藤) 有機工業化学[通期] (渡辺) 生化学特講[通期] (饗場)	卒業研究[通期] (各教員) 生物物理化学[通期] (田之倉) 生化学特講[通期] (饗場)

化学科 後期

月	学部	1年次	I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)
		1年次	放射化学(入江)	基礎無機化学II(勝田)			
		2年次	有機元素化学(荒井) 放射化学(入江)		細胞生化学(村田)	量子化学I(小西)	
		3年次	有機元素化学(荒井) 放射化学(入江)		物質結合論(藤川高)	無機・分析化学演習II(勝田)	
		4年次					
普遍教育科目 共通専門基礎科目							初修外国語 ドイツ語3+4⑥ SNH園応食 ドイツ語3+4⑦ SNH園応食 フランス語3+4⑥ SNH園応食 フランス語3+4⑦ SNH園応食 中国語2 SNH園応食 中国語3+4⑩ SNH園応食 中国語3+4⑪ SNH園応食 中国語3+4⑫ SNH園応食
火	学部	1年次					
		2年次	無機化学II(工藤)	分析化学II(沼子)			
		3年次	無機化学II(工藤)	分析化学II(沼子)	物理化学実験II(城田、他) 生化学実験II(村田、他)	物理化学実験II(城田、他) 生化学実験II(村田、他)	物理化学実験II(城田、他) 生化学実験II(村田、他)
		4年次					
普遍教育科目 共通専門基礎科目			共通専門基礎科目 生命科学入門 1S生以外 1Tメナ共1E中技		共通専門基礎科目 微積分学B2 S化 生物学基礎実験I[1期] 1S生以外 2T共・他 (教職用) 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 生物学基礎実験I[1期] 1S生以外 2T共・他 (教職用) 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 生物学基礎実験I[1期] 1S生以外 2T共・他 (教職用) 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含)
水	学部	1年次	基礎有機化学IB(柳澤)				
		2年次	蛋白質・核酸化学II(坂根)	化学統計熱力学II(西川) 有機反応機構論(東郷)			
		3年次	免疫化学(米澤)	有機反応機構論(東郷)	物理化学実験II(城田、他) 生化学実験II(村田、他)	物理化学実験II(城田、他) 生化学実験II(村田、他)	物理化学実験II(城田、他) 生化学実験II(村田、他)
		4年次					
普遍教育科目 共通専門基礎科目			英語科目 英語I R47 1S 英語I R48 1S 英語I R49 1S 英語I R50 1S 英語I R51 1S 英語I W12 1S	共通専門基礎科目 地学基礎実験B[1期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 地学基礎実験B[1期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 地学基礎実験B[1期] 理系 (教職用含)	
木	学部	1年次					
		2年次		酵素化学(赤間)	物理化学実験I(城田、他) 生化学実験I(米澤、他)	物理化学実験I(城田、他) 生化学実験I(米澤、他)	物理化学実験I(城田、他) 生化学実験I(米澤、他)
		3年次	有機化学演習II(吉田和、森山)	分子分光化学(城田)			
		4年次					
普遍教育科目 共通専門基礎科目			共通専門基礎科目 地学概論B E理STH(教職用)	共通専門基礎科目 物理学C電磁気学入門 S化地	英語科目 英語I R47 1S 英語I R48 1S 英語I R49 1S 英語I R50 1S 英語I R51 1S 英語I W12 1S		
金	学部	1年次					
		2年次		有機化学I(東郷)	物理化学実験I(城田、他) 生化学実験I(米澤、他)	物理化学実験I(城田、他) 生化学実験I(米澤、他)	物理化学実験I(城田、他) 生化学実験I(米澤、他)
		3年次		表面物理化学(加納)		生化学演習II(坂根、村田)	
		4年次					
普遍教育科目 共通専門基礎科目			初修外国語 ドイツ語3+4⑥ SNH園応食 ドイツ語3+4⑦ SNH園応食 フランス語3+4⑥ SNH園応食 フランス語3+4⑦ SNH園応食 中国語3+4⑩ SNH園応食 中国語3+4⑪ SNH園応食 中国語3+4⑫ SNH園応食	共通専門基礎科目 線形代数B2 S化			
普遍教育科目 共通専門基礎科目							

集中	学部	1年次	2年次	3年次	4年次
			環境化学II[通期](保倉) 生物物理化学[通期](田之倉) 構造有機化学[通期](後藤) 有機工業化学[通期](渡辺) 生化学特講[通期](饗場)	環境化学II[通期](保倉) 生物物理化学[通期](田之倉) 構造有機化学[通期](後藤) 有機工業化学[通期](渡辺) 生化学特講[通期](饗場)	卒業研究[通期](各教員) 生物物理化学[通期](田之倉) 生化学特講[通期](饗場)

生物学科 前期

月	学部	1年次	I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)		
		1年次		生命科学B5 (土谷、村上) 生命科学B6 (綿野、他) 生命科学B2 (松浦、他)					
		2年次		発生生物学I (阿部洋)	実験:特定期間				
		3年次		発生生物学I (阿部洋)	実験:特定期間				
		4年次		生理学演習[通期] (山本啓、他) 発生生物学I (阿部洋)					
		普遍教育科目 共通専門基礎科目			共通専門基礎科目 統計学A 生物学基礎実験2 理系 1S生	共通専門基礎科目 生物学基礎実験2 1S生	初修外国語 ドイツ語1+2⑥ SNH園応食 ドイツ語1+2⑦ SNH園応食 ドイツ語1+2⑧ SNH園応食 フランス語1+2⑥ SNH園応食 フランス語1+2⑦ SNH園応食 中国語1 中国語1+2⑩ SNH園応食 中国語1+2⑪ SNH園応食 中国語1+2⑫ SNH園応食		
火	学部	1年次							
		2年次	分子進化発生学I (小笠原)		実験:特定期間				
		3年次	分子進化発生学I (小笠原)	細胞・組織分化制御学(佐野成)	実験:特定期間				
		4年次	系統学演習[通期] (綿野、他) 分子進化発生学I (小笠原)	系統学演習[通期] (綿野、他) 細胞・組織分化制御学(佐野成)	生態学演習[通期] (土谷)	水界生態学演習[通期] (富樫)			
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	共通専門基礎科目 物理学A I入門 理系文系	教養コア科目 B ことと発達[前半] 1E小S C 芸術と文化[後半] 1E小S	共通専門基礎科目 微積分B1 S化	教養コア科目 Eくらしと環境[前半] 1E小S Fいのちと科学[後半] 1E小S	教養コア科目 A 論理と哲学[前半] 1E小S D 社会と歴史[後半] 1E小S		
水	学部	1年次							
		2年次		植物系統学I (梶田)	実験:特定期間				
		3年次		植物系統学I (梶田)	実験:特定期間				
		4年次		発生生物学演習[通期] (阿部洋、他) 植物系統学I (梶田)		生態学演習[通期] (村上)	水界生態学演習[通期] (菊地)		
		普遍教育科目 共通専門基礎科目		英語科目 英語I L & S31 1S 英語I L & S32 1S 英語I L & S33 1S 英語I L & S34 1S 英語I L & S35 1S C A L L 英語⑥ 1S	共通専門基礎科目 統計学A 物理学基礎実験I [1期] 理系 1S化生1N	共通専門基礎科目 物理学基礎実験I [1期] 1S化生1N	共通専門基礎科目 物理学基礎実験I [1期] 1S化生1N		
木	学部	1年次		生命科学B5 (土谷、村上) 生命科学B6 (綿野、他) 生命科学B2 (松浦、他)					
		2年次	生理化学II (大橋)	分子生命情報学II (遠藤)	実験:特定期間				
		3年次	生理化学II (大橋)	分子生命情報学II (遠藤)	実験:特定期間				
		4年次	生理化学II (大橋)	分子生命情報学II (遠藤)					
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	共通専門基礎科目 地学概論A E理STH(教職用)	共通専門基礎科目 統計学A 理系	英語科目 英語I L & S31 1S 英語I L & S32 1S 英語I L & S33 1S 英語I L & S34 1S 英語I L & S35 1S C A L L 英語⑥ 1S		情報リテラシー科目 情報処理 1S生		
金	学部	1年次		生命科学B5 (土谷、村上) 生命科学B6 (綿野、他) 生命科学B2 (松浦、他)			生物学セミナー(全教員)		
		2年次	形態形成学(野川)	分子生理学I (山本啓)					
		3年次	形態形成学(野川)	分子生理学I (山本啓)					
		4年次	形態形成学(野川)	分子生理学I (山本啓)	細胞生物学演習[通期] (大橋、他)	分子生物学演習[通期] (田村、他)			
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	初修外国語 ドイツ語1+2⑥ SNH園応食 ドイツ語1+2⑦ SNH園応食 ドイツ語1+2⑧ SNH園応食 フランス語1+2⑥ SNH園応食 フランス語1+2⑦ SNH園応食 中国語1+2⑩ SNH園応食 中国語1+2⑪ SNH園応食 中国語1+2⑫ SNH園応食						
集 中	学部	1年次	系統学特講A (石田) 生態学特講A (富田) 生態学特講A (野田)	2年次	分子生物学特講A [通期] (深見) 生理化学特講A [通期] (神澤) 細胞生物学特講A [通期] (戸島) 発生生物学特講A [通期] (沼田) 系統学特講A (石田) 生態学特講A (富田) 生態学特講B (野田) 分子生理学II (山本)	3年次	分子生物学特講A [通期] (深見) 生理化学特講A [通期] (神澤) 細胞生物学特講A [通期] (戸島) 発生生物学特講A [通期] (沼田) 系統学特講A (石田) 生態学特講A (富田) 生態学特講B (野田) 分子生理学II (山本)	4年次	卒業研究[通期] (各教員) 分子生物学特講A [通期] (深見) 生理化学特講A [通期] (神澤) 細胞生物学特講A [通期] (戸島) 発生生物学特講A [通期] (沼田) 系統学特講A (石田) 生態学特講A (富田) 生態学特講B (野田) 分子生理学II (山本)
		1年次	植物分類学野外実験[通期] (綿野、他)	2年次	植物分類学野外実験[通期] (綿野、他) 発生生物学実験I [通期] (阿部洋) 組織学実験[月・水] (野川) 細胞遺伝学実験[通期] (石川) 動物学臨海実験[通期] (菊地) 系統学実験I [通期] (梶田、他) 生態学実験I [通期] (土谷) 生態学実験II [通期] (村上) 植物学臨海実験[通期] (富樫)	3年次	植物分類学野外実験[通期] (綿野、他) 発生生物学実験I [通期] (土谷) 生態学実験II [通期] (村上) 植物学臨海実験[通期] (富樫) 分子生物学実験I [通期] (田村) 分子生物学実験II [通期] (遠藤、他) 分子生物学実験III [通期] (小笠原) 生理学実験I [通期] (大橋、他) 生理学実験II [通期] (伊藤光) 生理学実験III [通期] (山本) 細胞生物学実験[通期] (松浦) 発生生物学実験II [通期] (佐藤成) 系統学実験II [通期] (綿野、他) 動物学臨海実験[通期] (菊地)		
特 定 期 間	学部	1年次	植物分類学野外実験[通期] (綿野、他)	2年次	植物分類学野外実験[通期] (綿野、他) 発生生物学実験I [通期] (阿部洋) 組織学実験[月・水] (野川) 細胞遺伝学実験[通期] (石川) 動物学臨海実験[通期] (菊地) 系統学実験I [通期] (梶田、他) 生態学実験I [通期] (土谷) 生態学実験II [通期] (村上) 植物学臨海実験[通期] (富樫)	3年次	植物分類学野外実験[通期] (綿野、他) 発生生物学実験I [通期] (土谷) 生態学実験II [通期] (村上) 植物学臨海実験[通期] (富樫) 分子生物学実験I [通期] (田村) 分子生物学実験II [通期] (遠藤、他) 分子生物学実験III [通期] (小笠原) 生理学実験I [通期] (大橋、他) 生理学実験II [通期] (伊藤光) 生理学実験III [通期] (山本) 細胞生物学実験[通期] (松浦) 発生生物学実験II [通期] (佐藤成) 系統学実験II [通期] (綿野、他) 動物学臨海実験[通期] (菊地)		

生物学科 後期

		I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)			
月	学部	1年次		生命科学B I (阿部洋、他) 生命科学B 4 (山本啓、他)					
		2年次	発生生物学II (佐藤、他)		実験:特定期間				
		3年次	発生生物学II (佐藤、他)		実験:特定期間				
		4年次	発生生物学II (佐藤、他)	生理学演習[通期] (山本、他)					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目						初修外国語 ドイツ語3+4⑥ SNH園応食 ドイツ語3+4⑦ SNH園応食 フランス語3+4⑥ SNH園応食 フランス語3+4⑦ SNH園応食 中国語2 SNH園応食 中国語3+4⑩ SNH園応食 中国語3+4⑪ SNH園応食 中国語3+4⑫ SNH園応食		
火	学部	1年次							
		2年次	細胞構築学(松浦)	植物生態学(土谷)	実験:特定期間				
		3年次	細胞構築学(松浦)	植物生態学(土谷)	実験:特定期間				
		4年次	系統学演習[通期](綿野、他) 細胞構築学(松浦)	系統学演習[通期](綿野、他) 植物生態学(土谷)	生態学演習[通期](土谷)	水界生態学演習[通期](富樫、他)			
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理学A I入門 理系文系H	共通専門基礎科目 物理学A I入門 理系文系H	共通専門基礎科目 化学基礎実験[2期] S物生地 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 化学基礎実験[2期] S物生地 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 化学基礎実験[2期] S物生地 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含)		
水	学部	1年次							
		2年次	分子生物学II (田村)	進化生物学II (綿野)	実験:特定期間				
		3年次	分子生物学II (田村)	進化生物学II (綿野)	実験:特定期間				
		4年次	分子生物学II (田村) 免疫化学(米澤)	発生生物学演習[通期](阿部洋、他) 進化生物学II (綿野)		生態学演習[通期](村上)	水界生態学演習[通期](菊地)		
	普遍教育科目 共通専門基礎科目			英語科目 英語I R47 1S 英語I R48 1S 英語I R49 1S 英語I R50 1S 英語I R51 1S 英語I W12 1S	共通専門基礎科目 地学基礎実験B[1期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 地学基礎実験B[1期] 理系 (教職用含)	共通専門基礎科目 地学基礎実験B[1期] 理系 (教職用含)		
木	学部	1年次	生命科学B 3 (分子生物学入門) (田村、他)						
		2年次	生体分子機能学I (伊藤光)	生体構造学II (石川)	実験:特定期間				
		3年次	生体分子機能学I (伊藤光)	生体構造学II (石川)	実験:特定期間 科学英語III (J.Dennison)				
		4年次	生体分子機能学I (伊藤光)	生体構造学II (石川)					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 地学概論B E.理STH(教職用)	共通専門基礎科目 統計学A 理系	英語科目 英語I R47 1S 英語I R48 1S 英語I R49 1S 英語I R50 1S 英語I R51 1S 英語I W12 1S				
金	学部	1年次		生命科学B I (阿部洋、他) 生命科学B 4 (山本啓、他)		特別演習 I (山本啓、他)			
		2年次	動物生態学(村上)	海洋生物学(富樫、他)	科学英語(仲吉)				
		3年次	動物生態学(村上)	海洋生物学(富樫、他)	科学英語(仲吉)				
		4年次	動物生態学(村上)	海洋生物学(富樫、他)	細胞生物学演習[通期](大橋、他) 科学英語(仲吉)		分子生物学演習[通期](田村、他)		
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		初修外国語 ドイツ語3+4⑥ SNH園応食 ドイツ語3+4⑦ SNH園応食 フランス語3+4⑥ SNH園応食 フランス語3+4⑦ SNH園応食 中国語3+4⑩ SNH園応食 中国語3+4⑪ SNH園応食 中国語3+4⑫ SNH園応食						
集中	学部	1年次	系統学特講A(石田) 生態学特講A(富田) 生態学特講B(野田)	2年次	分子生物学特講A[通期](深見) 生理化学特講A[通期](神澤) 細胞生物学特講A[通期](戸島) 発生生物学特講A[通期](沼田) 系統学特講A(石田) 野外生態学実験(尾崎) 海洋生物学(未定) 生態学特講A(富田) 生態学特講B(野田) 分子生理学II(山本)	3年次	分子生物学特講A[通期](深見) 生理化学特講A[通期](神澤) 細胞生物学特講A[通期](戸島) 発生生物学特講A[通期](沼田) 系統学特講A(石田) 野外生態学実験(尾崎) 海洋生物学(未定) 生態学特講A(富田) 生態学特講B(野田) 分子生理学II(山本)	4年次	卒業研究[通期](各教員) 分子生物学特講A[通期](深見) 生理化学特講A[通期](神澤) 細胞生物学特講A[通期](戸島) 発生生物学特講A[通期](沼田) 系統学特講A(石田) 海洋生物学(未定) 生態学特講A(富田) 生態学特講B(野田) 分子生理学II(山本)
		1年次	植物分類学野外実験[通期](綿野、他)	2年次	植物分類学野外実験[通期](綿野、他) 発生生物学実験I[通期](阿部洋) 組織学実験[月・水](野川) 細胞遺伝学実験[通期](石川) 動物学臨海実験[通期](未定) 系統学実験I[通期](梶田、他) 生態学実験I[通期](土谷) 生態学実験II[通期](村上) 植物学臨海実験[通期](富樫)	3年次	植物分類学野外実験[通期](綿野、他) 生態学実験I[通期](土谷) 生態学実験II[通期](村上) 植物学臨海実験[通期](富樫) 分子生物学実験I[通期](田村) 分子生物学実験II[通期](遠藤、他) 分子生物学実験III[通期](小笠原) 生理学実験I[通期](大橋、他) 生理学実験II[通期](伊藤光) 生理学実験III[通期](山本) 細胞生物学実験[通期](松浦) 発生生物学実験II[通期](佐藤成) 系統学実験II[通期](綿野、他) 動物学臨海実験[通期](菊地)		

地球科学科 前期

月	学部	1年次	I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)
		1年次					
		2年次		環境リモートセンシング概論 (近藤、他)	基礎測量学[隔週] (大木) 測量学実験[隔週] (大木)	基礎測量学[隔週] (大木) 測量学実験[隔週] (大木)	地質調査法 (亀尾、他)
		3年次		地殻構造学Ⅱ (金川)	地殻構造学実験Ⅰ (金川) 基礎測量学[隔週] (大木) 測量学実験[隔週] (大木)	地殻構造学実験Ⅰ (金川) 基礎測量学[隔週] (大木) 測量学実験[隔週] (大木)	地殻構造学実験Ⅰ (金川)
		4年次			基礎測量学[隔週] (大木) 測量学実験[隔週] (大木)	基礎測量学[隔週] (大木) 測量学実験[隔週] (大木)	
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 地球科学基礎化学 S地	共通専門基礎科目 地球科学入門Ⅰ S地			初修外国語 ドイツ語1+2⑥ SNH園応食 ドイツ語1+2⑦ SNH園応食 ドイツ語1+2⑧ SNH園応食 フランス語1+2⑥ SNH園応食 フランス語1+2⑦ SNH園応食 中国語Ⅰ SNH園応食 中国語1+2⑩ SNH園応食 中国語1+2⑪ SNH園応食 中国語1+2⑫ SNH園応食
火	学部	1年次					
		2年次	地球ダイナミクス概論 (佐藤利、他)	岩石鉱物学概論Ⅰ (井上、他)			
		3年次	地形学Ⅱ (金田)	地球物理学Ⅲ (佐藤利)	地球物理学実験Ⅰ (津村、他)	地球物理学実験Ⅰ (津村、他)	地球物理学実験Ⅰ (津村、他)
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 物理学AⅠ入門 理系文系 B ことと発達[前半] 1E小S C 芸術と文化[後半] 1E小S	教養コア科目 E くらしと環境[前半] 1E小S F いのちと科学[後半] 1E小S	教養コア科目 A 論理と哲学[前半] 1E小S D 社会と歴史[後半] 1E小S		
水	学部	1年次					
		2年次		層序学概論 (亀尾、他)		地球科学基礎数学 (鎌田)	
		3年次	堆積学Ⅰ (伊藤愼)	岩石学Ⅱ (廣井)	地史古生物学実験Ⅰ (亀尾、他)	地史古生物学実験Ⅰ (亀尾、他)	地史古生物学実験Ⅰ (亀尾、他)
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目	共通専門基礎科目 物理化学A E理S物地	英語科目 英語ⅠL&S31 1S 英語ⅠL&S32 1S 英語ⅠL&S33 1S 英語ⅠL&S34 1S 英語ⅠL&S35 1S CALLE英語⑥ 1S	共通専門基礎科目 統計学A 理系 物理学基礎実験Ⅰ[1期] 1S 1S化生地1N	共通専門基礎科目 物理学基礎実験Ⅰ[1期] 1S 1S化生地1N	共通専門基礎科目 物理学基礎実験Ⅰ[1期] 1S 1S化生地1N	
木	学部	1年次	地球科学基礎セミナー (全教員、1年担任を含む)				
		2年次		地球物理学Ⅰ (中西)			
		3年次	堆積学Ⅱ (吉田修、他)	地球生理学 (竹内)			水文学Ⅰ (近藤昭)
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 統計学A 理系	英語科目 英語ⅠL&S31 1S 英語ⅠL&S32 1S 英語ⅠL&S33 1S 英語ⅠL&S34 1S 英語ⅠL&S35 1S CALLE英語⑥ 1S	共通専門基礎科目 物理学B力学入門 S化地		
金	学部	1年次					
		2年次		天気と大気科学 (高村)			
		3年次	鉱物学Ⅱ (井上)	天気と大気科学 (高村) 地史古生物学Ⅰ (小竹)	岩石鉱物学実験Ⅱ (廣井、他)	岩石鉱物学実験Ⅱ (廣井、他)	情報地球科学Ⅰ (服部)
		4年次					
	普遍教育科目 共通専門基礎科目	初修外国語 ドイツ語1+2⑥ SNH園応食 ドイツ語1+2⑦ SNH園応食 ドイツ語1+2⑧ SNH園応食 フランス語1+2⑥ SNH園応食 フランス語1+2⑦ SNH園応食 中国語1+2⑩ SNH園応食 中国語1+2⑪ SNH園応食 中国語1+2⑫ SNH園応食	共通専門基礎科目 微積分学A S地E			情報リテラシー科目 情報処理 1S地	

集中	学部	2年次	3年次	4年次
		岩石学野外実験 (津久井、他)	地殻構造学野外実験Ⅰ (金川) 地形学実験Ⅱ (宮内、他) 雪氷学実験 (竹内、戸丸) 地質学野外実験Ⅱ (金川、他) 堆積学実験Ⅰ (伊藤愼、他)	地球科学演習[通期] (全教員) 卒業研究[通期] (全教員)

地球科学科 後期

月	学部	1年次	I (8:50~10:20)	II (10:30~12:00)	III (12:50~14:20)	IV (14:30~16:00)	V (16:10~17:40)
		2年次	地殻構造学Ⅰ (金川)	地表動態学概論 (宮内、他)			
		3年次			地殻構造学実験Ⅱ (金川)	地殻構造学実験Ⅱ (金川)	地殻構造学実験Ⅱ (金川)
		4年次					
		普遍教育科目 共通専門基礎科目			共通専門基礎科目 地球科学入門Ⅱ S地		初修外国語 ドイツ語3+4⑥ SNH園応食 ドイツ語3+4⑦ SNH園応食 フランス語3+4⑥ SNH園応食 フランス語3+4⑦ SNH園応食 中国語2 SNH園応食 中国語3+4⑩ SNH園応食 中国語3+4⑪ SNH園応食 中国語3+4⑫ SNH園応食
火	学部	1年次					
		2年次			生物地球化学実験 (竹内、戸丸)	生物地球化学実験 (竹内、戸丸)	生物地球化学実験 (竹内、戸丸)
		3年次		表層環境化学 (戸丸)	地球物理学実験Ⅱ (佐藤利、他)	地球物理学実験Ⅱ (佐藤利、他)	地球物理学実験Ⅱ (佐藤利、他)
		4年次					
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	共通専門基礎科目 物理学AⅠ入門 理系文系H 生命科学入門 1S以外 ITメナ共IE中技	共通専門基礎科目 物理学AⅠ入門 理系文系H	共通専門基礎科目 化学基礎実験[2期] S物生地 生物学基礎実験1[1期] 1S生以外 2T共・他 (教職用) 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含) 地学基礎実験D[1期] S地	共通専門基礎科目 化学基礎実験[2期] S物生地 生物学基礎実験1[1期] 1S生以外 2T共・他 (教職用) 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含) 地学基礎実験D[1期] S地	共通専門基礎科目 化学基礎実験[2期] S物生地 生物学基礎実験1[1期] 1S生以外 2T共・他 (教職用) 地学基礎実験B[3期] 理系 (教職用含) 地学基礎実験D[1期] S地
水	学部	1年次					
		2年次	岩石学ⅠA (津久井)	岩石鉱物学概論Ⅱ (井上、他)	岩石鉱物学実験Ⅰ (井上、他)	岩石鉱物学実験Ⅰ (井上、他)	
		3年次		地形学Ⅰ (宮内)	地史古生物学Ⅲ (亀尾、他)		
		4年次					
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	共通専門基礎科目 物理化学B E理S物地	英語科目 英語ⅠR47 1S 英語ⅠR48 1S 英語ⅠR49 1S 英語ⅠR50 1S 英語ⅠR51 1S 英語ⅠW12 1S			
木	学部	1年次					
		2年次	地球科学英語 (吉田修)				
		3年次	堆積学Ⅲ (伊藤慎)	リモートセンシング入門 (建石)	地史古生物学実験Ⅱ (小竹、他)	地史古生物学実験Ⅱ (小竹、他)	地史古生物学実験Ⅱ (小竹、他)
		4年次					
		普遍教育科目 共通専門基礎科目		共通専門基礎科目 統計学A 理系 物理学C電磁気学入門 S化地	英語科目 英語ⅠR47 1S 英語ⅠR48 1S 英語ⅠR49 1S 英語ⅠR50 1S 英語ⅠR51 1S 英語ⅠW12 1S		
金	学部	1年次					
		2年次	地球物理学Ⅱ (服部)		地史古生物学Ⅱ (小竹)		
		3年次		情報地球科学Ⅱ (中西、他)	リモートセンシング・GIS実習 (近藤昭、他)	リモートセンシング・GIS実習 (近藤昭、他)	リモートセンシング・GIS実習 (近藤昭、他)
		4年次					
		普遍教育科目 共通専門基礎科目	初修外国語 ドイツ語3+4⑥ SNH園応食 ドイツ語3+4⑦ SNH園応食 フランス語3+4① SNH園応食 フランス語3+4⑧ SNH園応食 中国語3+4⑨ SNH園応食 中国語3+4⑩ SNH園応食	共通専門基礎科目 線形代数A S地E 化学 S地	共通専門基礎科目 地学基礎実験D[1期] S地	共通専門基礎科目 地学基礎実験D[1期] S地	共通専門基礎科目 地学基礎実験D[1期] S地

集中	学部	2年次	地質学野外実験Ⅰ (伊藤慎、他) 地球科学・技術者倫理 (横山、他)	3年次	地球科学・技術者倫理 (横山、他) 岩石鉱物学実験Ⅲ (廣井、他) 堆積学実験Ⅱ (吉田修、他) 地殻構造学野外実験Ⅱ (金川、他) 地球化学実験 (戸丸、竹内)	4年次	地球科学演習[通期] (全教員) 卒業研究[通期] (全教員)
----	----	-----	---------------------------------------	-----	---	-----	------------------------------------

15 学生への成績通知について

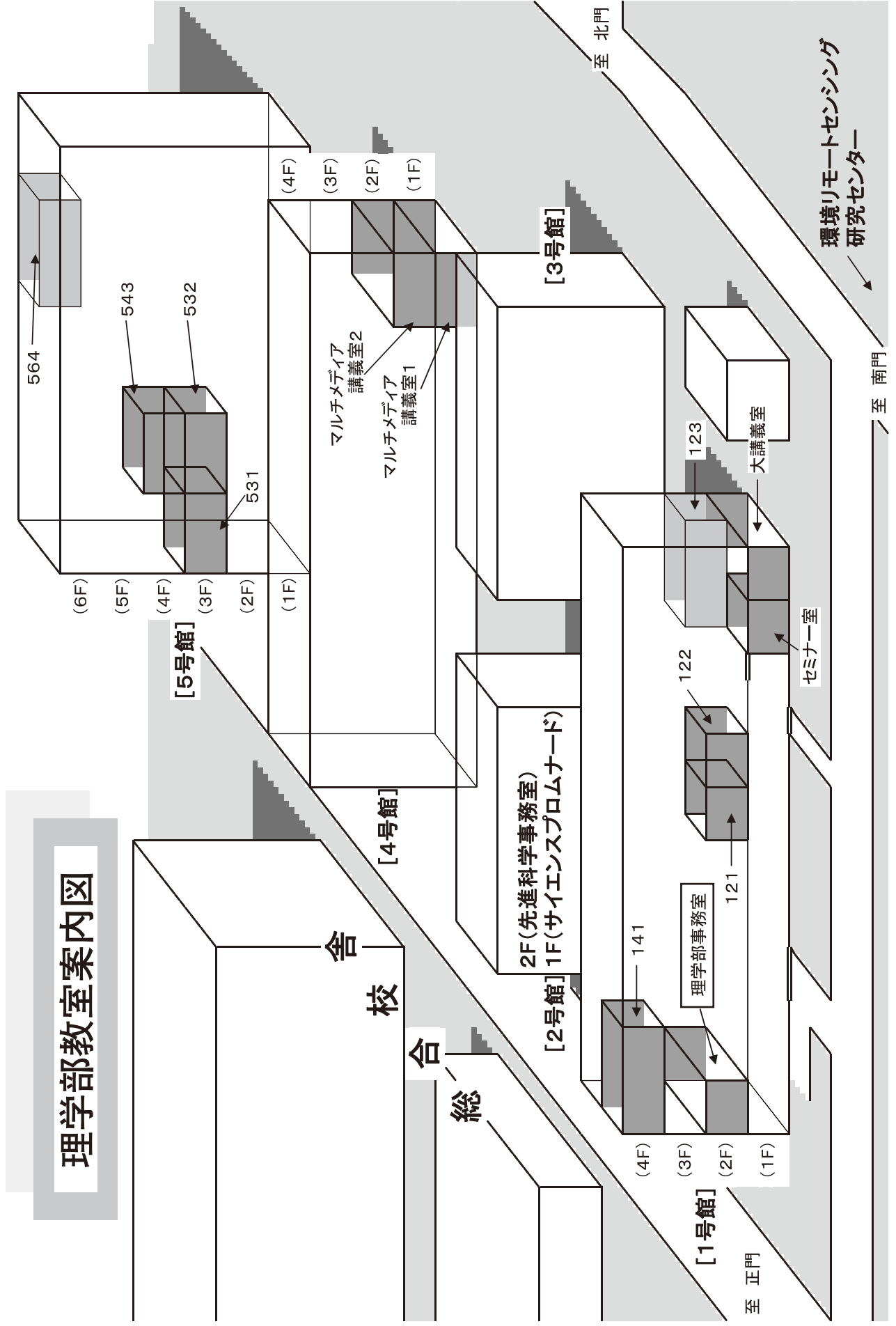
理学部学生の成績は、各 Semester 末に「成績通知表」を郵送によりお知らせしています。

平成25年度の成績通知については、履修登録システムにて登録されている学生基本情報を基に、前期 Semester 分は9月下旬までに、後期 Semester 分は3月下旬までに郵送する予定です。

なお、住所が変更になった場合には、速やかに履修登録システムにて学生基本情報の変更を行ってください。

また、帰省等による成績通知表の送付先変更も可能とします。変更方法等の詳細は平成25年6月末までに掲示にてお知らせします。

理学部教室案内図



学生証番号
氏 名